

2015年（平成27年）実施

第11回「学習意識調査」報告書

— 藤沢市立中学校3年生の学習意識 —



2016.3

藤沢市教育文化センター

はじめに

この調査は、藤沢市立中学校3年生を対象に、ほぼ同じ質問内容で、1965年(昭和40年)から5年ごとに実施し、今回で11回目を数えることになりました。実に調査を開始してから50年を重ねることとなります。調査のねらいとしては、生徒の学習意欲の変化を調べるだけでなく、時代の変遷とともに生徒の学習に関する意識を読み取り、これから藤沢の教育を考える上で貴重な資料を提供していくことがあります。

調査を開始した初期は、生徒の学習適応状態、つまり学習に対する態度、習慣、身体的条件が、生徒の学力にどのように影響しているかを探る目的で、「学習適応調査」として実施していました。しかし、第6回(1990年)の調査からは、それまでの学習適応観(学力の向上のためには管理が行われ適応させることが大切)を見直し、広い視野から生徒の学習に関する意識を調べる「学習意識調査」として実施するようになり、今回まで回を重ねてきました。この間、調査項目の一部を必要に応じて加えたり、削除したりした経緯はありますが、ほぼ同じ内容の質問を50年間継続してきたことは大きな特徴であり、中学校3年生の学習に関する意識の変化を時代とともに捉え続けてきたという点においては、他に類を見ない調査であると思います。

今回の調査では、これまで継続してきた質問項目に加え、前回の調査後に行った補足調査の結果を踏まえ、新たに「学習方略」の項目を設定しました。生徒が用いている勉強のやり方、つまり学習方略と学習意欲との関連を調べるとともに、学習意欲を高める学習方略についても探ろうと取り組みました。

今回の調査結果で特徴的だったこととしては、一つ目に、継続調査項目の中で、「帰宅後の勉強時間」「学校の勉強の理解度」「勉強の意欲」の3つが、前回を上回る結果となっていたことがあげられます。二つ目は、前回までの調査結果と大きな変化のあった項目として、「学校の中で一番大切に思うもの」で、生徒の最重要事項であった「友達づきあい」が大きく減少した中で、「勉強」をあげた生徒の割合が大幅に增加了ことです。こうした結果等から、勉強に対する意識が高まっていることがわかりました。

これらの項目は、1975年頃から顕著な減少傾向を示し、2000年から2005年にかけて最も低い割合になっていましたが、前回の調査から増加に転じ、今回はさらにその数値を伸す結果となりました。一方気がかりな点としては、「勉強の意欲」で「勉強はもうしたくない」が微増しており、「勉強の意欲」について二極化的傾向が見られたことです。また、「勉強のイメージ」についても、「受験のための準備」が増加し、「人とのかかわり方を学ぶ」や「自分の生き方を見つけること」等、学校の意義ともいべき、私たちがこれまで授業の中で大切にしてきた学びのイメージが減少していたことです。

こうした推移の背景には、学校現場の地道な授業改善やきめ細かな指導等の成果があげられるが、急速な社会の変化や国の教育施策の動き・本県の入試制度の変遷も少なからず影響していたように思います。

新設項目では、「学習方略」と「学習意欲」には相関があるということがわかり、生徒がよく用いている学習方略とそうでない学習方略とが、学習意欲とどうかかわっているか、学習意欲の高い生徒がどんな学習方略を実践していたかも明らかになりました。こうした結果を参考に、それぞれの生徒にとっての効果的な勉強のやり方や、実感を伴って取り組める勉強方法が確立できるようご指導いただけることを期待します。

学校教育法の改正(平成19年)によって、主体的に学習に取り組む態度が、学力の3要素の一つとして示されました。国際的な学力調査の結果からも、学習意欲について課題が指摘されており、各学校では、その解決に向けて様々な工夫をしています。生徒に「主体的に学ぶ力」「学習意欲」といった「学びに向かう力」をはぐくんでいくために、本調査のデータを活用し、生徒の学習意識に対する傾向をつかみ、授業の工夫・改善や学習方略の教授等に役立てていただきたいと願っております。

2016年3月

藤沢市教育文化センター長

上條 茂

一目次一

はじめに

第1章 調査の概要 ······	1	第3章 新設項目「学習方略」 ······	71
1. 調査の主旨		1. 学習方略（新設項目）	···72
2. 調査項目について		2. 学習方略と勉強の意欲との関連	···74
3. 予備調査について			
4. 調査の対象			
5. 調査の方法			
6. 調査の実施期間			
7. 集計の方法			
『質問紙』			
第2章 調査結果および考察 ······	13	第4章 調査のまとめと今後の課題 ······	81
1. 帰宅後の勉強時間	···14	1. 50年間の時系列比較	
2. 学校の勉強の理解度	···21	2. 勉強の意欲の二極化	
3. 学校の勉強についていく自信	···24	3. 今回の調査から考える学校の意義	
4. 勉強の意欲	···26	4. 勉強の意欲と学習方略との関連	
5. 勉強への集中度	···31	5. 今後の課題	
6. 勉強以外の自由時間に対する願望	···33		
7. 勉強に関する悩み事の相談相手	···35		
8. 勉強以外の悩み事の相談相手	···38		
9. 学校の中で一番大切に思うもの	···41	資料 ······	87
10. 学校以外での習い事	···43	1. 2015年学習意識調査結果一覧	
11. 期待する授業	···47	2. 神奈川県公立高等学校入学者選抜制度	
12. 学習意欲	···57	(平成28年度)の概要	
13. 勉強という言葉から 思い浮かべるイメージ	···67	3. 50年間の主な出来事	
		おわりに	



第1章

調査の概要

1. 調査の主旨

当センターでは、1965（昭和40）年以降、5年毎に繰り返し、ほぼ同一内容の質問紙を用いて市内の中学校3年生の学習意識を調査してきた。長期間にわたって継続してきたねらいは、その時々における生徒の学習意識だけでなく、時代の趨勢を読み取り、これからの教育の方向を見定めるまでの重要な基礎資料を得るとともに、その成果を学校の教育計画立案推進のための基礎的資料として広く提示していくことがある。

折しも2015（平成27）年実施の「第11回学習意識調査」は、調査開始から数えて50年目にあたる。そこで、今回の調査では、生徒の学習意識がこの50年間でどのように変化してきたのかを長期的な視野に立って把握するとともに、前回の2010（平成22）年に行った「第10回学習意識調査」以降この5年間の間には、新学習指導要領の全面実施や公立高校入学者選抜制度の変更などがあったことから、生徒の学習意識にもたらす影響についても注目してみたい。

また、今回は新設項目として、「勉強のやり方」、すなわち「学習方略」について尋ねる項目を新たに付け加えることで、学習意欲との相関を調べるだけでなく、学習意欲の向上につながる「学習方略」についても示唆を得たいと考えた。

2. 調査項目について

調査項目については、昨年度1年間をかけて検討を行い、表「調査の基本構成」に示したように、時系列比較という観点から、原則として中学校3年生を対象に過去一貫して使用してきた「継続調査項目」を踏襲することにした。また、前回までの調査で使用した「追加項目」のうち、これまで数回の調査で傾向がはっきりと把握できたものについては削除し、特に必要と思われる項目のみを今回の調査に残すこととした。

ただし、「継続調査項目」や前回までの「追加項目」の中には、質問や選択肢の構成の仕方の一部に中学校3年生の現状にそぐわないものや生徒の意識を捕捉するのに必ずしも適切ではなくなっているものもある。そこで、今回の調査にあたっては、一部の項目で質問や選択肢の構成を修正した。

一方、今回の「新設項目」は、2013（平成25）年に実施した第10回「学習意識調査」の補足調査で、学習意欲と生徒たちが身につけている学習方略の関連を調べた結果を踏まえて、新たに付け加えたものである。

補足調査で用いた調査項目は、佐藤・新井（1998）による学習方略の使用尺度をもとに、「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「友人リソース方略」「認知的方略」の5つの観点からそれぞれ2つの質問を選び、中学校3年生の現状に照らして質問の表現等を吟味した上で、計10個の質問により構成されている。今回の調査ではこれを踏襲し、「学習方略」について尋ねる「新設項目」とした。

2013（平成25）年に実施した補足調査の結果では、学習意欲と「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」の4つの学習方略に相関関係が見られた。学習方略を意識し、見直す機会は、生徒にとっても、教員や保護者にとっても、それほど多くないと思われる。たとえば、勉強しても成果があがらないときに、勉強のやり方、つまり学習方略について考える機会がない生徒は、「私はもともとできないから」と自分の能力に原因があると感じたり、勉強の量が足りないからだと思い込んだりしてしまいがちである。さまざまな学習方略を知り、自分に合った勉強のやり方をいろいろ試しながら見つけていくことが、学習意欲を高めることへつながるのではないかと考える。今回の「新設項目」が、生徒や学校・家庭において、一人ひとりに合った学習方略を考えるきっかけとなることを期待している。

3. 予備調査について

本調査実施にあたっては、先に触れた昨年度1年間の検討を踏まえて、次のとおり予備調査を行った。

①調査の主旨

本調査で使用する調査用紙の原案を作成し、回答に要する時間や答えにくい質問、レイアウトの適否等を調べるために予備調査を実施することにした。

②調査の対象

藤沢市立中学校1年生 1校×1クラス37名

③調査の方法

藤沢市教育文化センター作成の予備調査用紙（質問紙法による）を使用。担任（研究員）が調査用紙を配布し、実施、回収した。

④調査の実施日

2015（平成27）年1月26日

⑤調査の内容

本調査用紙に準じる。また、回答を終えたあとに、一部の項目で修正前のレイアウトを示し、質問や答え方のわかりやすさについて尋ねた。

表「調査の基本構成」

	調査する要因	調査項目の内容	項目番号	備考
継続調査項目	帰宅後の学習実態	帰宅後の勉強時間	(1)	9回調査より改訂：10回調査より質問・回答方法を変更：今回より選択肢を一部追加
	学習の理解度	学校の勉強の理解度	(2)	9回調査より3件法から4件法に変更
	学習への自信	学校の勉強についていく自信	(3)	9回調査より3件法から4件法に変更
	学習の意欲	勉強の意欲	(4)	
	学習への集中度	勉強への集中度	(5)	9回調査より3件法から4件法に変更
	自由への願望	勉強以外の自由時間に対する願望	(6)	9回調査より選択肢を一部修正
	学校外活動の実態	学校外活動の種類	(10)	7回調査より改訂：9回調査より選択肢を追加
前回までの追加項目	相談相手の実態	勉強に関する悩み事の相談相手	(7)	7回調査より改訂：9回調査より選択肢を一部修正
		勉強以外の悩み事の相談相手	(8)	
	学校の意義	学校で一番大切な事柄	(9)	7回調査より追加
	勉強観	授業に期待する事柄	(11)	8回調査より追加：9回調査より回答方法変更、選択肢の一部を修正・追加：10回調査より自由記述を削除：今回より現状に合わなくなった質問を一部削除
	学習の意欲（理由）	項目(4)の選択肢を選んだ理由	(4)	9回調査より追加：10回調査より自由記述から選択肢に変更
	勉強のイメージ	勉強という言葉から思い浮かべたイメージ	(14)	9回調査より追加：10回調査より項目(4)の補足から独立した項目に変更
	学習の意欲	下山・林ら（1983）による学芸大式学習意欲検査（簡易版）をもとに作成 自主的学習態度、達成志向、責任感、従順性、自己評価、自主的学習態度、失敗回避傾向、反学習価値観 杉村（1985, 1987）による学習意欲尺度をもとに作成 内発的意欲	(12)	10回調査より項目(4)の妥当性を確保するために追加：今回より他項目との重複を避けるために質問を一部削除
今回の新設項目	学習方略（学習のやり方）	佐藤・新井（1998）による学習方略の使用尺度をもとに作成 柔軟的方略、プランニング方略、作業方略、友人リソース方略、認知的方略	(13)	今回より項目(4)との相関を調べるとともに、学習意欲の向上につながる学習方略について示唆を得るために追加

⑥調査の結果

予備調査の結果、回答に要する時間は、15分30秒程度であった。実施した対象が1年生であったことを考えると、本調査の対象となる3年生であれば、15分以内で回答し終えると予想され、調査項目の数は適切であると判断された。

また、語句の意味や記入の仕方について質問が3つあったが、いずれも言葉の理解に関するものであり、3年生が対象であれば理解可能な範囲の質問であると考えられた。

レイアウトによる質問や答え方のわかりやすさについては、修正前・修正後・どちらでもよいの3つに意見が分かれ、それぞれの理由を検討した結果、修正前のレイアウトに戻して本調査を実施することにした。

4. 調査の対象

藤沢市立中学校3年生全員（全19校、3,566名）

5. 調査の方法

- ①調査用紙は藤沢市教育文化センター作成の学習意識 調査用紙（質問紙法による）を使用（p. 5～12参照）。
- ②全市内中学校に調査の主旨を説明し、各学校に実施を依頼。調査を担当する教員向けには「調査実施の手引き」を作成・配布した。
- ③調査用紙の配布・実施後の回収は、藤沢市教育文化センターの担当者が行った。

6. 調査の実施期間

2015（平成27）年5月13日（水）～6月22日（月）

7. 集計の方法

（1）集計に用いたデータについて

在籍者3,566名中、調査の結果得られた3,353名分のデータのうち、性別不明の63名分のデータは除外し、残った3,290名分のデータ（男子1,706名、女子1,584名）について集計・分析を行った。なお、時系列比較で用いた各年度のデータは次のとおりである。

1965年	2,424名	（藤沢市立中学校3年生全員）
1970年	2,140名	（〃）
1975年	2,885名	（〃）

1980年	4,059名	（〃）
1985年	5,358名	（〃）
1990年	855名	（全19校、各校1クラス）
1995年	1,843名	（全19校中9校、各校全クラス）
2000年	3,170名	（藤沢市立中学校3年生全員）
2005年	2,816名	（〃）
2010年	3,067名	（〃）
2015年	3,290名	（〃）

（2）集計の方法について

①時系列比較

単純集計結果を百分率(%)で表し、1965（昭和40）年以降のデータと比較した。

②追加項目・新設項目の集計

単純集計結果を全体・男女別に百分率(%)で表し、前回の調査までの追加項目については、過去のデータと比較を行った。

③クロス集計

単純集計の結果、必要と判断された項目間でクロス集計を行った。また、一部の項目では相関係数を求め比較した。

※なお、百分率の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなっていない。また、集計には無回答項目も含めた。

【引用・参考文献】

- 1) 藤沢市教育文化センター 2011 第10回「学習意識調査」 報告書 藤沢市立中学校3年生の学習意識
- 2) 藤沢市教育文化センター 2014 第10回「学習意識調査」 補足調査結果
- 3) 下山剛・林幸範・他 1983 学習意欲の構造に関する研究(2)－学習意欲の類型化の検討 東京学芸大学紀要1部門 34, 139-152.
- 4) 杉村健 1985 小学生の学習心理 教育出版
- 5) 杉村健 1987 3章 自発性と学習意欲のとらえ方 伊藤隆二・坂野登（編）講座入門子ども心理学1－子どもとの自発性と学習意欲 日本国文化科学社 42-65.
- 6) 堀洋道（監修）、櫻井茂男・松井豊（編） 2007 心理測定尺度集IV－子どもの発達を支える「対人関係・適応」 サイエンス社 140-147.
- 7) 佐藤純・新井邦二郎 1998 学習方略の使用と達成目標及び原因帰属との関係 筑波大学心理学研究, 20, 115-124.

《質問紙》

ちゅうがく ねんせい
中学3年生のみなさんへ

がくしゅういしきちょうさ ねが
学習意識調査のお願い

ふじさわしきょういくぶんか
藤沢市教育文化センター

ふじさわしきょういくぶんか
藤沢市教育文化センターは、1965（昭和40）年から 5年ごとに藤沢市立中学3年生の
いしきちょうさ じっし ことし いしきちょうさ ねんめ いま
意識調査を実施しています。今年はこの意識調査をはじめてから50年目になります。今ま
での調査結果から、藤沢市の教育に関する貴重な情報をお伝えします。
みなさま、どうぞ、よろしくご協力ください。

つぎ ちゅうい よ
◎はじめに、次の注意をよく読んでください。

ちゅうい
注意

- ・名前は書かないでください。
- ・最初に男女の別に○を付けてください。
- ・この調査は成績には関係ありません。
- ・この調査の目的は、あなたが日頃感じていることや考えていることを
正確に知ることです。
- ・あなたの気持ちをありのままに答えれば、それが正しい答えなのです。
- ・答え方がわからないときは、手を挙げて先生に聞いてください。
- ・人と相談したり、人の書いたものを見たりしないで答えましょう。

せんせい あいづ つぎ ひら はじ
先生の合図で、次のページを開いて始めてください。
ぜんぶ 全部で 7 ページあります。

■最初に、自分の男女の別に○をつけてください。

1. 男

2. 女

(1) 家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。
(塾・家庭教師なども含みます)

A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか?

1. 毎日 2. 3~4日 3. 1~2日 4. ほとんどしない

B. 学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか?

1. 2時間以上 2. 1~2時間 3. 1時間未満

C. 土曜日には、どのくらい勉強していますか?

1. 2時間以上 2. 1~2時間 3. 1時間未満 4. まったくしない

D. 曜日には、どのくらい勉強していますか?

1. 2時間以上 2. 1~2時間 3. 1時間未満 4. まったくしない

(2) 学校での勉強がよくわかりますか? どれか一つに○をつけてください。

1. よくわかる 2. どちらかというとわかる 3. どちらかというとわからない 4. ほとんどわからない

(3) 学校の勉強についていく自信がありますか? どれか一つに○をつけてください。

1. 十分ある 2. どちらかというとある 3. どちらかというとない 4. まったくない

(4) もっと、たくさん勉強したいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。

1. もっと勉強をしたい 2. いまくらいの勉強がちょうどよい 3. 勉強はもうしたくない

※ (1. もっと勉強をしたい と答えたみなさんへ)

A. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由 一つに○をつけてください。

1. 進学や受験のためになるから
2. 今の勉強では足りないから
3. 自分の将来の夢や生活のためになるから
4. 勉強することが好きだから
5. みんなについていきたいから
6. その他 ()

※ (2. いまくらいの勉強がちょうどよい と答えたみなさんへ)

B. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由 一つに○をつけてください。

1. 今の状態が自分に合っているから
2. 勉強以外のこともやりたいから
3. 勉強はやらなければならないものだから
4. 今、精一杯やっているから
5. あまりやりたくないから
6. その他 ()

※ (3. 勉強はもうしたくない と答えたみなさんへ)

C. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由 一つに○をつけてください。

1. 勉強がきらいだから
2. 体力的・精神的につらいから
3. 将来の役に立ちそうにないから
4. 勉強以外のこともやりたいから
5. 勉強がわからないから
6. その他 ()

(5) 勉強になかなか集中できないことがありますか? どれか一つに○をつけてください。

1. いつも 集中できる 2. どちらかというと 集中できる 3. どちらかというと 集中できない 4. いつも 集中できない

(6) 勉強以外の自由時間がほしいと思いますか? どれか一つに○をつけてください。

1. もっとほしい 2. 少しほしい 3. あまりほしくない

(7) 勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

1. 父 2. 母 3. 担任の先生 4. 担任以外の先生 5. 保健室の先生
6. 塾の先生・家庭教師 7. 友達 8. 先輩 9. 兄弟姉妹
10. スクールカウンセラー 11. いない 12. 他人に相談しないで自分で考える
13. その他 ()

(8) 勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

1. 父 2. 母 3. 担任の先生 4. 担任以外の先生 5. 保健室の先生
6. 塾の先生・家庭教師 7. 友達 8. 先輩 9. 兄弟姉妹
10. スクールカウンセラー 11. いない 12. 他人に相談しないで自分で考える
13. その他 ()

(9) 学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか? どれか一つに○をつけてください。

1. 勉強 2. 友達づきあい 3. 部活動 4. その他 ()

(10) 学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

1. 学習塾 2. 家庭教師 3. 通信添削 4. スポーツ関係 5. おけいこごと、趣味
6. その他 () 7. なにも習っていない

(11) 学校で、次のような授業をどのくらい期待しますか？ それぞれの文について、どれか一つに〇をつけてください。

A. けじめがあって、集中できる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

E. 生徒の意見を受け入れてくれる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

H. 学校の外で見学・体験できる授業

1. 非常に期待する 2. 少し期待する 3. あまり期待しない 4. まったく期待しない

(12) 次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

A. 家の人へ、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

D. しめきりまでに、宿題をすませる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

F. テストが終わったすぐあとで、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

H. したくない勉強は、無理にしなくてよいと思う。

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1. とてもよく
あてはまる | 2. どちらかというと
あてはまる | 3. どちらかというと
あてはまらない | 4. まったく
あてはまらない |
|-------------------|----------------------|------------------------|--------------------|

(13) あなたは、勉強をしているとき、つぎのような方法で勉強をしていますか？
もっともあてはまるものを一つえらんで、○をつけてください。

A. 大切なところは、繰り返して書いたり、ノートにまとめたりしておぼえる。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

B. 大切なところはどこかを考えながら勉強する。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

C. さいしょに計画を立ててからはじめる。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

D. わからないところがあったら、友達にやり方やその答えを聞く。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

E. やり方が、自分にあってるかどうかを考えながら勉強する。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

F. 勉強に集中できるように工夫する。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

G. 友達と問題を出し合いながら勉強をする。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

H. まちがえたところは、印をつけておいて後で見なおす。

- | | | | |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1.いつも
している | 2.どちらかというと
している | 3.どちらかというと
していない | 4.まったく
していない |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------|

うら
裏にあと1ページあります

I. たまに止まって、一度やったところを見なおす。

- | | | | |
|----------------|---------------------|----------------------|------------------|
| 1. いつも
している | 2. どちらかというと
している | 3. どちらかというと
していない | 4. まったく
していない |
|----------------|---------------------|----------------------|------------------|

J. 成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。

- | | | | |
|----------------|---------------------|----------------------|------------------|
| 1. いつも
している | 2. どちらかというと
している | 3. どちらかというと
していない | 4. まったく
していない |
|----------------|---------------------|----------------------|------------------|

(14) 「勉強」という言葉からどのようなことをイメージしますか？ 思い浮かべたものすべてに○をつけてください。その他にイメージしたことがあつたら 8. その他()のところに書いてください。

1. 興味や関心のあることを学ぶこと
2. ひととのかかわり方を学ぶこと
3. 受験のための準備
4. 将来役立つ知識や技術を身につけること
5. 今の生活に役立つ知識や技術を身につけること
6. 学校の授業
7. 自分の生き方を見つけること
8. その他



以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。



第2章

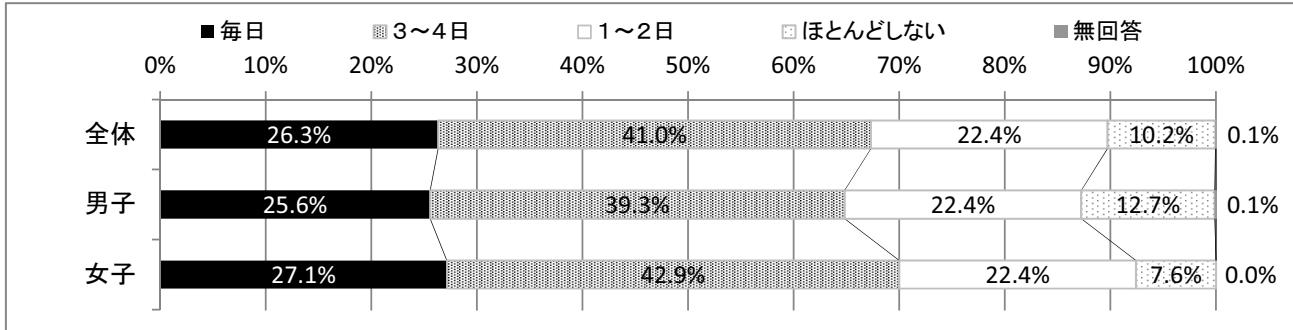
調査結果および考察

1. 帰宅後の勉強時間

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目1：家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。(塾・家庭教師なども含みます)

A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？



調査結果：

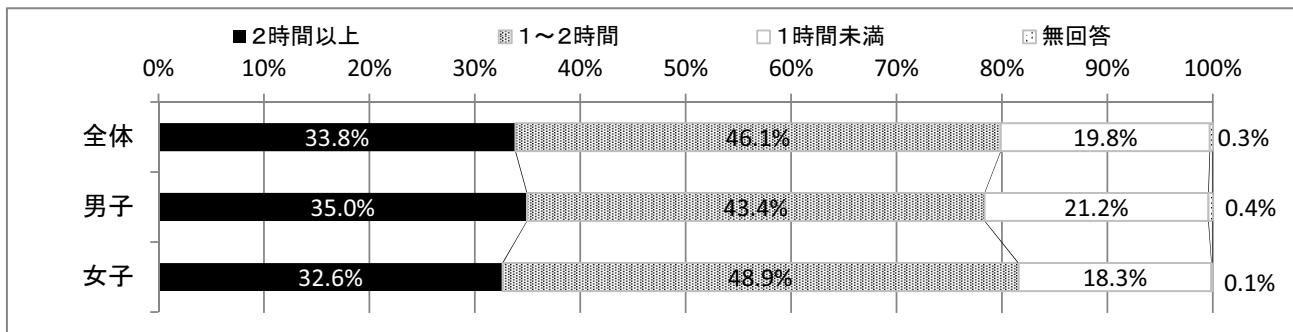
学校から帰宅後、勉強を「毎日」行う生徒は26.3%、大体4人に1人である。一方、「ほとんどしない」生徒は10.2%、ほぼ10人に1人の割合である。

考察：

男女別に見ると、女子の方が男子に比べて帰宅後の勉

強日数が多い点は前回の調査（第10回学習意識調査参考、以降同じ）と同様であるが、3日以上勉強を行う生徒の割合は64.8%→67.3%とやや上昇している。また、ほとんどしない生徒は12.5%→10.2%と減っている。一般的には、通塾は週2～3日が多いことから、学習塾に通っている日以外にも家庭学習を行っている生徒が増えていると考えられる。

B. 学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？



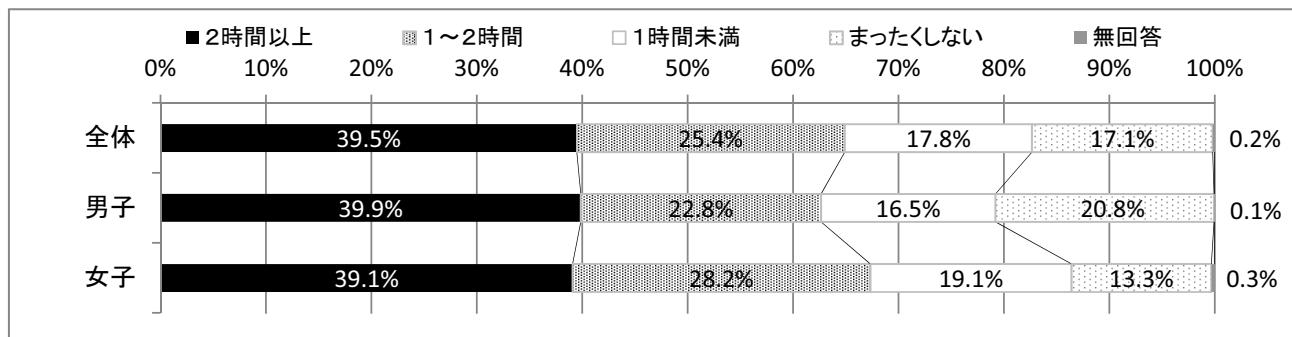
調査結果：

学校から帰宅後の勉強時間は「1～2時間」が46.1%と最も多い。次いで「2時間以上」が33.8%という割合である。男女別に見ると、「2時間以上」の割合は男子の方が2.4ポイント高いが、「1～2時間」の割合は女子の方が5.5ポイント高い。

考察：

勉強日数では、女子の方が多かったが、「2時間以上」という勉強時間では男子の方が上回っていた。前回の調査では、男子29.7%、女子32.7%と、女子の方が上回っていたことから、男女差が逆転していることがわかる。また、前回の調査では「1時間未満」は男子(26.5%)と女子(18.2%)の差は8.3ポイントと高かったが、今回の調査では男子(21.2%)と女子(18.3%)の差は2.9ポイントにまで縮まっている。

C. 土曜日には、どのくらい勉強していますか？



調査結果：

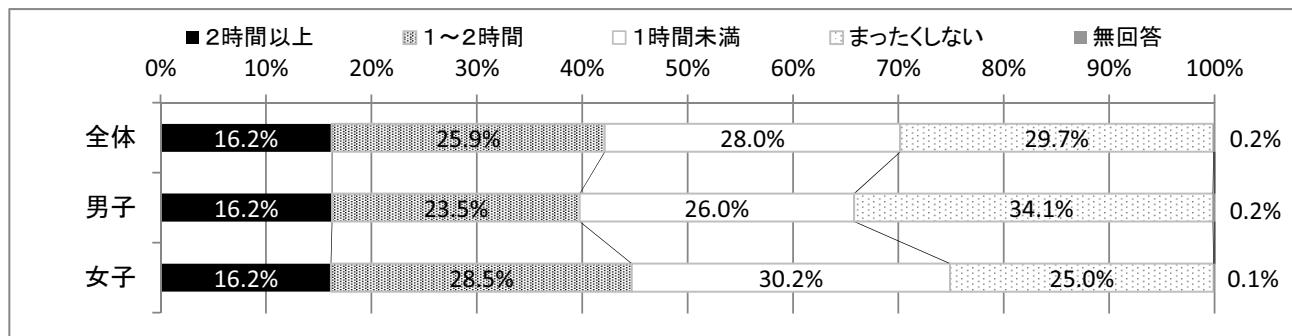
土曜日に「2時間以上」勉強している生徒は、39.5%と約4割である。一方で、「まったくしない」(17.1%)を含めた「1時間未満」(17.8%)の生徒は、34.9%である。男子の「まったくしない」生徒は20.8%と約2割を占め、女子(13.3%)と比べると7.5ポイントの差がある。

考察：

前回の調査と比較すると、男子の「2時間以上」の生徒は36.5%→39.9%と3.4ポイント上昇している。また、男子の「1~2時間」と答えた生徒は26.6%→22.8%と3.8ポイント減少した。

平日と比べ「2時間以上」勉強する生徒と、「1時間未満（「まったくしない」も含む）」しか勉強しない生徒の割合が多く、両極端といえる。

D. 日曜日には、どのくらい勉強していますか？



調査結果：

日曜日に「2時間以上」勉強している生徒は16.2%、「まったくしない」生徒は29.7%と最も高い割合を占め、「1時間未満」(28.0%)と合わせると約6割となる。勉強時間が増えるに従って、その割合は低くなっている。

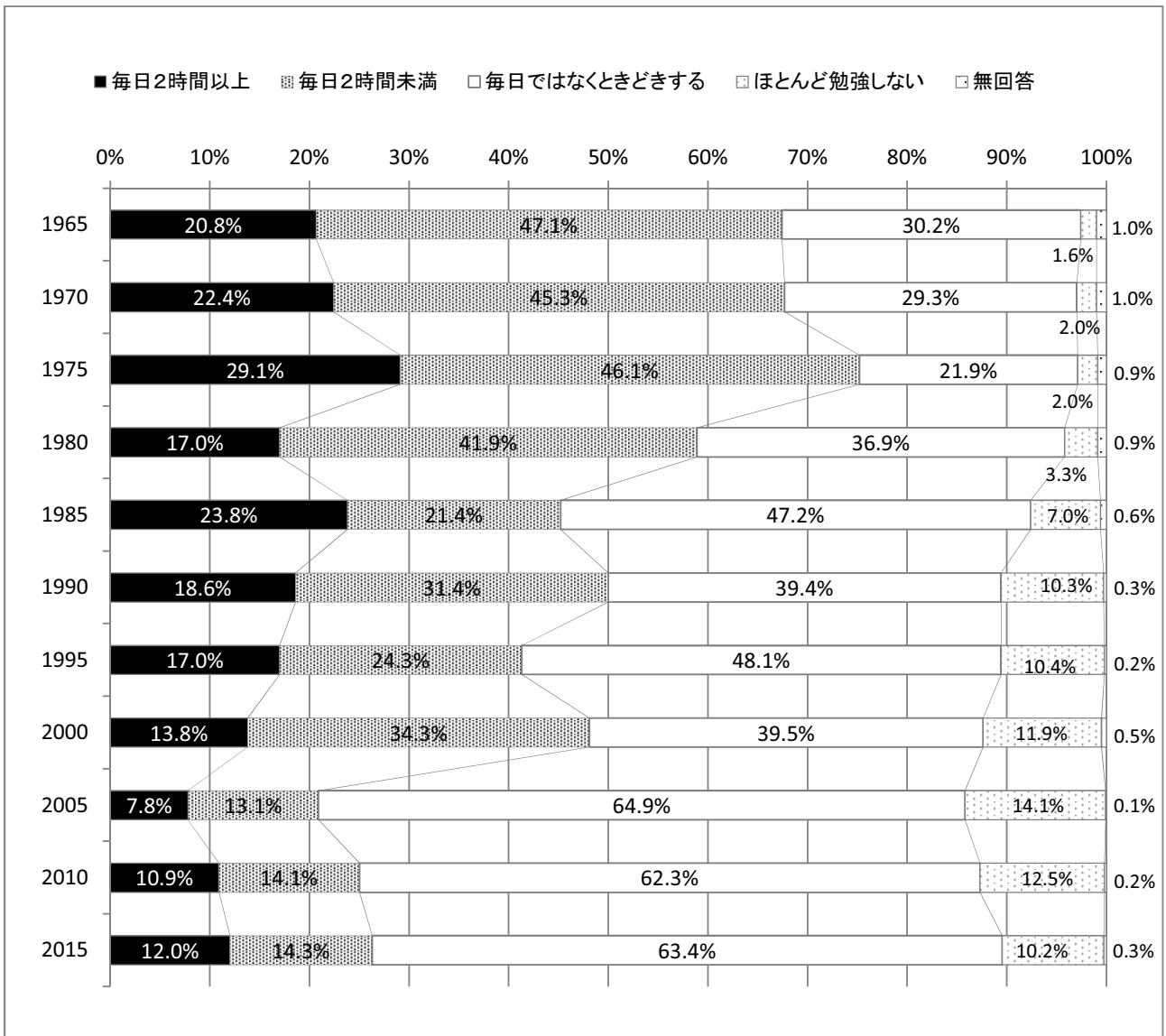
ただし、「まったくしない」生徒の割合は、女子(25.0%)に比べ、男子(34.1%)の方が9.1ポイント高い。

考察：

前回の調査では、「2時間以上」勉強する男子(11.7%)と女子(17.1%)の間には5.4ポイントの差があったが、今回は男子が4.5ポイント増えたため、その差はほとんど無くなった。同じ休日でも、土曜日の勉強時間との明らかな違いが見られる。次の日から学校が始まるということで、休養に充てているとも考えられるが、おそらく生徒が通っている学習塾の大半が、休みの所が多いということが影響しているのであろう。

塾との関連については、p.18の「学校外での習い事」と「勉強時間」とのクロス集計で述べることとする。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果 :

2000年までの調査では、日数と時間を同時に聞いていたが、2005年の調査では、「毎日ではなくときどきする（するときもしないときもある）」と答えた生徒に、「1週間に何日、何時間くらい勉強していますか？」と記述式で尋ねることで、日数に関する設問と時間に関する設問に分けた。今回の調査では、2005年と同様に日数と時間を分けたが、時間を尋ねる際には、記述式ではなく選択肢（「2時間以上」、「1～2時間」、「1時間未満」）を設けて尋ねた。選択肢の設定は、2005年の結果を基にした。

「毎日2時間以上」勉強する生徒の割合が、過去最低を記録した2005年の7.8%から5年ごとに回復し、2015年は12.0%となった。「ほとんど勉強しない」の割合が

10.2%となり、1990年代の水準にまで戻ってきている。

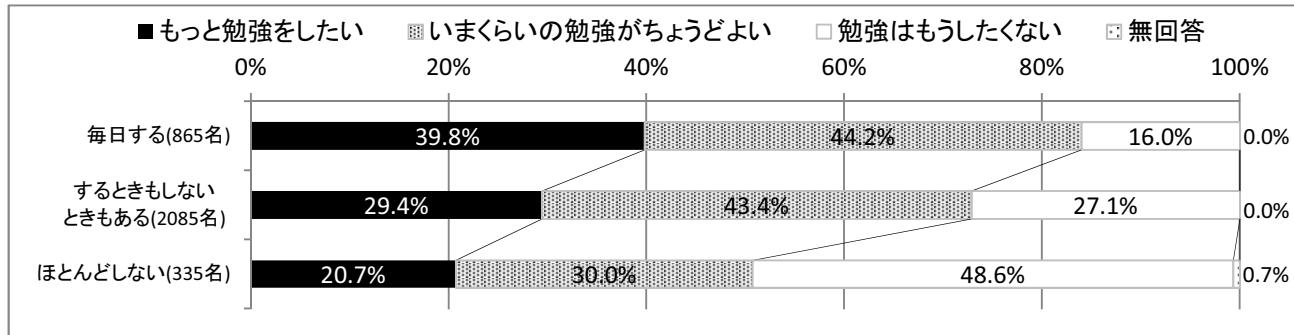
考察 :

この5年間で、神奈川県の公立高校入学者選抜制度の変更があり、当日に行われる学力検査の比重が高くなつたことによる受験意識の高まりが、勉強時間の増加として現れていると考えられる。学習指導要領改訂による学習内容の増加により、やらなくてはならない勉強の量が増えたことも勉強時間の要因と考えられる。「ほとんど勉強しない」生徒の割合が減少しているのも、上記のことが関係していると思われる。

「帰宅後の勉強時間」と「勉強の意欲」の関連を検討するため、両項目のクロス集計を行った結果を次頁に示す。

(3) 「帰宅後の勉強時間」と「勉強の意欲」とのクロス集計

「A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？」と「(4) もっと、たくさん勉強したいと思いますか？」



集計結果：

勉強を「毎日する」と回答した生徒の39.8%が「もっと勉強したい」と回答している。帰宅後の平日は、「ほとんどしない」と回答した生徒では、48.6%が「勉強はもうしたくない」と回答している。

考察：

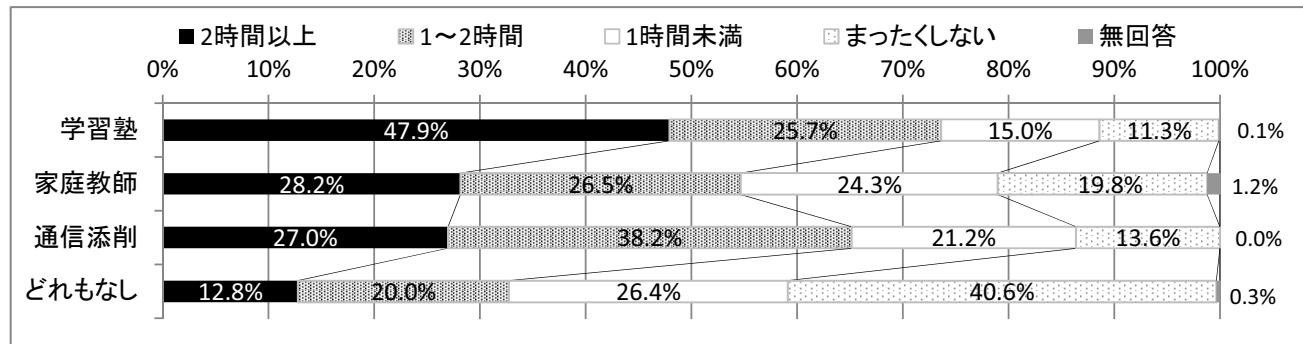
勉強する日数が減るほど「勉強はもうしたくない」と回答する生徒が増え、勉強する日数が増えるほど「もっと勉強をしたい」と回答する生徒が増えている。ほとんど勉強をしない生徒の約半数を占める「勉強はもうした

くない」生徒に対して、何らかの改善策が必要であるといえる。

前回の調査と比較すると、「ほとんどしない」生徒のうち「もっと勉強をしたい」生徒の割合は大きく増えている(12.9%→20.7%)。今はほとんどしていないが、本当はもっと勉強をしたいと思っている生徒が一定数いることがわかる。これは、時間がなくてできないのか、それとも、勉強のやり方がわからないためなのか、この調査結果からは判断できないが、こうした生徒が少なからずいることについても何らかの手立てを考えていく必要があるといえる。

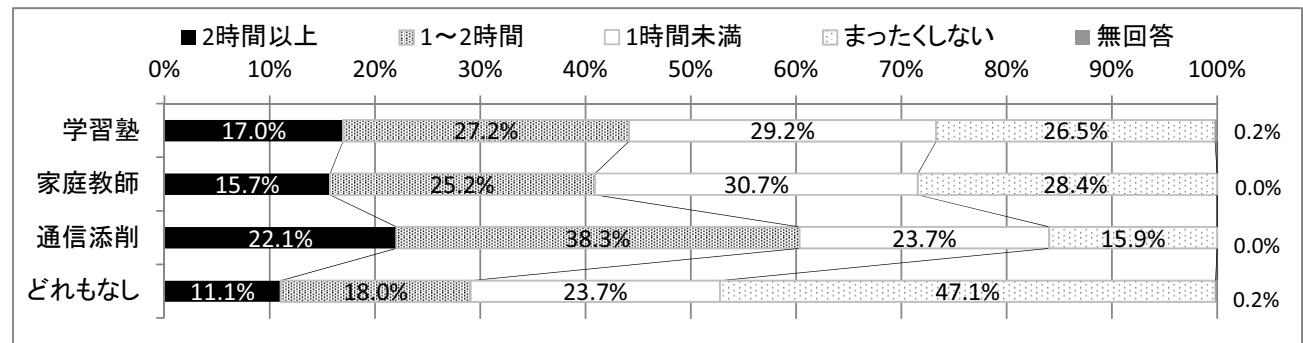
(4) 「学校外での習い事（学習塾・家庭教師・通信添削）」と「勉強時間」とのクロス集計

①土曜日には、どのくらい勉強していますか？



※「どれもなし」は、「学習塾」、「家庭教師」、「通信添削」のいずれも選択していない生徒である。

②日曜日には、どのくらい勉強していますか？



※「どれもなし」は、「学習塾」、「家庭教師」、「通信添削」のいずれも選択していない生徒である。

集計結果 :

「学習塾」に通っている生徒の約半数が、土曜日には2時間以上勉強している。日曜日になると、学習塾に通っている生徒の勉強時間は大幅に減り、半数以上の生徒が1時間未満の勉強時間となる。また、通信添削を行っている生徒は、土曜日と比べ日曜日には「2時間以上」が減っているが、「1~2時間」「1時間未満」「まったくしない」に大きな差はなかった。「どれもなし」の生徒は、土曜日と比べ日曜日には「まったくしない」が増えているが、「2時間以上」「1~2時間」「1時間未満」に大きな差はなかった。

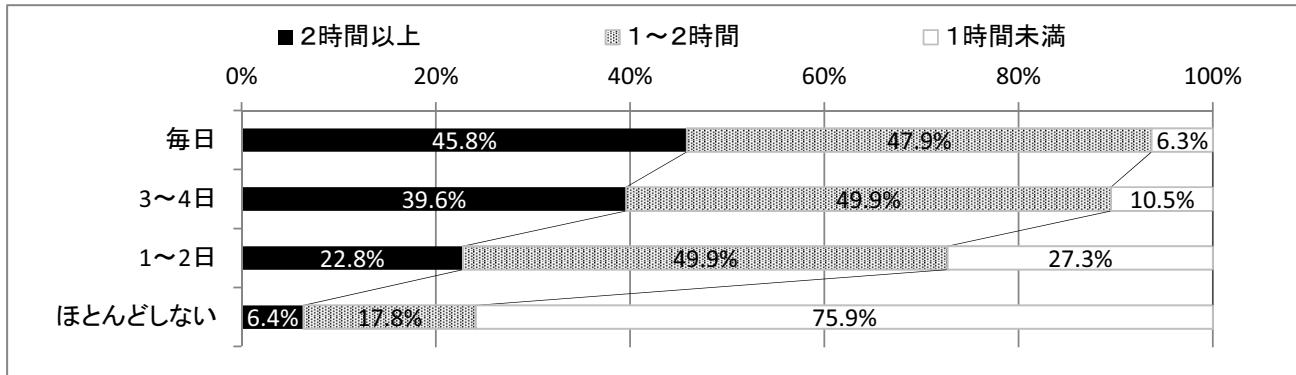
考察 :

「学習塾」に通っている生徒のうち「2時間以上」勉強をする生徒の割合が日曜日に大きく減少することは、多くの学習塾が日曜日は休みであることが影響していると考えられる。学習塾が休みの日はそれに合わせて勉強を休むという生徒が多いのではないかと考えられる。

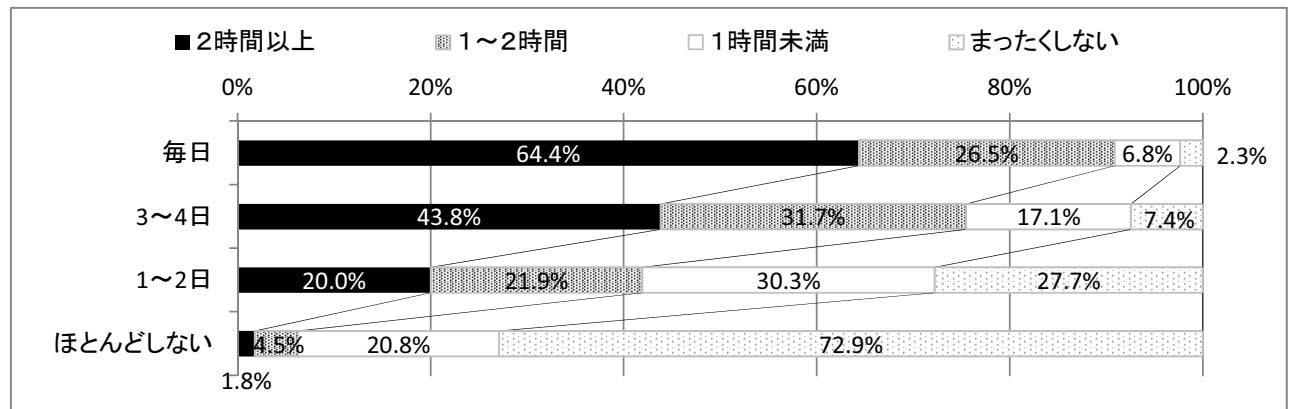
反対に、「通信添削」「どれもなし」の生徒は、学習塾に通っている生徒に比べると、勉強の時間は少ないが、土日にかかわらず、自分なりの学習時間があるともされる。

(5) 「A. 学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？」と「勉強時間」のクロス集計

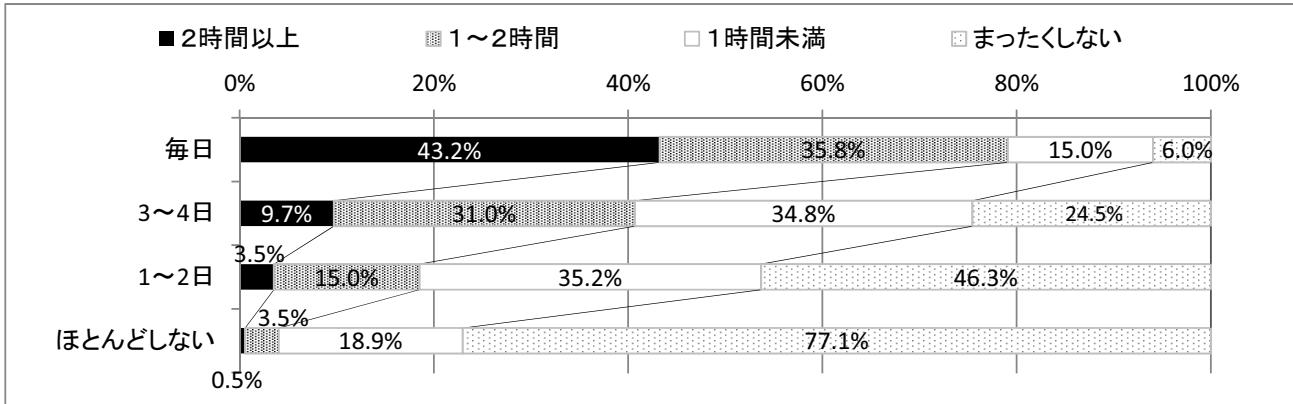
①学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？



②土曜日には、どのくらい勉強していますか？



③日曜日には、どのくらい勉強していますか？



集計結果：

月曜日から金曜日の間に、帰宅後の勉強を「毎日」する生徒で「2時間以上」している生徒は、45.8%、「3~4日」する生徒は39.6%、「1~2日」の生徒は22.8%である。

帰宅後の勉強を「ほとんどしない」生徒で「2時間以上」している生徒は6.4%、「1時間未満」の生徒は75.9%である。

土曜日については、学校から帰って毎日勉強する生徒の64.4%が「2時間以上」勉強している。

日曜日については、学校から帰って毎日勉強する生徒の43.2%が「2時間以上」勉強している。

考察：

「勉強する日数」と「一日のおおよその勉強時間」とをクロス集計してみると、「毎日勉強する」と答えた生徒の一日の勉強時間は長く、「ほとんど勉強しない」生徒の一日の勉強時間は短いという前回の調査と同様の結果だった。

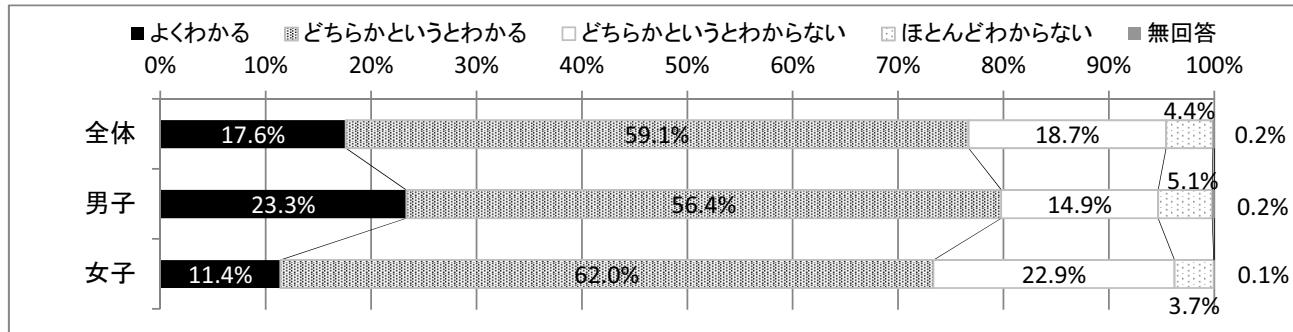
また、平日の勉強日数が多い生徒ほど、土曜日や日曜日に1時間以上勉強する生徒の比率が高く、少ない生徒ほど低い。この傾向は前回の調査と変わらない。

日曜日については、今回の「1時間未満」と「まったくしない」の割合を合わせると、平日の勉強日数のすべての選択肢で、前回の「1時間未満」の割合を上回っている。全体的に、日曜日の勉強時間が「1時間未満」もしくは「まったくしない」生徒が3~6ポイント増えていることがわかる。

2. 学校の勉強の理解度

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目2：学校での勉強がよくわかりますか？ どれか一つに○をつけてください。



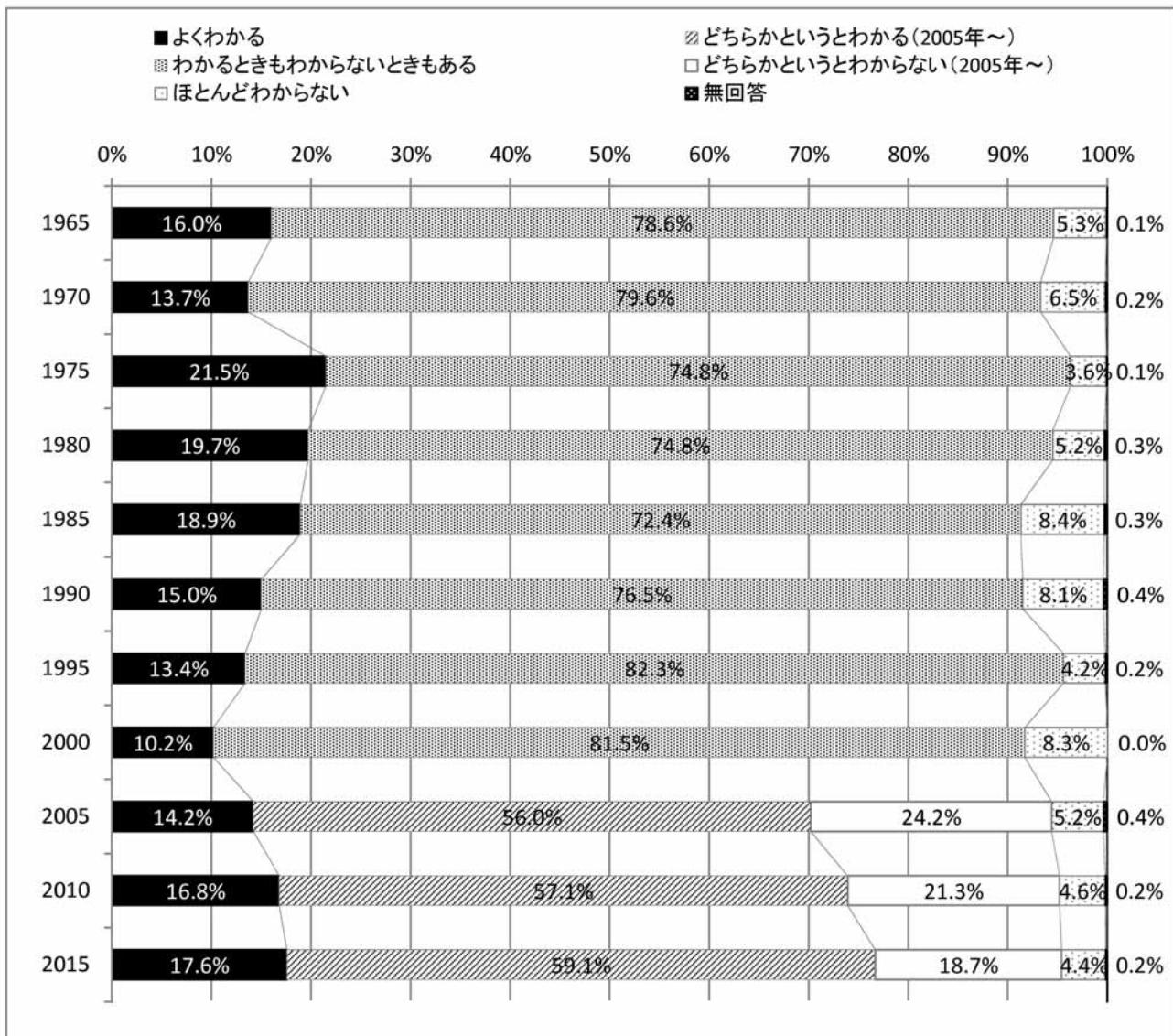
調査結果：

学校での勉強が「よくわかる」(17.6%)と「どちらかというとわかる」(59.1%)を合わせると76.7%で、約4分の3の生徒が、学校での勉強がわかると答えている。男女別に見ると、「よくわかる」の割合が男子の方が女子に比べて11.9ポイント高く、「どちらかというとわからない」の割合は、女子の方が8.0ポイント高い。

考察：

男女の違いが顕著に表れている。これは、思春期では、女子の方が男子よりも精神的に成長していることが多い、現実的な考え方をすることによるものとも考えられる。そのため、極端な回答を避ける傾向が女子にはあるのかもしれない。そうだとしても、前回の調査の結果（「よくわかる」男子21.1%、女子12.2%、その差8.9ポイント）よりもさらに男女差が広がっていることは気になる点である。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果 :

勉強が「よくわかる」と答えた生徒の割合が、過去最低であった2000年の10.2%から5年ごとに増加し、2015年には17.6%となった。また、2005年の調査から選択肢に加えた「どちらかというとわかる」の割合は、56.0%から増加し、2015年は59.1%となった。「どちらかというとわからない」の割合は、2005年の24.2%から5年ごとに減少し、2015年は18.7%となった。

考察 :

前回の学習指導要領の改訂(2008年)により、学力の三要素から構成される「確かな学力」を育むことを目指し、どの教科においても、言語活動や体験活動を重視することとされた。これに伴い、これまで以上に生徒の考えを大切にし、それをお互いに伝え合う活動や、主体的な取り組みを重視した活動が中心となっていました。各学校でのこうした真摯な取り組みの積み重ねが、生徒が勉強を「わかる」と感じることにつながったのかもしれない。

また、藤沢市の中学校では、2005年より従来の3学期制から2期制となり、授業時数の確保や前期の途中という位置づけになる夏休み中の取り組み（フォロー学習）などが行われるようになった。定期テスト前には学習会を開き、質問しやすい時間を確保するよう各学校で工夫している。さらに、2010年からは市教委による放課後の学習支援事業が始まり、理解の難しい生徒への支援が行われている。

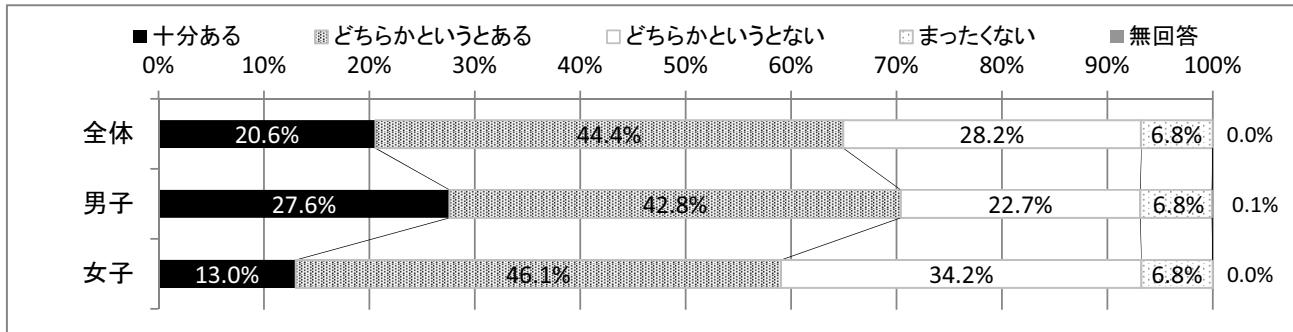
一方、夏季休業期間を中心に、当センターにおける教科・領域等または授業づくりの研修講座に参加する教職員も増え、日頃より「わかりやすい授業づくり」につとめる学校の取り組みが今回の結果につながった可能性も多い。

これらのこととが、生徒の理解度を促す要因となるとして考えられる。

3. 学校の勉強についていく自信

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目3：学校の勉強についていく自信がありますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

自信が「十分ある」と「どちらかというとある」を合計すると65.0%、約3分の2の生徒が「自信がある」と答えている。男女別に見ると、「十分ある」と答えた生徒の割合は、男子の方が14.6ポイント高く、「どちらかというとない」と答えた生徒は、女子の方が11.5ポイント高くなっている。

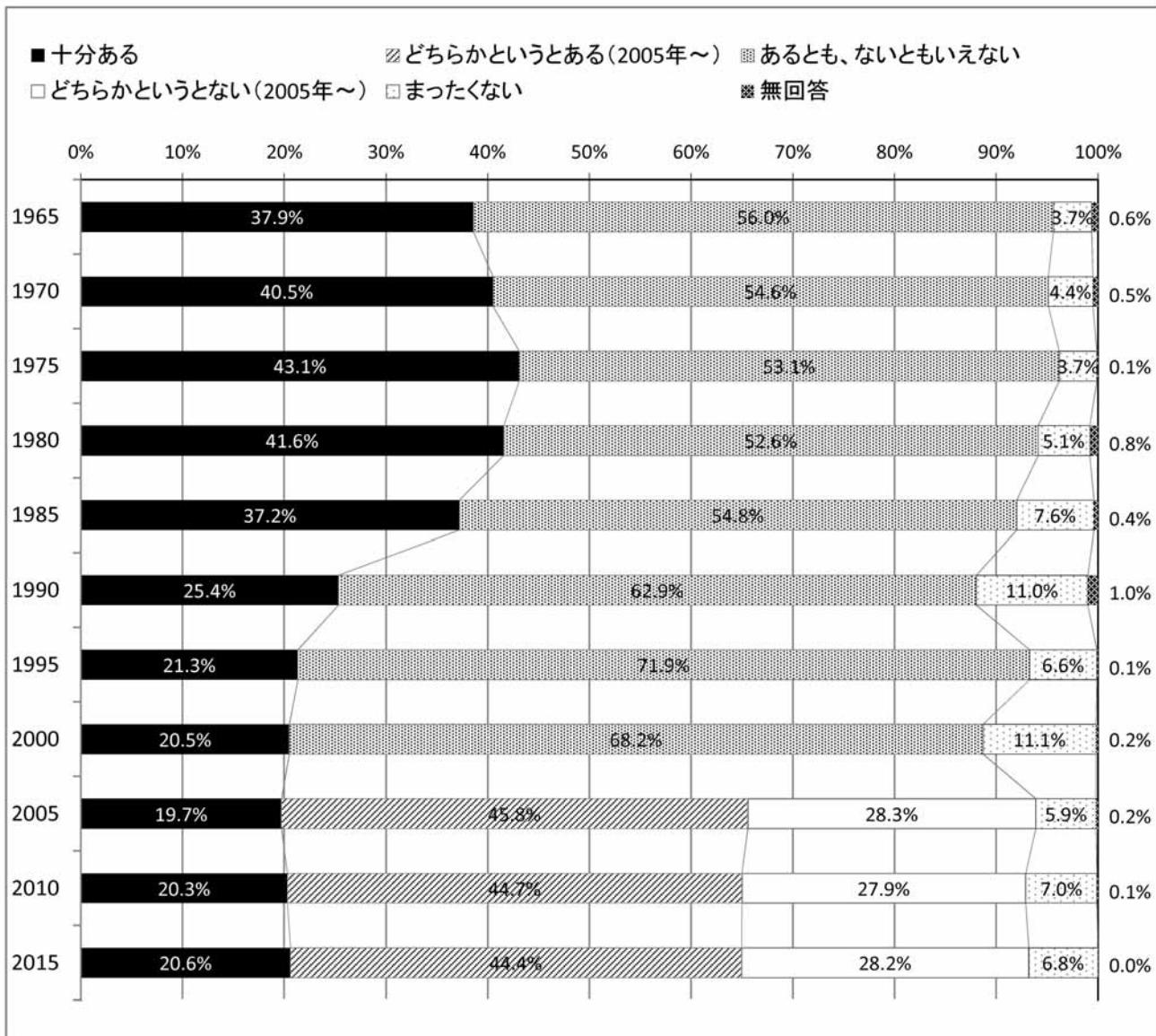
考察：

項目2の「学校での勉強がよくわかりますか？」の結果と同じような男女の違いが表れている。理由としても同様に、思春期では、女子の方が男子よりも精神的に成

長していることが多く、現実的な考え方をすることによるものとも考えられる。そのため、こうした自己評価に関する設問では、極端な回答を避ける傾向が女子にはあるのかもしれない。

全体的に見て自信がある生徒は65.0%と半数を超えている。しかし、自信のない生徒は35.0%であり、3人に1人は学校の勉強についていく自信がないと感じていることについては何らかの対策を考えていく必要があるといえる。「2. 学校の勉強の理解度」の考察(p.22~23)で述べたように、勉強は少しづつわかるようになってきている一方で、それが自信に結びつかないということは気になる点である。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果：

今回の結果は、選択肢が追加された2005年、前回の2010年の調査とほぼ同様の結果であった。全体的な傾向を見ると、1975年の43.1%の生徒が自信が「十分ある」と答えたのをピークに、5年ごとにその割合は減少し、1995年からは、ほぼ横ばいとなっている。

考察：

1995年以降、自信が「十分ある」と答えた生徒の割合は、ピーク時の1975年に比べ半分以下である。

学習内容の理解度は改善傾向にあるが、生徒の勉強に

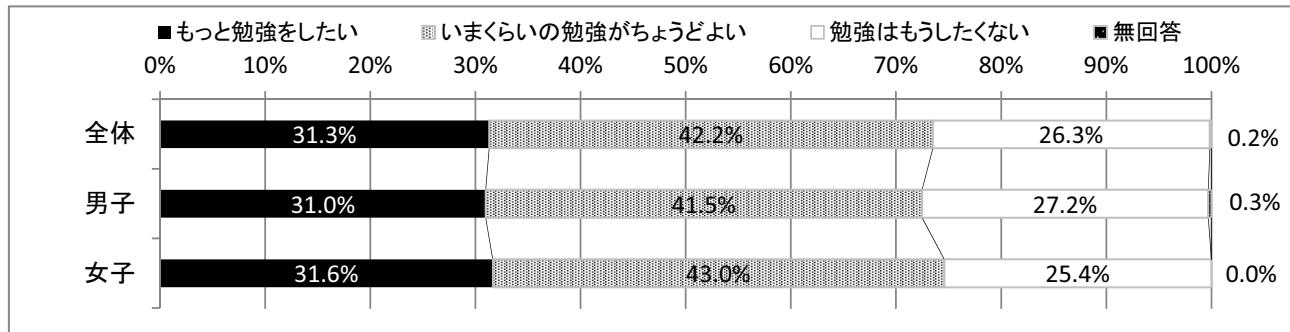
ついていく自信については変化は見られない。ついていく自信をつけるためには、生徒に学習面での成功体験や授業に参加しているという感覚、周りからの共感などが必要だと考えられる。教師の教材研究や家庭との連携を活発化して、様々な生徒に学ぶことの面白さ（自分の意見や考えを伝える楽しさ、成長の喜びなど）を感じてもらうことが大切ではないかと考えられる。

また、勉強だけでなく、何事にも自信をもって取り組めるよう、生徒の自己肯定感を高めさせるような指導を意識的に取り入れていく必要があると考える。

4. 勉強の意欲

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目4：もっと、たくさん勉強したいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

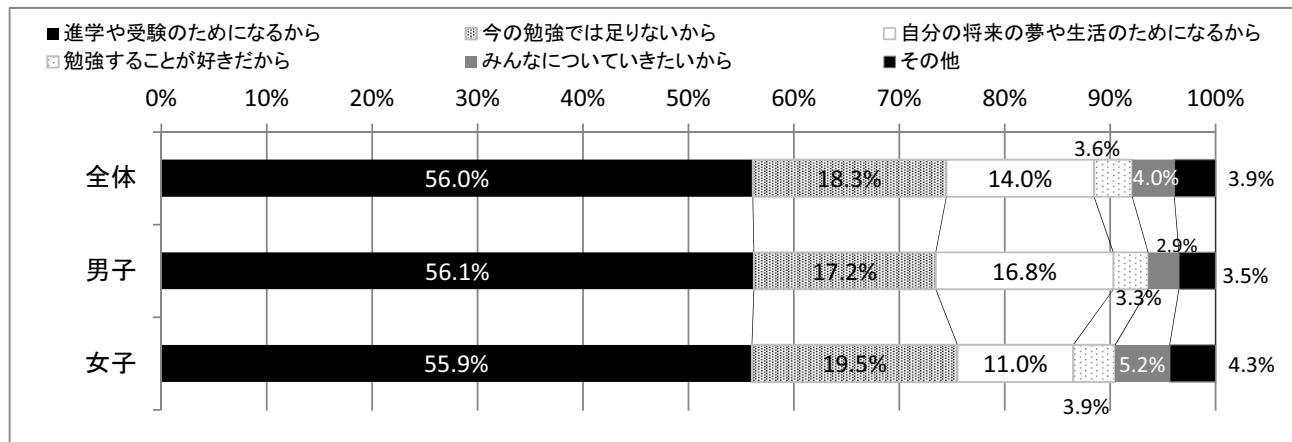
「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒が42.2%で最も多く、約4割を占めた。次いで「もっと勉強をしたい」と答えた生徒が31.3%で、約3割となった。この結果に男女の差は見られなかった。

考察：

「もっと勉強をしたい」と意欲的な生徒が約3割いる一方で、「勉強はもうしたくない」(26.3%)という生徒もほぼ同じくらいの割合で存在している。この両極端な生徒が教室に混在していることを考えると、一人でも多くの生徒が興味・関心をもって取り組める指導の工夫が教師に求められるといえる。

(1. もっと勉強をしたい と答えたみなさんへ)

A. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果 :

「進学や受験のためになるから」と答えた生徒が56.0%と最も多く、半数以上を占めた。これには性差が見られなかった。しかし、他の理由について男女別に見ると、「自分の将来の夢や生活のためになるから」が男子16.8%>女子11.0%、「みんなについていきたいから」が男子2.9%<女子5.2%という違いが見られた。

考察 :

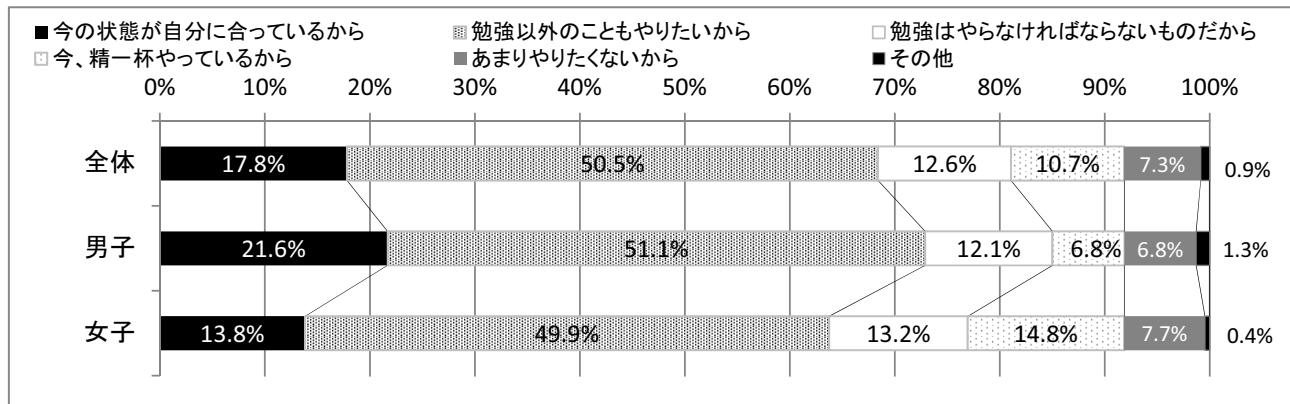
もっと勉強をしたいと考えている生徒の大半はその理由を「進学や受験のためになるから」と答えている。これは前回の調査よりも約7ポイントも上昇する結果になった。「勉強」 = 「受験勉強」ととらえている生徒がさらに多くなったことがわかる。その先にどんなビジョンを

描いているかは一人ひとり違うであろうが、中学校3年生にとって、高校進学がいかに大きなウエイトを占めているかが窺い知れる。また、前回の調査と比べて大きく減少したのが、「自分の将来の夢や生活のためになるから」で、前回19.4%→今回14.0%とその差は5.4ポイントとなる。

男女別に見ると、前回の調査では「自分の将来の夢や生活のためになるから」と「みんなについていきたいから」に性差は見られなかつたが、今回の調査では、女子で「自分の将来の夢や生活のためになるから」が8.5ポイント減り、「進学や受験のためになるから」が8.6ポイント増えている。これは、より現実的な女子が、受験への意識を強めたことによる影響が現れているのかもしれない。

(2. いまくらいいの勉強がちょうどよい と答えたみなさんへ)

B. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果 :

「勉強以外のこともやりたいから」の割合が50.5%と最も多く、半数を占めている。次いで「今の状態が自分に合っているから」が17.8%である。男女別に見ると、「今の状態が自分に合っているから」と答えた生徒は男子で21.6%、女子13.8%と大きく差が開いた。また「今、精一杯やっているから」と答えた生徒は男子6.8%、女子14.8%とこちらも大きく差が開いた。

考察 :

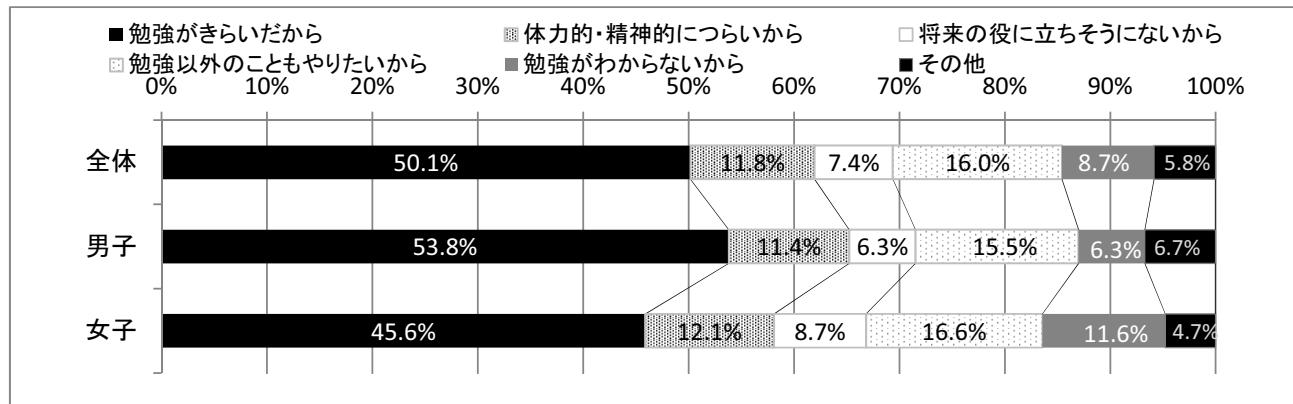
「勉強以外のこともやりたいから」と答えた生徒の「勉強以外」の要素は一人ひとり違うだろうが、部活動

や趣味等、勉強との折り合いをつけながら中学校生活を送っているものと考えられる。「今の状態が自分に合っているから」と合わせると、「いまくらいいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒の約7割が比較的自分に合った勉強スタイルを確立できているといえるかもしれない。

また、男女で大きく差が開いた項目では思春期特有の性差が関係していることも考えられるが、前回の調査ではここまで差は出ていない（「今の状態が自分に合っているから」と答えた生徒は男子20.7%、女子16.7%、「今、精一杯やっているから」と答えた生徒は男子11.3%、女子13.0%）。

(3. 勉強はもうしたくない と答えたみなさんへ)

C. どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。



調査結果 :

「勉強がきらいだから」と答える生徒が約半数に昇り、次いで「勉強以外のこともやりたいから」が16.0%という結果になった。男女別に「勉強がきらいだから」を見ると、男子が女子(45.6%)を大きく上回り、53.8%の生徒が「勉強がきらいだから」と答えている。

考察 :

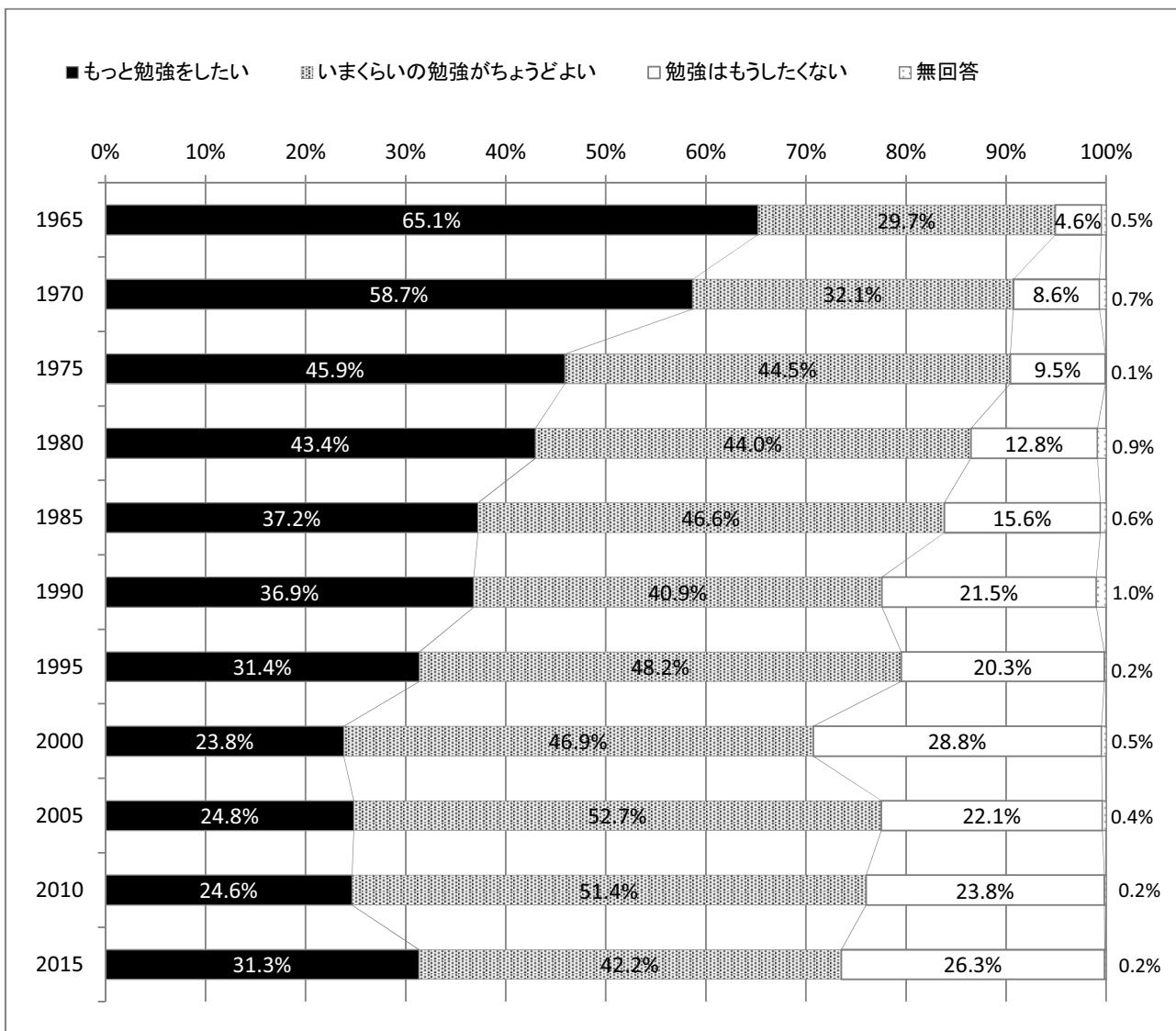
「勉強はもうしたくない」と答えた生徒（今回の調査対象全体の26.3%, p.26）の内、半数はその理由を「勉強がきらいだから」と答えている。つまりは、全体の約13.2%の生徒は、「勉強がきらいだから」、「勉強はもうしたくない」と考えているということになる。このよう

に1割を超える「勉強がきらい」になった生徒への対策を今後立てていく必要があるといえる。

また、前回の調査と比較すると「勉強がきらいだから」と答えている男子は6.4ポイント増加し、女子は2.1ポイント増加している。「勉強以外のこともやりたいから」と答えている男子は1.1ポイント減少し、女子は4.2ポイント減少した。

「その他」を選んだ生徒の記述を見ると、「めんどうくさい」「きらい」「わからない」「意味がない」といった回答が多くあった。また、「強制的にさせられている勉強が面白い・楽しいと感じない」「やらなければいけないという強制から自分のこれからが束縛され不自由を感じるから」といった回答もあった。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果 :

「もっと勉強したい」と答えた生徒の割合は、過去最低を記録した2000年(23.8%)を境にほぼ横ばいで推移していたが、今回は31.3%と大きく上昇し、1995年の水準にまで回復した。同様に「勉強はもうしたくない」と答えた生徒の割合も、2000年の28.8%に次ぐ高い割合(26.3%)となった。「いまくらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒は前回2010年よりも約9ポイント減少している。

考察 :

「もっと勉強したい」と答えた意欲的な生徒が大きく増えたことは喜ばしいことだが、その内実を見ると、

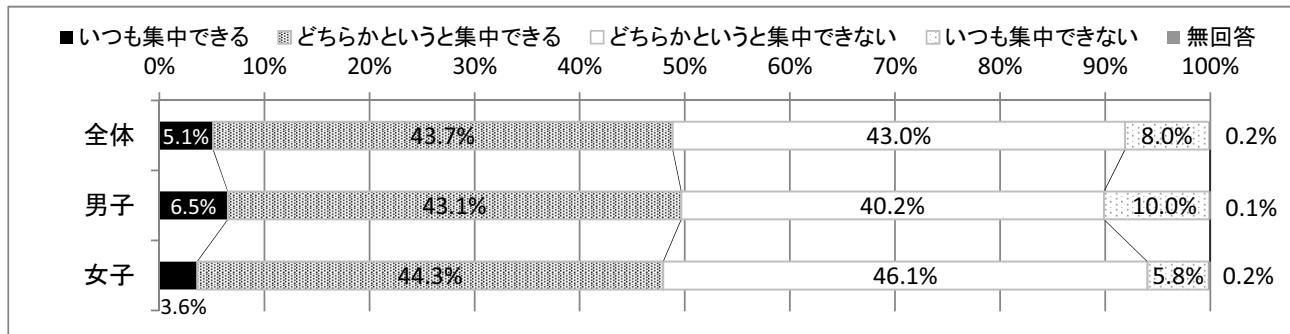
2010年と比べ、「自分の将来の夢や生活のためになるから」19.4%→14.0%、「進学や受験のためになるから」49.1%→56.0%と、自分の将来のためにもっと勉強したいと答えた生徒が減り、受験のためにもっと勉強したいという生徒が増えている。勉強は自分の将来のためというよりは、まず目の前にある受験を乗り切るために行うことだと考えている生徒が多いようだ。

一方で、「勉強はもうしたくない」と答えた生徒の割合も増えており、二極化が進んでいることは軽視できないだろう。入試制度が変わり、学力試験の比重が高くなつたことで、勉強を進めいくことに不安を感じていることが原因の一つかもしれない。

5. 勉強への集中度

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目5：勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。



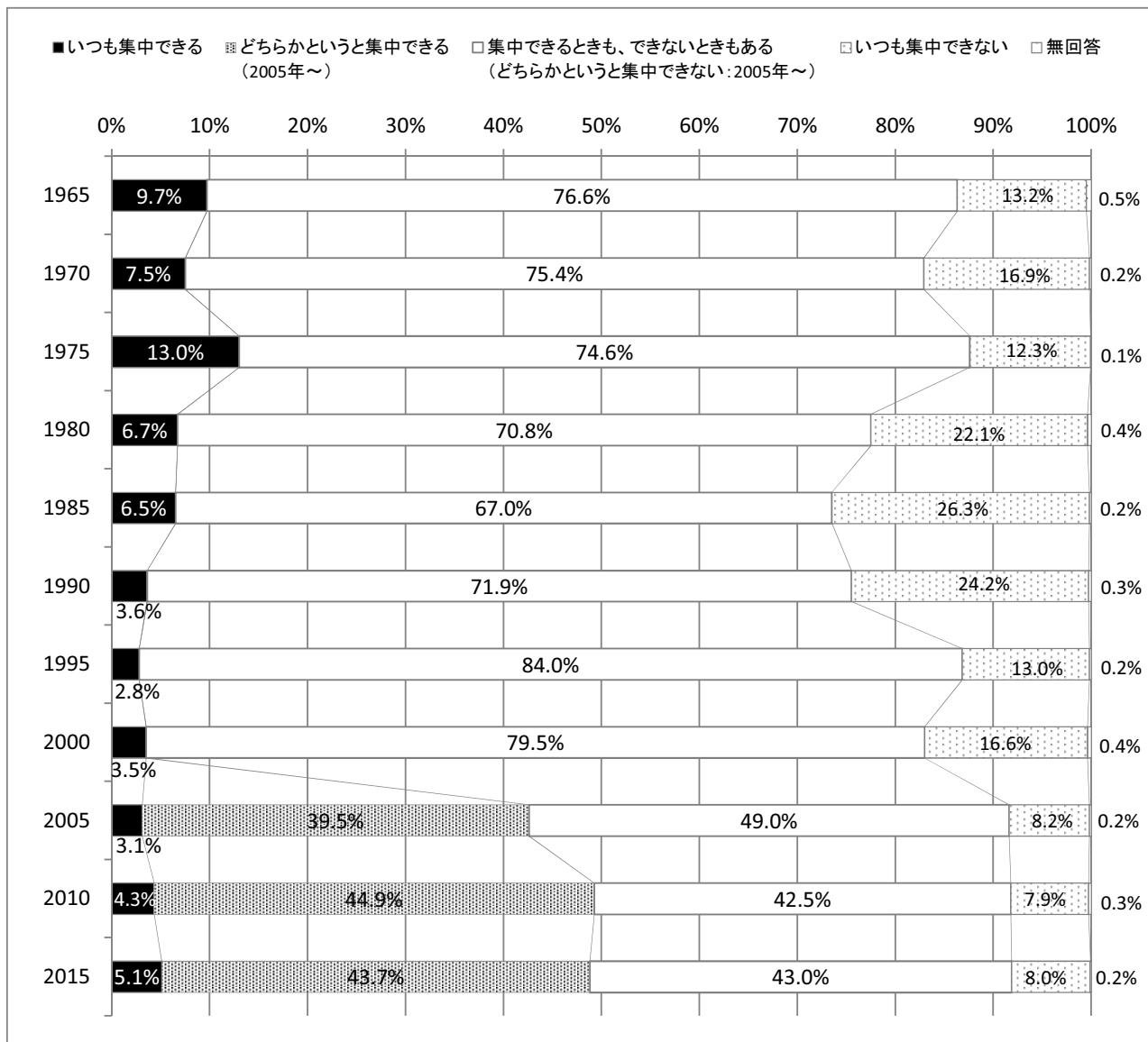
調査結果：

「いつも集中できる」生徒と「どちらかといふと集中できる」生徒を合計した「集中できる」生徒(48.8%)と、「いつも集中できない」生徒と「どちらかといふと集中できない」生徒を合計した「集中できない」生徒(51.0%)は、ほぼ同じ比率である。男女別では、両極端の「いつも集中できる(6.5% > 3.6%)」生徒と「いつも集中できない(10.0% > 5.8%)」生徒は、男子の比率が女子より高い。

考察：

「いつも集中できない」生徒が、全体の約1割いるということは、学校の授業においても集中できないでいる生徒が一定数いることが考えられる。また、学校外での場合は、勉強以外に興味をそそるものが周りに多くありすぎるという状況も否定できない。教室環境や授業の進め方を含め、集中できる環境をどのようにつくっていくかは、今後の課題といえるだろう。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果 :

2005年以降、「いつも集中できない」生徒は約8%と変わっていない。「集中できる生徒」(いつも集中できる生徒+どちらかというと集中できる生徒)と、「集中できない生徒」(いつも集中できない生徒+どちらかといふと集中できない生徒)の割合は、2010年と同様2015年もほぼ半々となった。そして「いつも集中できる」生徒は若干ではあるが増加が見られた(2005年3.1%、2010年4.3%、2015年5.1%)。

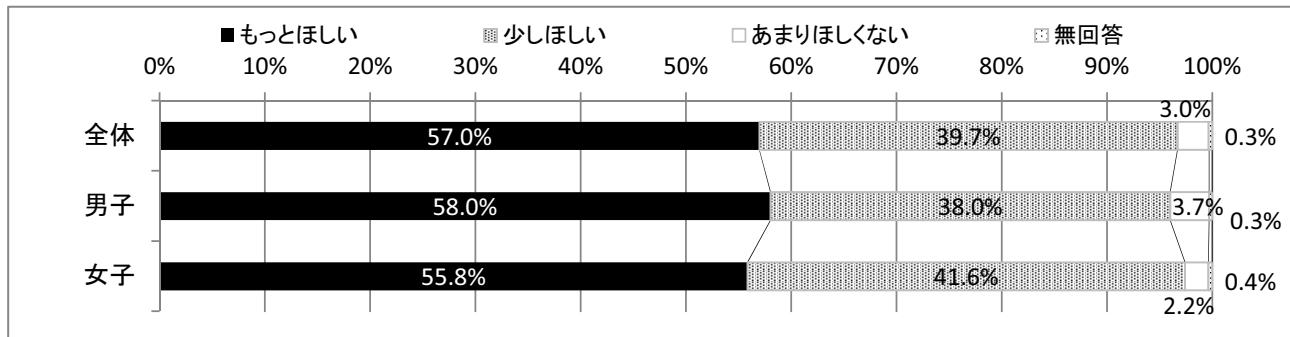
考察 :

前回同様の結果とはいえ、集中できない生徒が半数もいることは軽視できないだろう。どこで勉強している時のことなのか、この設問ではわからないが、家庭での学習の場合、勉強以外に興味を引かれるものとして、ソーシャルゲーム・SNSなどの急激な普及により、集中が妨げられることもその要因の一つと考えられる。

6. 勉強以外の自由時間に対する願望

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目6：勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。



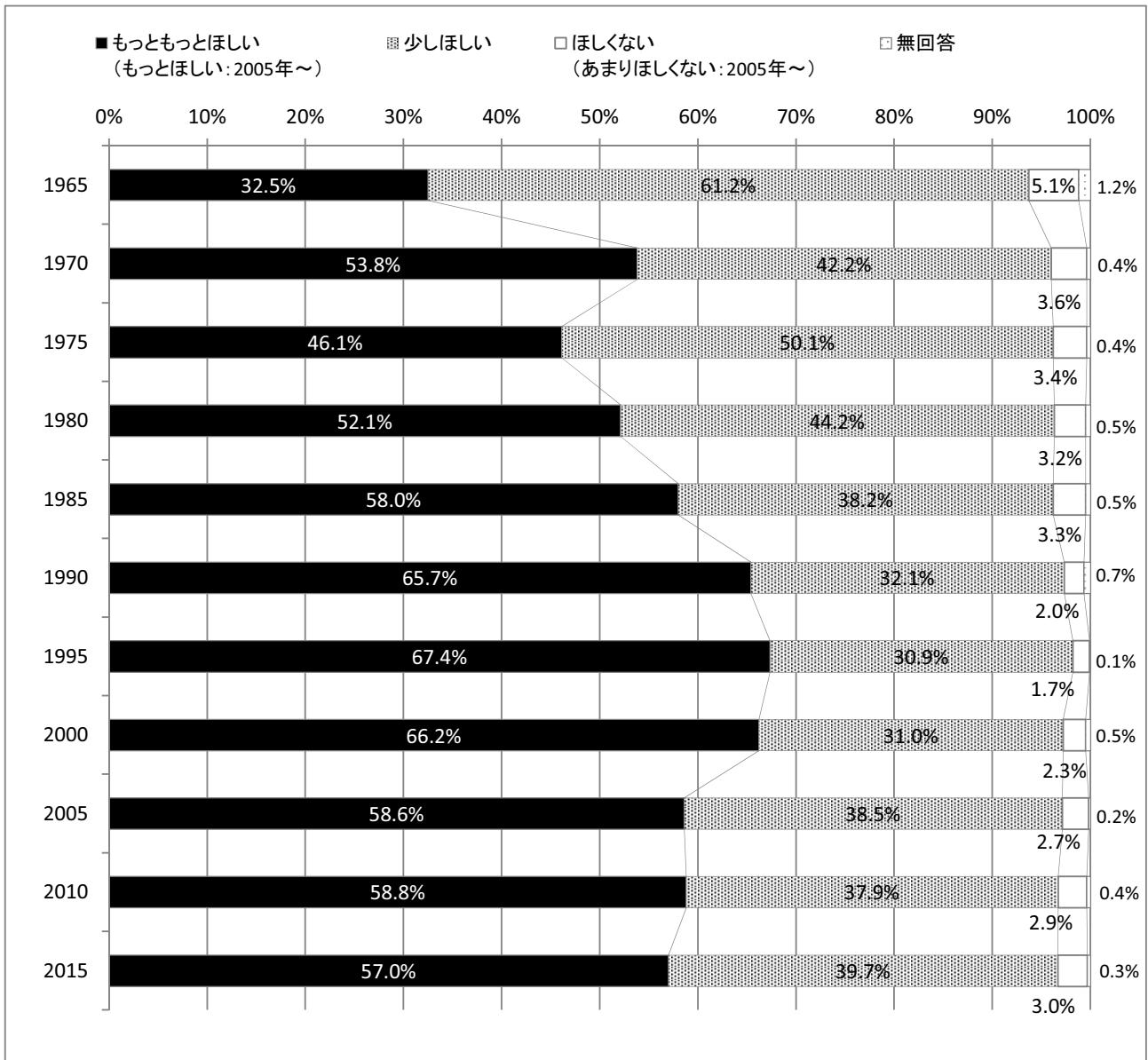
調査結果：

「もっとほしい(男子58.0%、女子55.8%)」が男女ともに約6割を占め、「少しほしい(男子38.0%、女子41.6%)」と合計すると、「ほしい」が全体で96.7%に達する。「あまりほしくない」は男女ともに2~3%台にすぎない。また、男女の差はあまり見られない。

考察：

勉強以外の自由時間が「ほしい」（「もっとほしい」＋「少しほしい」）生徒が、96.7%いることは、ごく自然なことと考えられる。

(2) 50年間の時系列比較及び考察



比較結果 :

勉強以外の自由時間をほしがっている生徒の比率は50年間常に高く、9割を超えていた。1990年から2000年まで、「もっともっとほしい」という強い願望が65%を超える時代があったが、選択肢を「もっとほしい」に変更した2005年から2015年にかけては57~59%程度に減少している。勉強以外の自由時間をほしがっていない生徒は今回もわずか(3.0%)である。

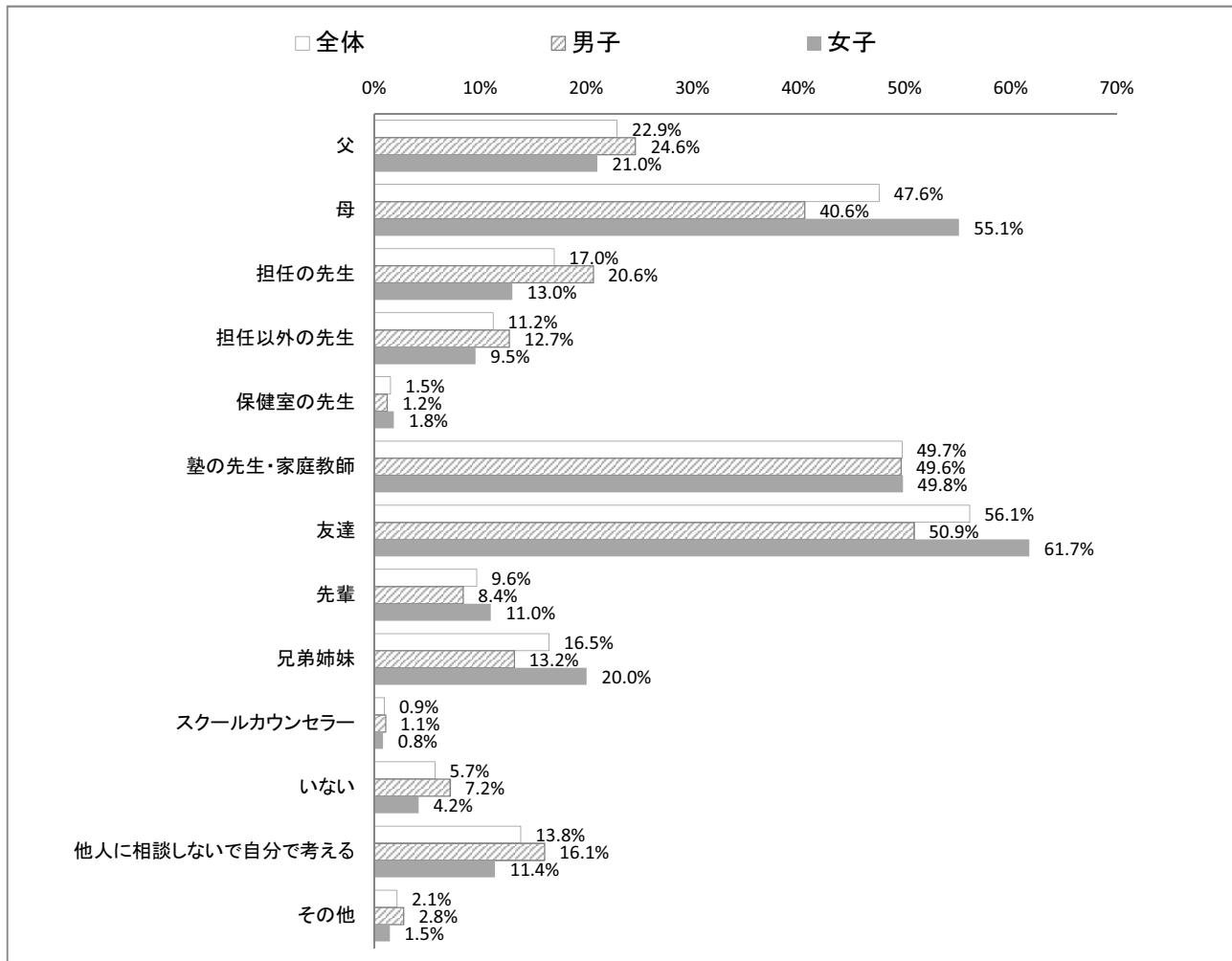
考察 :

自由への願望は、生徒が学校生活や家庭生活で窮屈を感じていることの現れともとらえることができる。「もっとほしい」という強い願望は、調査開始時は30%台と低かったが、その後上昇して、1985年以降は60%前後を推移している。2005年から2015年では、この間、携帯電話などの急速な普及により生活環境が変化したと思われるが、自由時間をほしがっている生徒の比率はほぼ変わっていないことから、それらの影響はあまり受けていないように見受けられる。

7. 勉強に関する悩み事の相談相手

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目7：勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。



調査結果：

最大の相談相手は「友達（56.1%）」である。2位が「塾の先生・家庭教師（49.7%）」、3位が「母（47.6%）」であり、以下「父（22.9%）」、「担任の先生（17.0%）」、「兄弟姉妹（16.5%）」、「担任以外の先生（11.2%）」、「先輩（9.6%）」の順である。また、約1割の生徒が「他人に相談しないで自分で考える（13.8%）」と回答している。相談相手が「いない」生徒も5.7%いる。男女の差が大きいものとして、「母」は男子40.6%<女子55.1%であり、「友達」は男子50.9%<女子61.7%、「父」は

男子24.6%>女子21.0%、「担任の先生」は男子20.6%>女子13.0%である。「兄弟姉妹」は男子より女子の方が多かった（男子13.2%<女子20.0%）。

また、「他人に相談しないで自分で考える」は10%以上いたが、女子より男子の方が多かった（男子16.1%>女子11.4%）。

「その他」の記述内容としては、「悩みがない」が最も多く、それ以外では「祖父母」「いとこ」等の親戚が多くあげられていた。

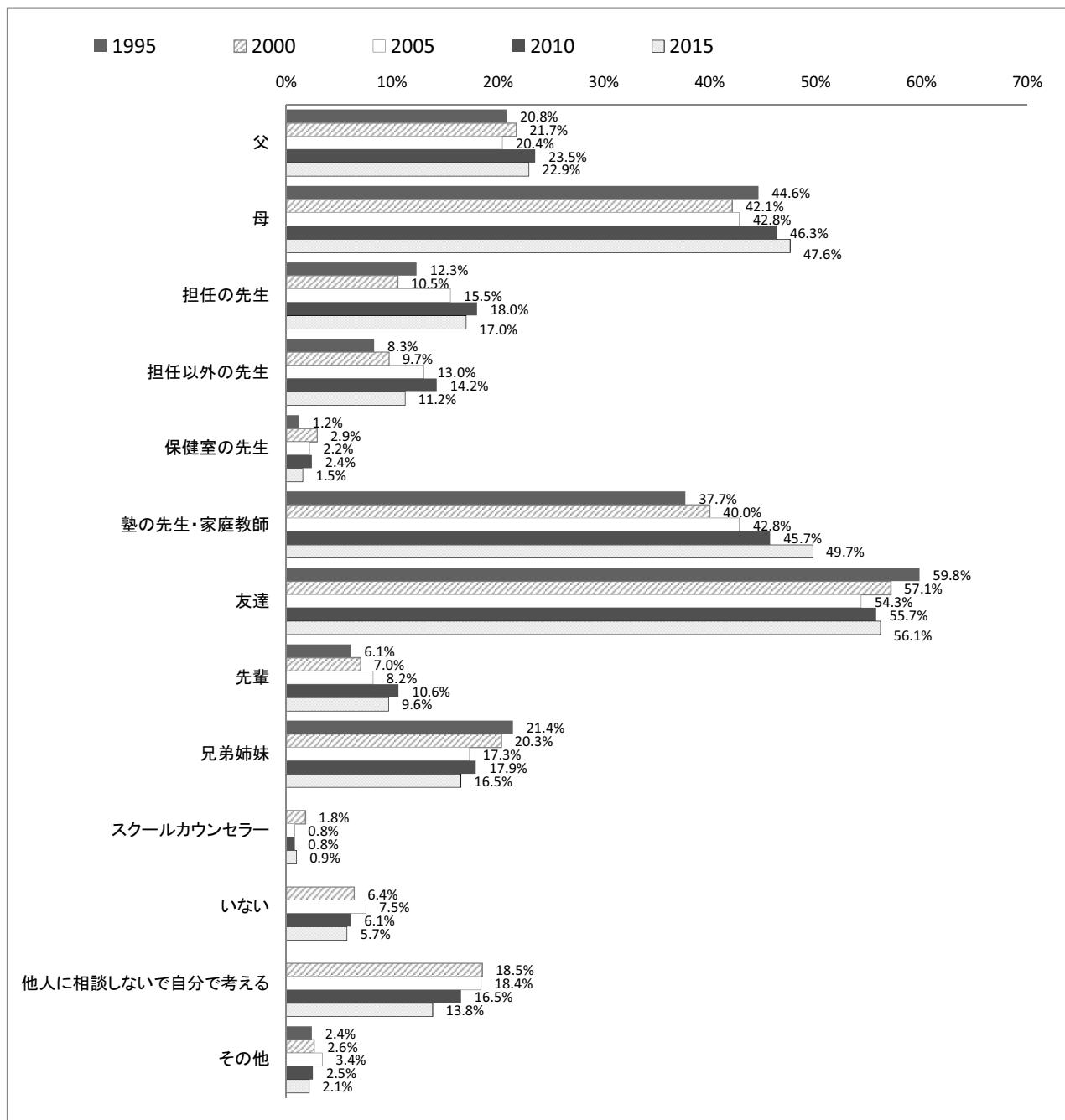
考察：

「母」、「友達」、「塾の先生・家庭教師」では、「母」、「友達」で男女に顕著な差が見られるものの、この3つが相談する相手として高い割合を占めた。一方、「父」「担任」では男子の割合が多くかった。「担任の先生」や「担任以外の先生」よりも、「塾の先生・家庭教師」に相談するということは、学習塾の持っている受験等に関する

データの豊富さや、近年の学習塾が学習を手厚くサポートすることに力を入れていることと関係するとも考えられる。

「スクールカウンセラー」と「保健室の先生」の数値が極めて小さいが、その性質上、勉強以外の悩みを相談することの方が多いと考えられる。

(2) 1995年からの時系列比較及び考察



比較結果：

過去20年間、「塾の先生・家庭教師」への相談は増加傾向にある。特に今回、「母」を上回り、「友達」について2位となっている。逆に「兄弟姉妹」は減少傾向にある。2010年まで増加傾向だった「担任以外の先生」、「先輩」は、今回の調査では減少に転じた。「父」は20%を前後しているが、「母」は2000年以降、増加傾向にある。

考察：

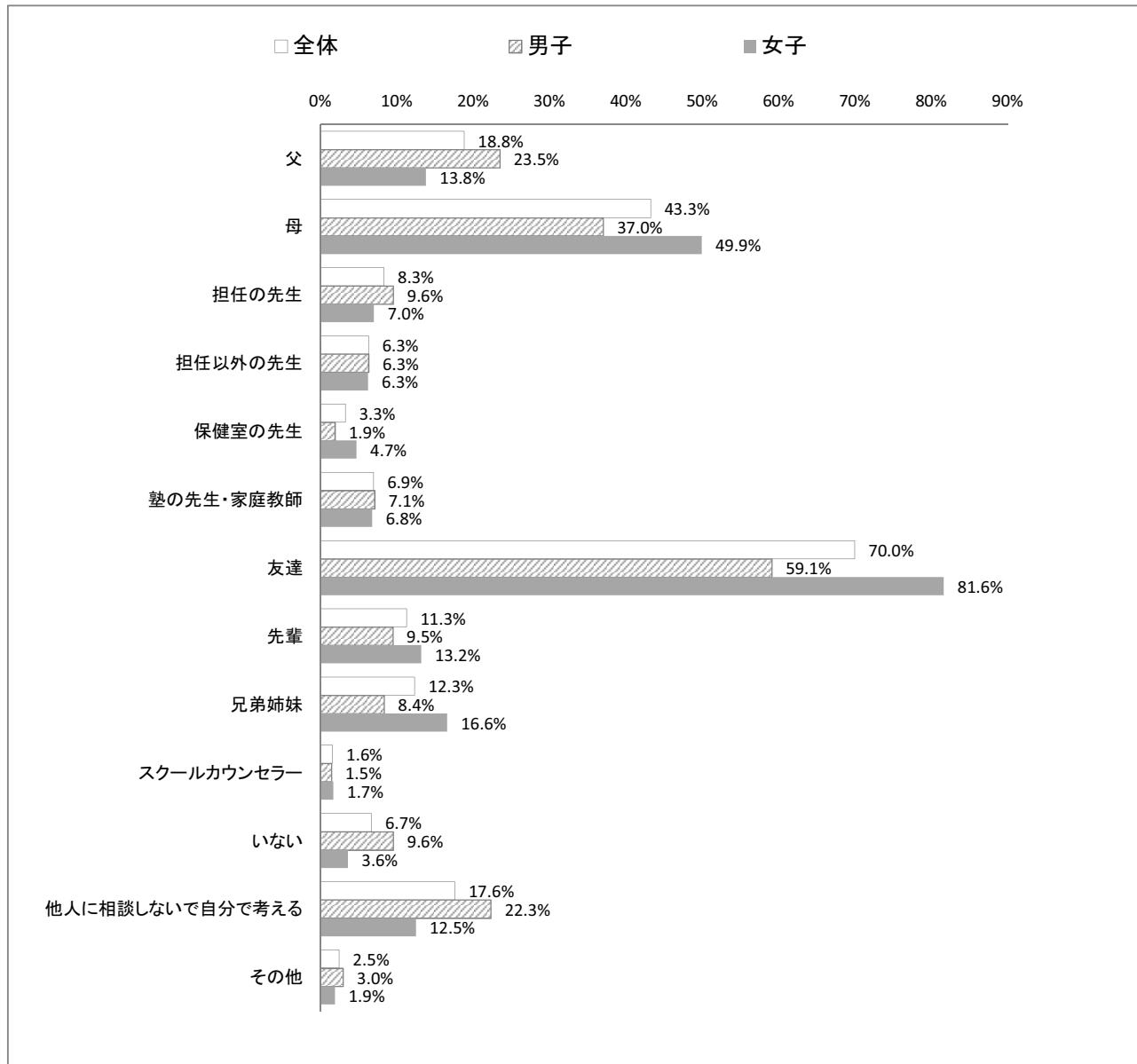
1995年から「母」、「塾の先生・家庭教師」、「友達」への相談が多いのは変わらないが、大きな変化が見られたのは、「塾の先生・家庭教師」の増加である。これは学習塾に通う生徒が増加し(p.44)、学習塾の先生に相談できる生徒の割合が増えたこととも関連があると思われる。

「他に相談しないで自分で考える」が減少傾向にあるのは、受験が生徒にとって、一人で解決することが難しい問題になっているためではないかと考えられる。

8. 勉強以外の悩み事の相談相手

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目8：勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。



調査結果：

群を抜いているのは「友達」、次に「母」となった。ただし、「友達」と「母」に相談するのは男子よりも女子の方が多かった。「友達」は男子59.1%<女子81.6%であり、「母」は男子37.0%<女子49.9%である。

次に相談することが多いのは、「父」、「兄弟姉妹」で

あるが、「父」に相談するのは男子の方が多かった（男子23.5%>女子13.8%）。また、「兄弟姉妹」は女子の方が多かった（男子8.4%<女子16.6%）。

また、「他人に相談しないで自分で考える」は男子の方が多かった（男子22.3%>12.5%）。「その他」の記述内容では、「悩まない」が多く、次に「後輩」が続いた。

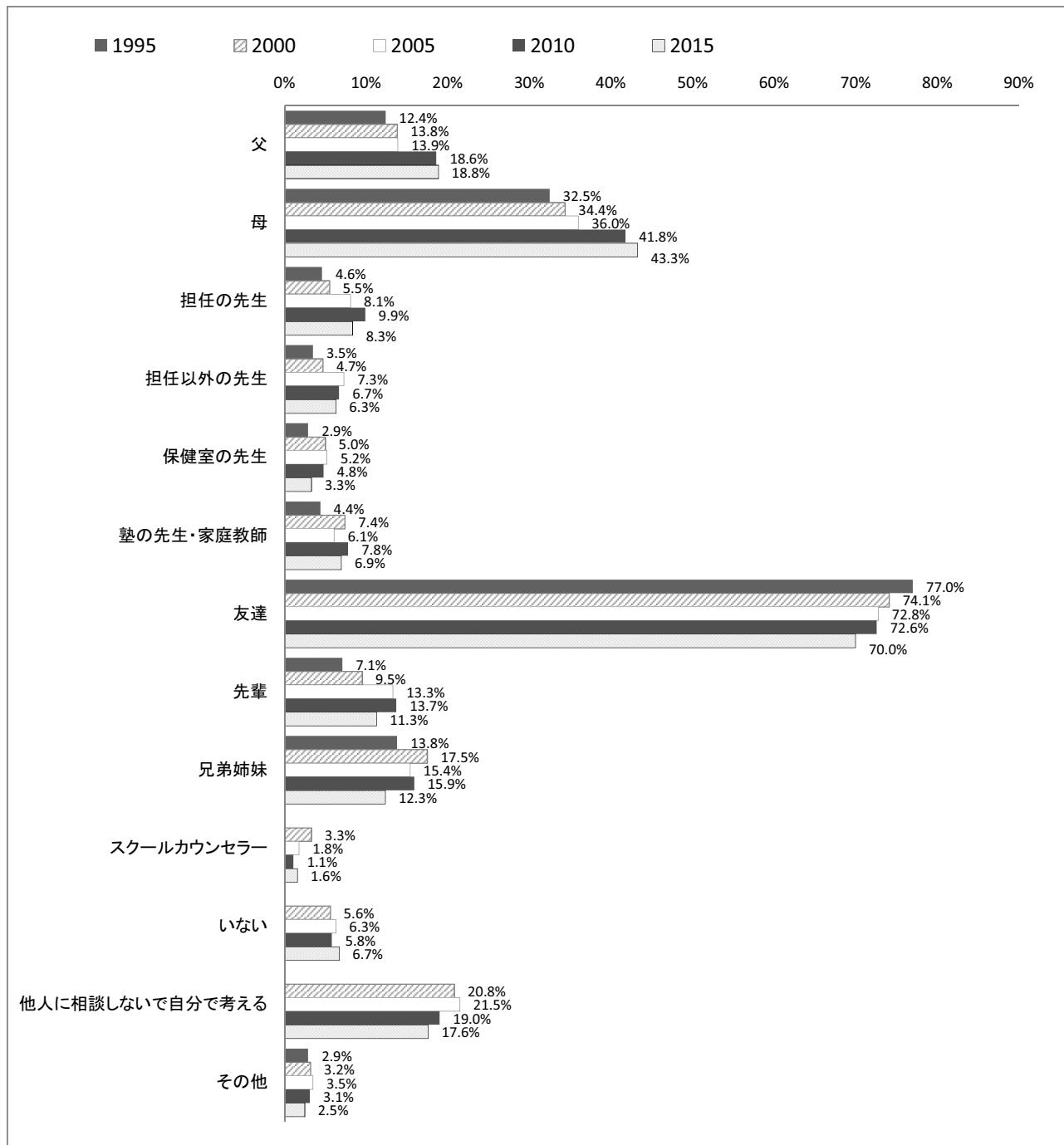
考察：

勉強以外の悩み事の相談相手としては、圧倒的に「友達（70.0%）」を選んでいる。特に女子は81.6%と8割以上の生徒が勉強以外の悩み事の相談相手として「友達」を選択している。男女の差は22.5ポイントもあるが、男女における友達同士のかかわり方の違いが現れているものと考えられる。次に続くのが父母だが、ここでも父母

間の差が見られる（母>父）。ただし、男女とも同性の親を選ぶ傾向がある。

また、相談相手が「いない」と回答した生徒は6.7%で数値としては小さなものであるが、相談相手もなく、悩みを抱え込んでいる生徒が少なからずいるという現状をしっかりと受け止める必要があると考える。

(2) 1995年からの時系列比較と考察



比較結果 :

「父」「母」へ相談すると回答した生徒は、過去20年間一貫して増加傾向にある。

一方、「友達」は減少し続けている。「担任の先生」「先輩」に関しては、2010年まで増加傾向だったが、今回の調査で減少に転じた。また、「他人に相談しないで自分で考える」も過去15年間で見ると減少傾向にあるが、数値としては「父」に次いで4番目に多い。

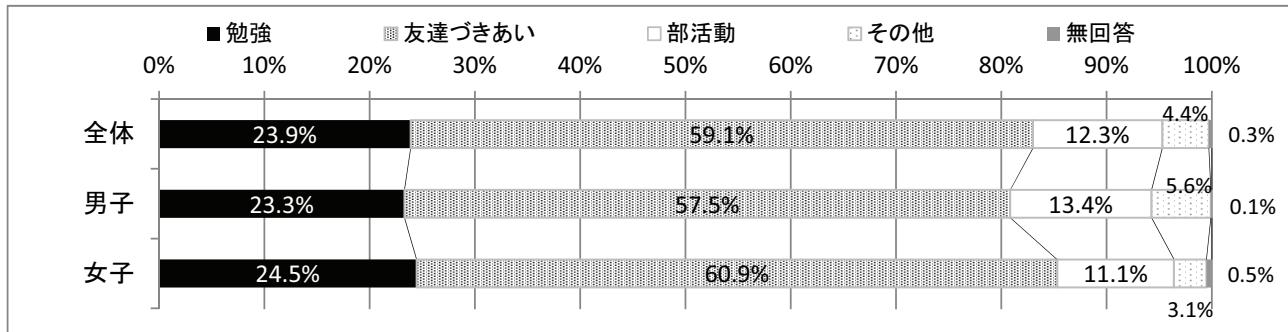
考察 :

勉強以外の悩み事の相談相手として、「父」「母」が増加傾向にあるのは、近年父親の子育てに対する意識の高まりなど、親の意識の変化により、相談しやすくなったのではないかと考える。一方で、友人が減り、父母が増えるという傾向は、いわゆる青年期がたどる自立とは逆のプロセスになっているともいえる。

9. 学校の中で一番大切に思うもの

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目9：学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか？ どれか一つに○をつけてください。



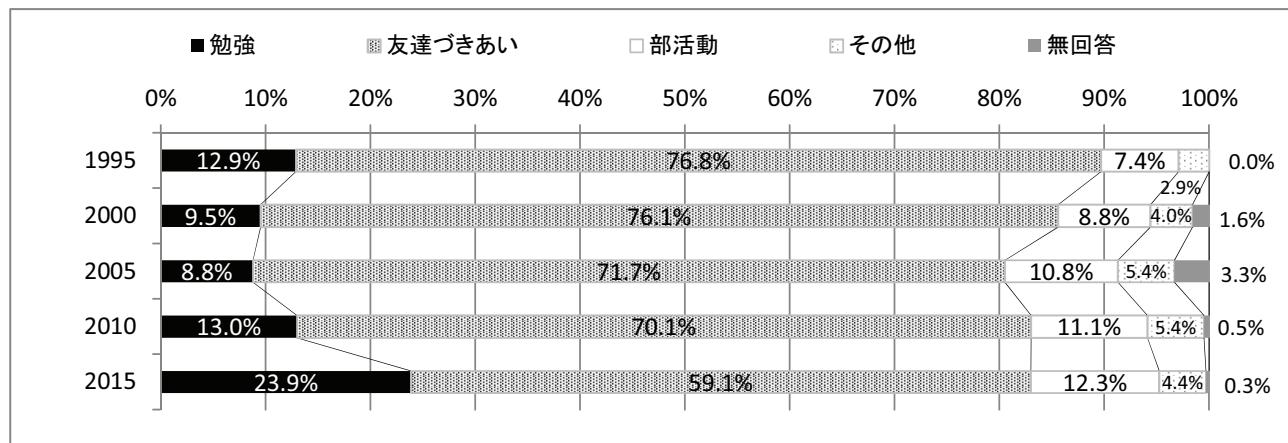
調査結果：

「友達づきあい」が男女とも1位であり、半数以上の割合となっている。次は「勉強」であり男女とも24%程度で性差は見られなかった。「部活動」が12.3%と最も少ない。「その他」の記述内容では、「すべて」「全部」と答える生徒が多く、次に多かったのは「ない」であった。

考察：

「7. 勉強に関する悩み事の相談相手」、「8. 勉強以外の悩み事の相談相手」のどちらでも、1位が「友達」であったことから、学校の中で一番に思うのが「友達づきあい」であると回答する生徒が6割弱いることも領ける。この結果は、勉強も大切であるが、学校が集団活動を通して、望ましい人間関係を形成する場であることを意識に持っている生徒が多いことを示していると考えられる。

(2) 1995年からの時系列比較及び考察



比較結果：

「友達づきあい」は1995年からわずかながら減少傾向にあったものの、前回の調査までは70%以上を保っていた。しかし、今回の調査で大きく減少し、59.1%となつた。一方で、近年上昇傾向にあった「勉強」の割合は23.9%と、大きく増加した。

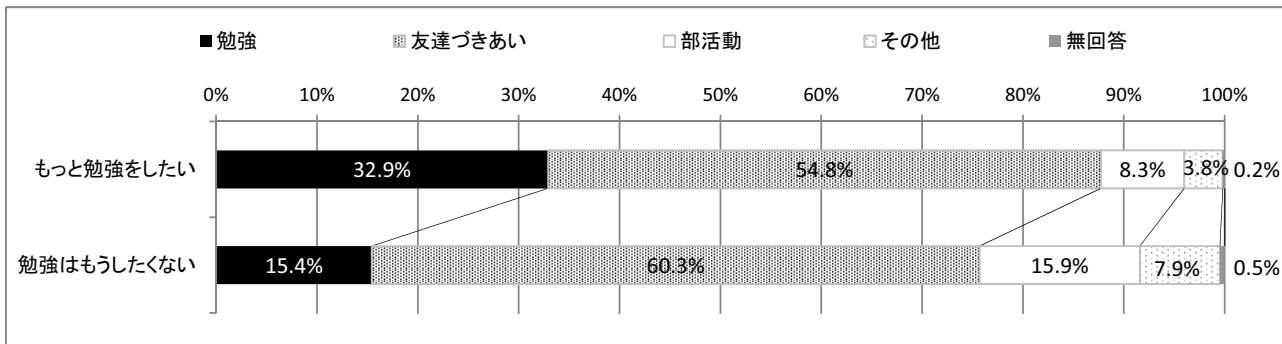
考察：

学校は第一義的には「勉強」する場所であるが、生徒の意識において、最重要事項は「友達づきあい」である。その傾向は20年間変わってはいない。しかし、今回の調査で「勉強」の比率が23.9%となり、前回に比べて

10.9ポイントの増加となった。「学校の中で一番大切に思うもの」という言葉から思い浮かべるイメージが変化している可能性も考えられる。

このことは、「学校の中で…」という設問の持つ状況が、近年大きく変化したことが関係するのではないだろうか。SNSの急速な普及により、生徒は学校の中以外にも、友達とかかわる場を持っている。四六時中友達と連絡が取れる状況の善し悪しは別として、友達とのかかわりが、学校の外へと広がっていることも、今回の結果の要因の一つとなっているかもしれない。今後、SNSとの関連については、注目していく必要があるといえる。

(3) 「学校の中で一番大切に思うもの」と「勉強の意欲」とのクロス集計



調査結果：

「もっと勉強をしたい」「勉強はもうしたくない」生徒とも、学校の中で一番大切に思うものは「友達づきあい」が最も多いが、その割合は「勉強はもうしたくない」生徒の方が高い($60.3\% > 54.8\%$)。「もっと勉強をしたい」生徒の32.9%が学校の中で「勉強」を一番大事だと回答している一方で、「勉強はもうしたくない」という生徒の15.4%が「勉強」を一番大事だと回答している。

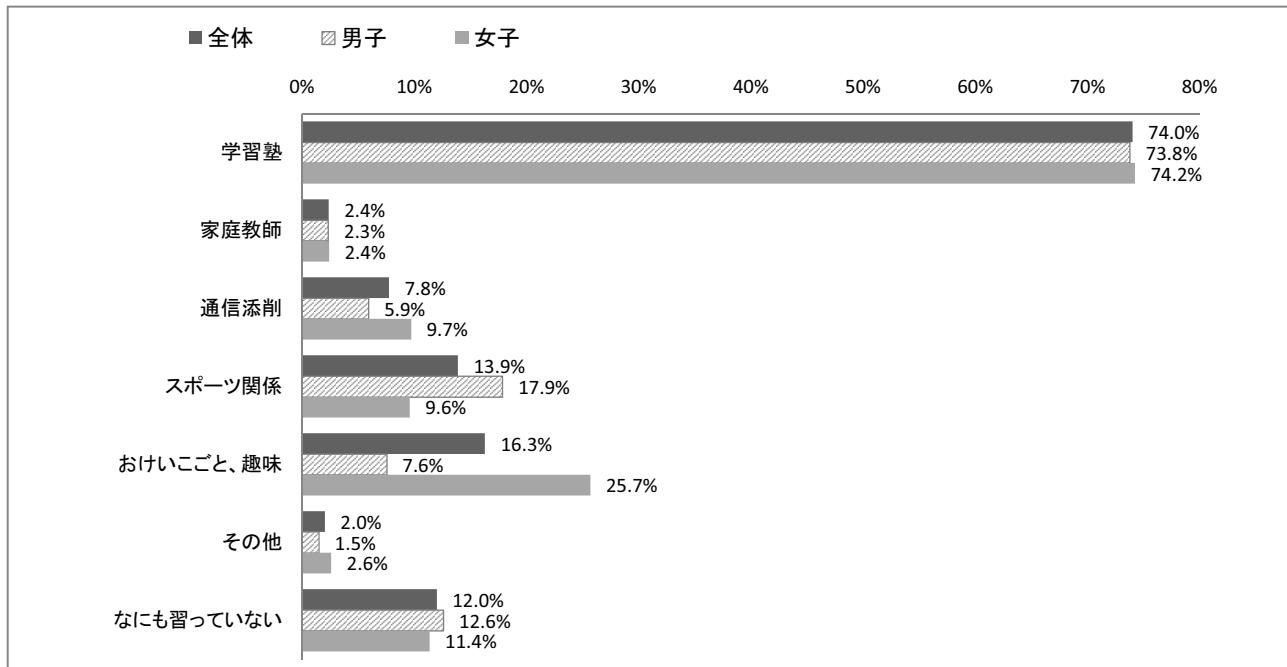
考察：

「もっと勉強をしたい」生徒の方が、「学校の中で一番大切に思うもの」として「勉強」を選ぶ傾向が強いことがわかった。今回の調査では、項目4の結果(p.30)から、「もっと勉強をしたい」生徒が大幅に増えたことがわかつている。それにより、大切に思うものとして「勉強」を選ぶ生徒が増えるのは自然なことなのかもしれない。しかし、「勉強はもうしたくない」生徒の結果を前回調査の全体の結果と比べても、大切なものとして「友達づきあい」を選ぶ生徒は減っている。やはり、生徒の意識に何らかの変化があったことが考えられる。

10. 学校以外での習い事

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目10：学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつづてもかまいません。



調査結果：

「なにも習っていない」生徒は12.0%であることから、何らかの習い事をしている生徒は88.0%いることがわかる。「学習塾」、「家庭教師」はほぼ性差がないが、「通信添削」(5.9% < 9.7%)は女子の方が多い。「スポーツ関係」は男子が多く(17.9% > 9.6%)、「おけいこごと、趣味」は女子が多い(7.6% < 25.7%)。

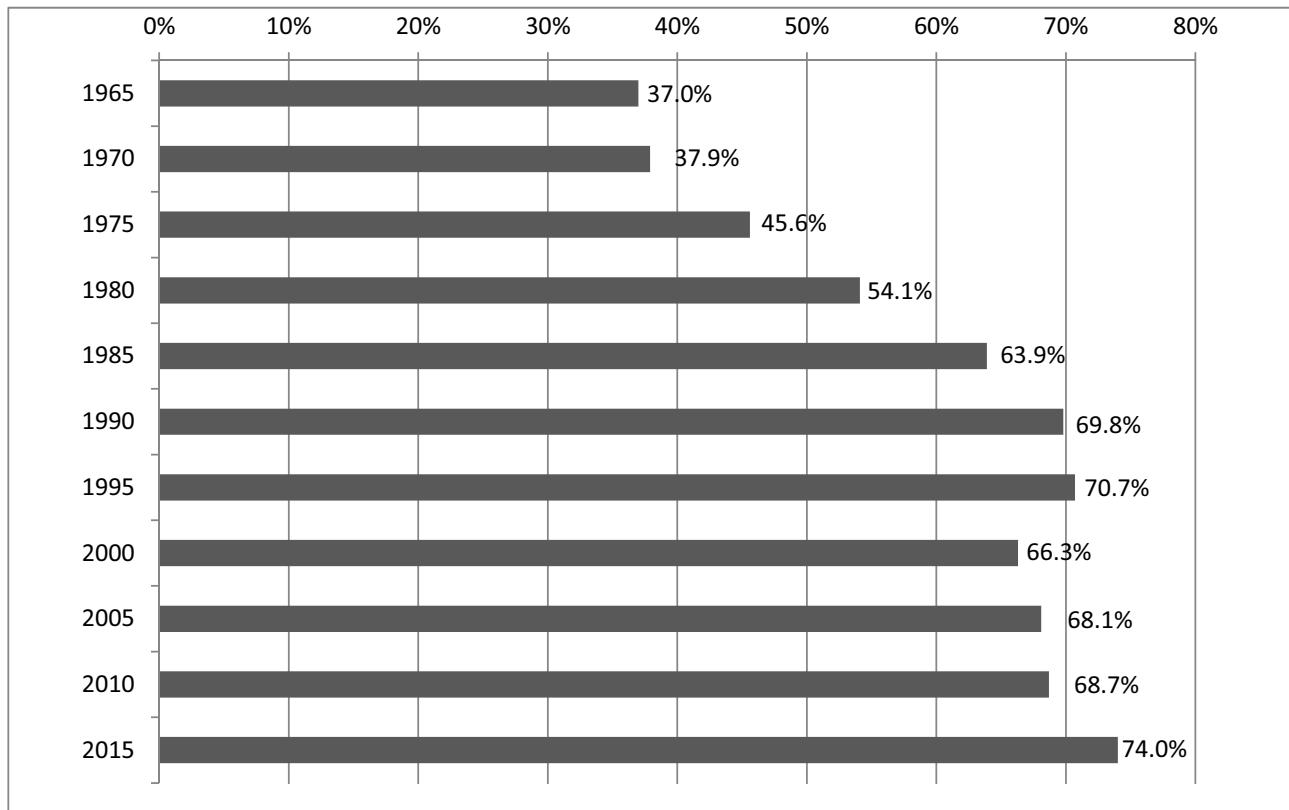
「その他」の記述内容は、「英語・英会話等(17)」「ピアノ・エレクトーン等の楽器(10)」「チアダンス・フラダンス等のダンス(5)」と続いた。

考察：

2つ以上習い事をしている生徒がいることから、勉強に関する習い事が主で、それ以外にも習い事をしている生徒が多いことが予想される。「なにも習っていない」生徒は「放課後何もしていない生徒」ばかりではなく、部活に打ち込んでいる生徒も含まれるのではないかと考えられる。

(2) 50年間の時系列比較と考察

①学習塾



比較結果 :

「学習塾」に通っている生徒の増加は1995年で一度ピークを迎え、2000年で落ち込んでいる。それ以降微増傾向を示していたが、今回の調査で過去最大の割合74.0%となっている。

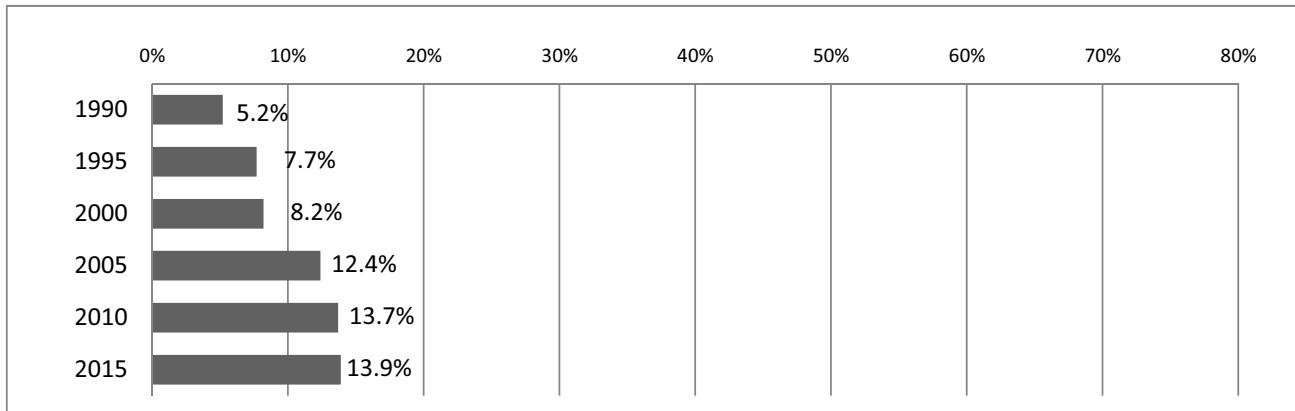
考察 :

50年間の変化に関連する要因としては、経済状況などの変化による影響があると考えられる。

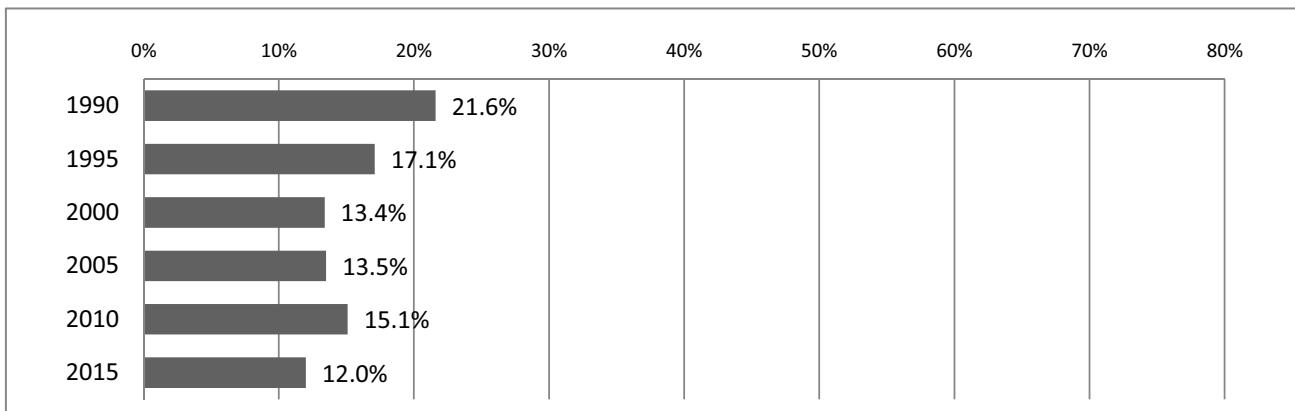
しかし、2000年以降の増加傾向については、学区撤廃や特色ある高校づくりによる学校選択の多様化や教育課題に伴って繰り返し行われた入試制度の改革により、生徒や保護者の入学試験に向けた対策への意識が高まったことも影響しているのではないかと考えられる。

(3) 1990年・2000年からの時系列比較及び考察

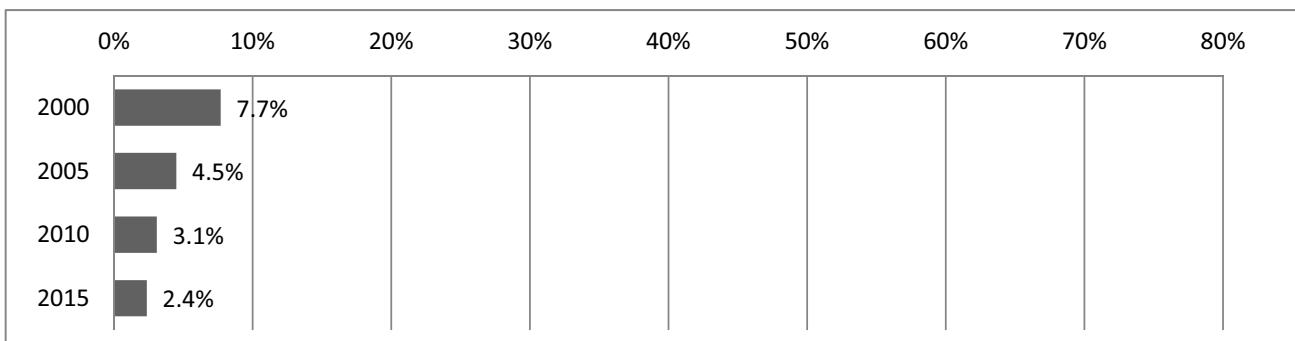
②スポーツ関係



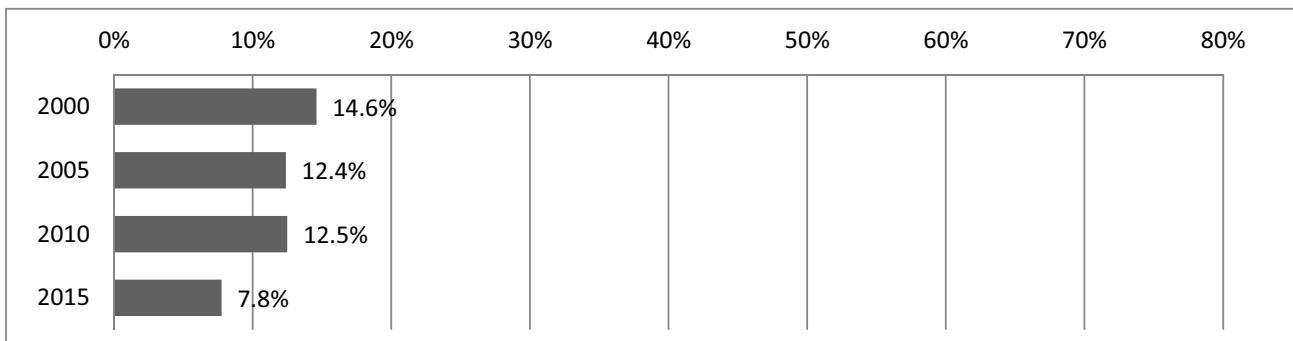
③なにも習っていない



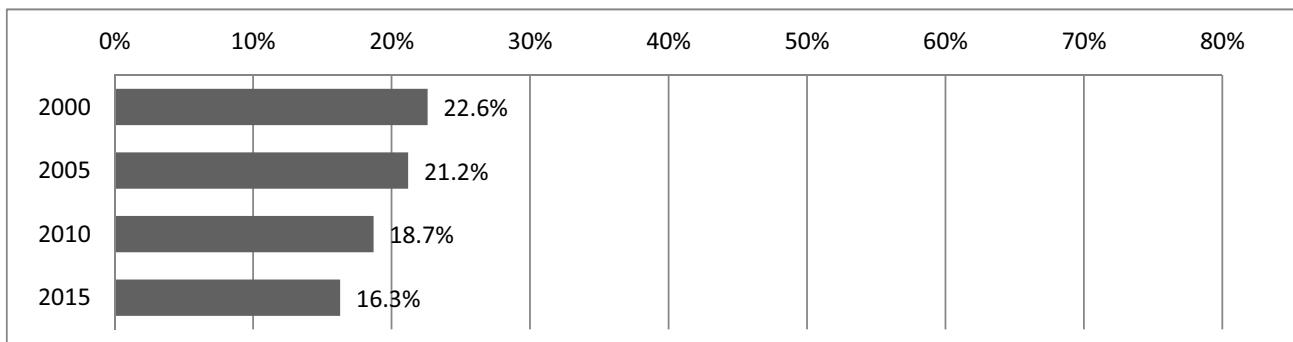
④家庭教師



⑤通信添削



⑥おけいこごと、趣味



比較結果 :

「スポーツ関係」は横ばい、その他は全体として減少を続けており、「学習塾」のみが増加している。

「通信添削」と答えた生徒は調査項目に加えた2000年から前回まで大きな変化は見られなかったが、今回の調査で4.7ポイントの減少が見られた。

生徒の8割以上が何らかの学校以外での習い事をしている結果は前回の調査と同様の傾向である。とはいえ、内訳を見ると、「家庭教師」「通信添削」の割合が減少し、「学習塾」だけが5.3ポイント増加という結果であった。

考察 :

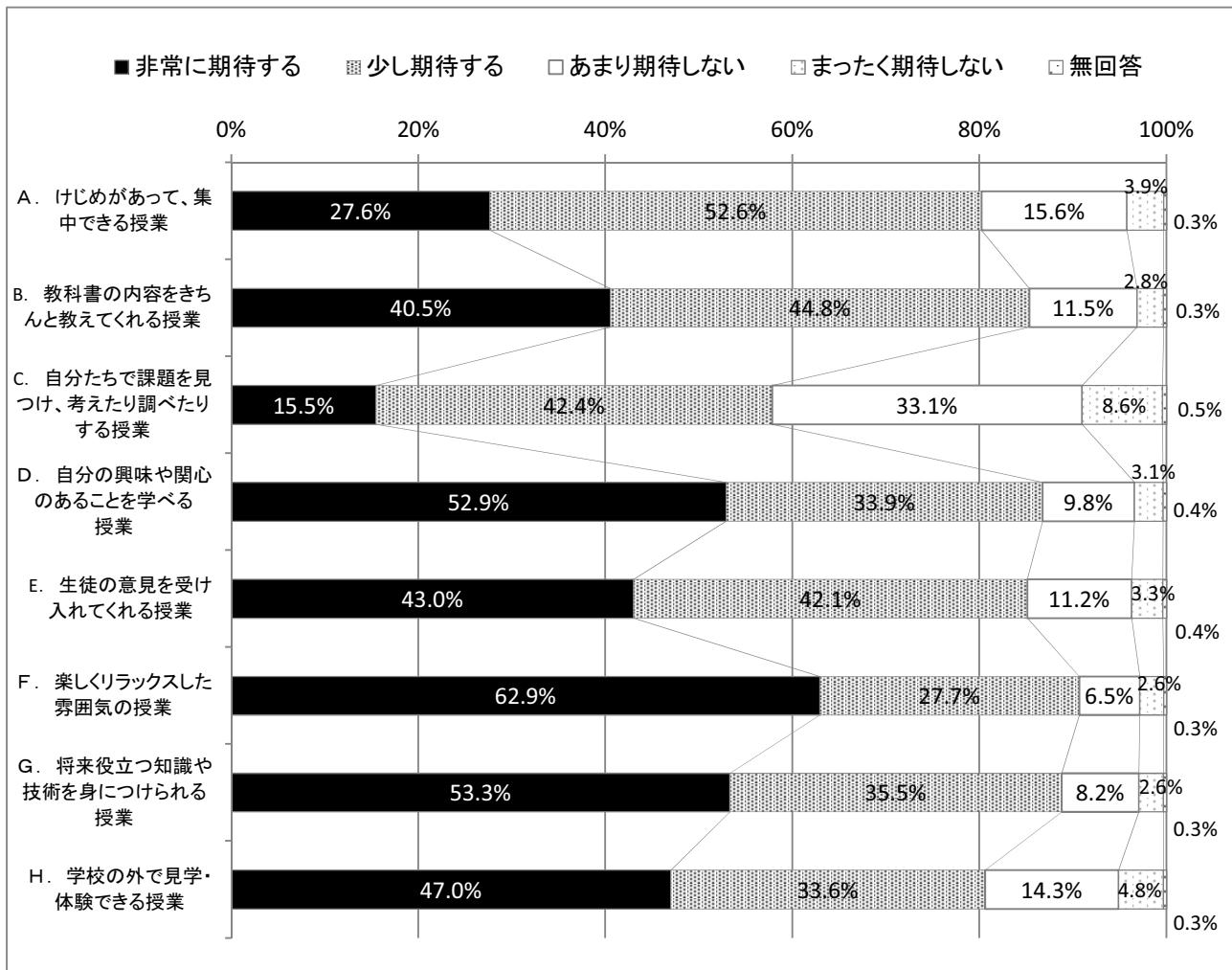
自分の楽しみや趣味を習うよりも学習塾へ通う生徒が増えていることが見てとれる。また、学習塾にもいろいろなタイプ（個別指導など）が増え、生徒や保護者のニーズに応えているとも思われる。家庭教師や通信添削よりも、学習塾が多くの受験に関するデータを持っていることが、生徒や保護者を引きつける要因となっているのではないだろうか。

11. 期待する授業

(1) 2015年の調査結果及び考察

項目11：学校で、次のような授業をどのくらい期待しますか？

それぞれの文について、どれか一つに○をつけてください。



調査結果：

「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」を除く7つの項目に対する期待（「非常に期待する＋少し期待する」）が8割を超えていた。

「期待する」生徒の割合が多いものから並べると、次の通りである。

1位 楽しくリラックスした雰囲気の授業

2位 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業

3位 自分の興味や関心のあることを学べる授業

4位 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業

5位 生徒の意見を受け入れてくれる授業

6位 学校の外で見学・体験できる授業

7位 けじめがあって、集中できる授業

8位 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業

考察：

生徒は学校のあらゆるタイプの授業に期待を寄せていることがわかる。内容の傾向を見てみると、将来のことを見据えて知識や技術を学び、進学のために教科書の課題に向き合う生徒の姿勢を読み取ることができる。

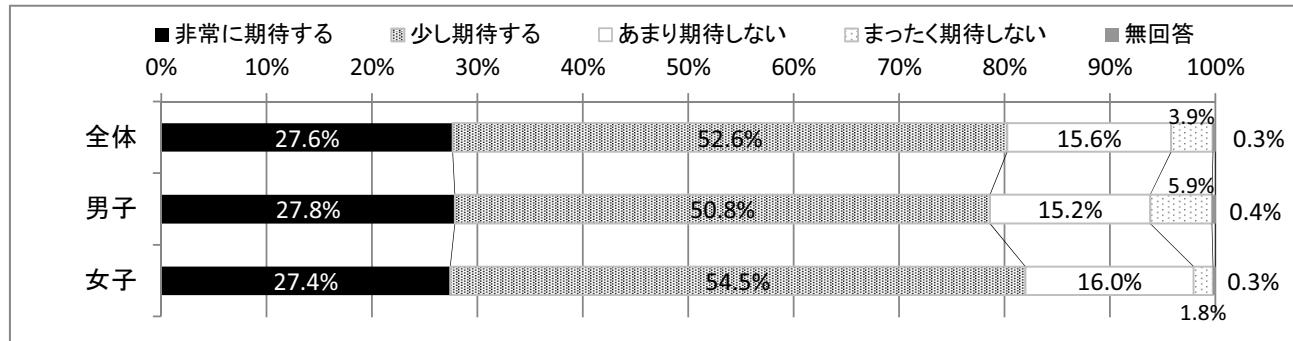
また、体験型の授業も生徒の実感を伴った学習として定着している。授業環境も楽しく、生徒の意見を反映し

てくれる指導者の授業づくりに期待していることがわかる。

一方、「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」は前回同様、他の授業と比較すると、期待する生徒の割合が低く、問題解決型の学習にやや消極的な生徒の様子が窺える。

(2) 男女の比較と時系列比較及び考察

A. けじめがあって、集中できる授業



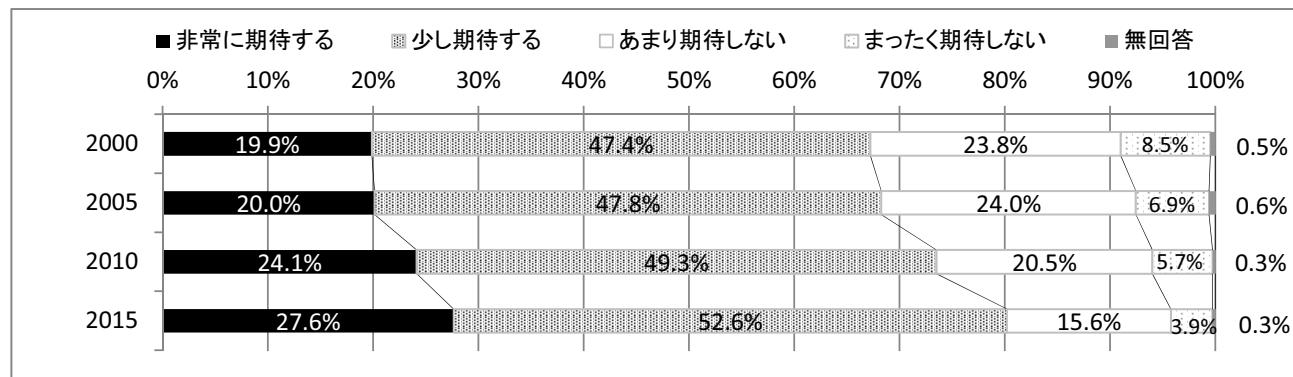
調査結果：

男女ともに「けじめがあって、集中できる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒は4分の3以上(80.2%)いる。一方「期待しない」（「あまり期待しない」+「まったく期待しない」）生徒も19.5%存在する。「まったく期待しない」生徒では男女の差が見られ、男子が女子の3倍以上(5.9%>1.8%)である。

考察：

「期待する」生徒が8割を超えており、「少し期待する」が5割を占め、「期待しない」も2割近い。強い期待ではないが、けじめのある授業は多くの生徒から期待されているといえる。

2000年からの時系列比較



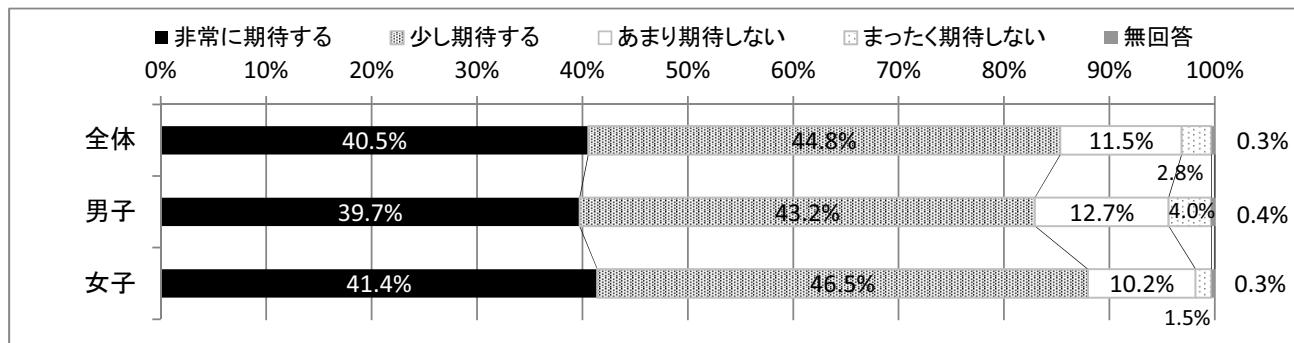
比較結果：

「けじめがあって、集中できる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒は2000年にこの調査を開始して以来過去15年間、増加し続けており、今回全体の8割を超えた。一方「まったく期待しない」生徒は減少を続け、3.9%にまで減少した。

考察：

「期待する」が一貫して増加していることから、生徒の期待が高まっていることがわかる。「期待しない」生徒も前回の調査の26.2%から今回は19.5%にまで減少し、授業環境への意識が変化してきていることが読み取れる。

B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業



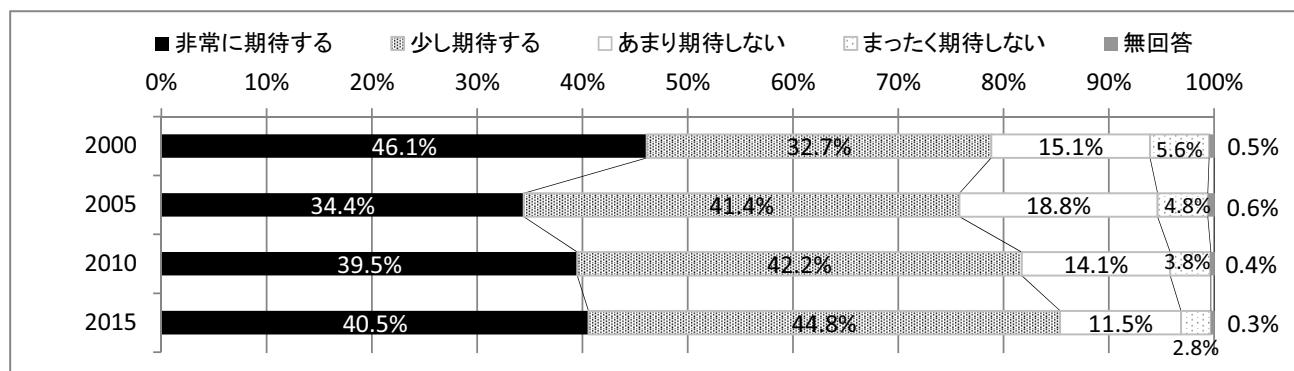
調査結果 :

「教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒が5分の4以上(85.3%)であり、期待する割合は女子の方が男子よりやや多い(87.9%>82.9%)。女子で「まったく期待しない」生徒はわずか1.5%である。

考察 :

8割強の生徒が「教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」に期待している。生徒は教科書の内容を理解したいという気持ちが強いといえそうである。

2000年からの時系列比較



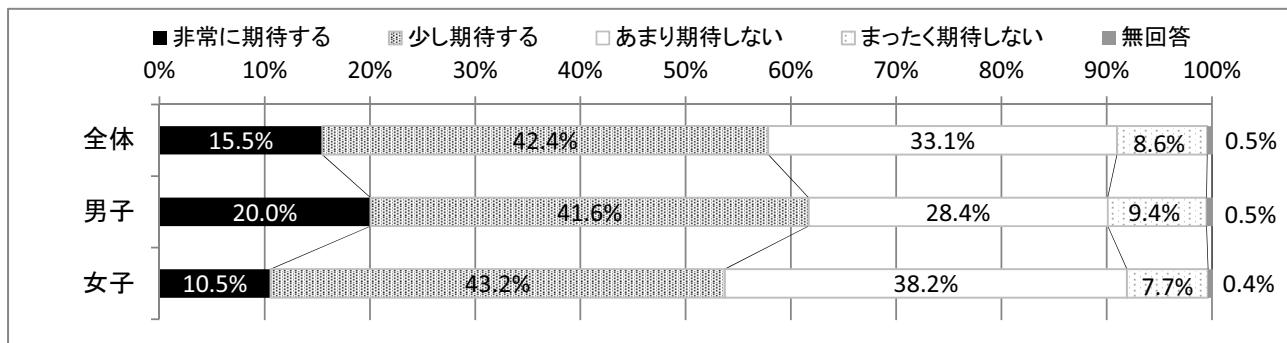
比較結果 :

「教科書の内容をきちんと教えてくれる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒は、2005年にいったん減少したが、前回の調査に引き続き増加傾向が見られ、今回は85.3%となった。一方「期待しない」生徒は2005年から減少を続け14.3%となった。

考察 :

「非常に期待する」生徒が2000年から2005年にかけていったん減少したが、これは選択肢の表現の改訂（「きちんとわかりやすく」→「きちんと」）によるものと考えられる。その後、期待する生徒の割合は増加傾向にあり、進路にかかる学習の基本が教科書であるという気持ちが現れているのかもしれない。

C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業



調査結果：

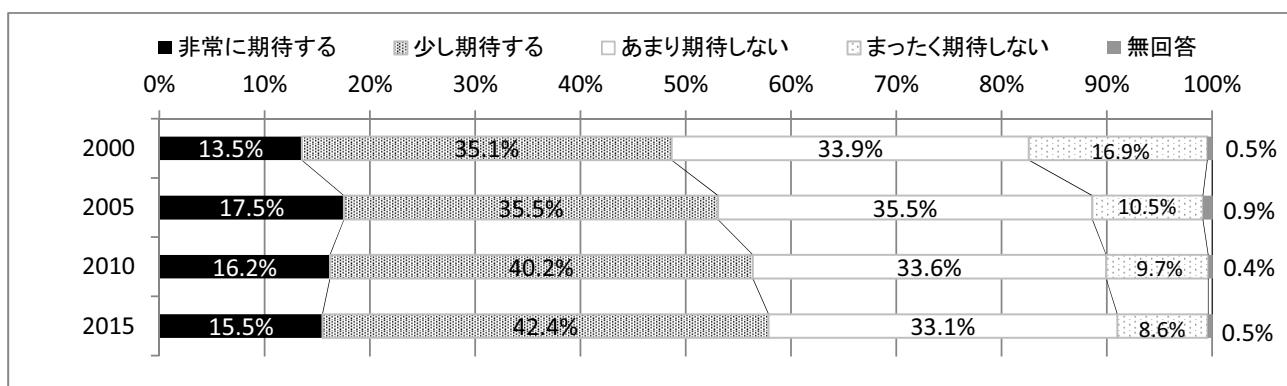
8項目中期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒の割合が最も低いが、半数以上の生徒は期待している。男子で「非常に期待する」生徒の割合は女子の2倍である（ $20.0\% > 10.5\%$ ）。

考察：

自ら課題を見つけ、主体的に考えて学習を進めていく授業は、生徒の望む授業形態としては、他の授業に比べると、期待が高くない。特に女子にその傾向が強く、男

子に比べ「非常に期待する」割合が9.5ポイント低く（ $10.5\% < 20.0\%$ ）、「あまり期待しない」の値は9.8ポイント高い（ $38.2\% > 28.4\%$ ）。この授業は、自ら積極的にかかわり、自分の考えをもとにして、創造的に取り組む授業であり、探究的な活動の面白さや課題解決による新たな知識の習得など、本来の学習の面白さを感じられる時間となると思われるが、自分で考えて取り組むことの面倒しさが先に立ち、期待の低さに現れているのかもしれない。

2000年からの時系列比較



比較結果：

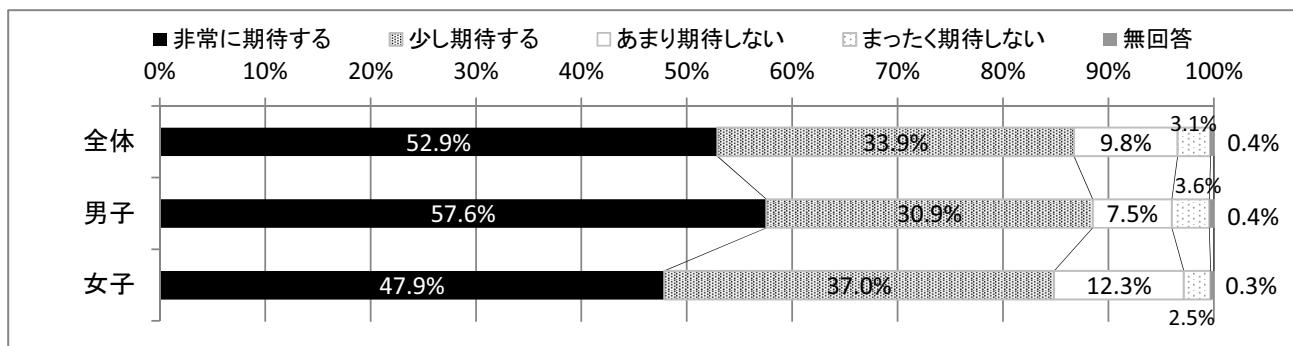
「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒は徐々に増えている。

「まったく期待しない」生徒は、8.6%とこの15年間で最も低い値となった。

考察：

他の項目と比較して最も期待が低いタイプの授業であることに変化はなかった。ただ、現行の学習指導要領における「総合的な学習の時間」の大幅な時間数削減にもかかわらず、「期待する」生徒の割合は増加傾向にある。総合的な学習の時間だけではなく、どの授業においても課題解決型の学習を心がけてきた学校の成果といえるのではないだろうか。

D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業



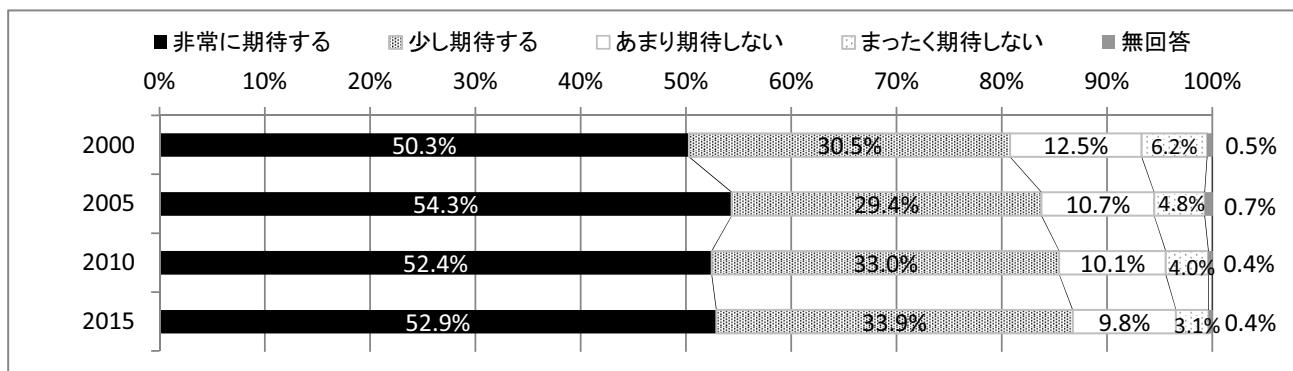
調査結果 :

「自分の興味や関心のあることを学べる授業」に期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒が8割以上(86.8%)であり、「期待する」生徒の割合は女子より男子の方がやや多い(88.5%>84.9%)

考察 :

「自分の興味や関心のあることを学べる授業」は、いわば「好きなことを学べる授業」であり、期待する生徒が86.8%いることは頷ける。また、「自分たちで課題を見つけ、考えたりする授業」同様、女子が男子に比べ「非常に期待する」が9.7ポイント低く(47.9%<57.6%)、前回調査の3.8ポイントの差(50.4%<54.2%)がさらに拡大している。男子の学習に対する主体的な姿勢が高まっているのかかもしれない。

2000年からの時系列比較



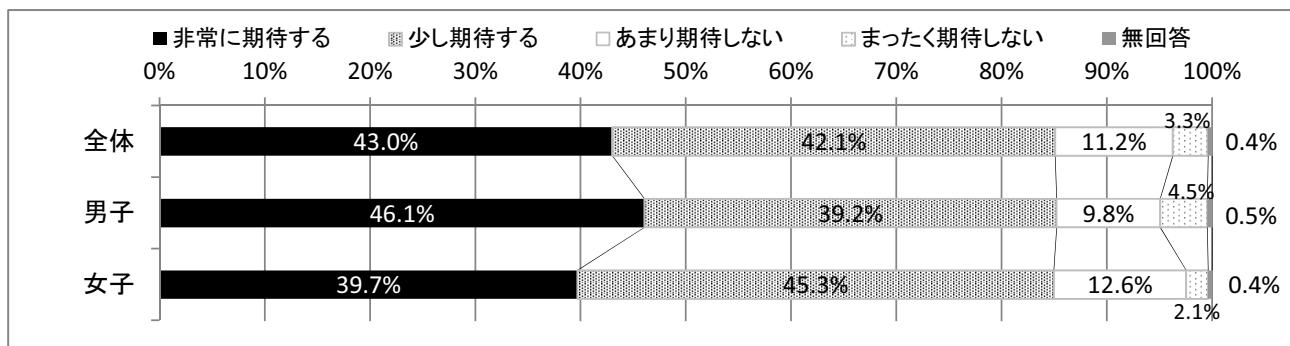
比較結果 :

「期待する」（「非常に期待する」+「少し期待する」）と回答した生徒の比率が2000年から増加し続けている。
「まったく期待しない」生徒は3.1%にまで減少した。

考察 :

大きな変化はないが、「自分の興味や関心のあることを学べる授業」を期待する生徒が徐々に増加していることは、主体的な姿勢の現れととらえれば、喜ばしいことである。日頃の授業で、生徒の興味・関心を高めるような工夫がさらに行われ、学習意欲を引き出すような授業が展開されることを期待したい。

E. 生徒の意見を受け入れてくれる授業



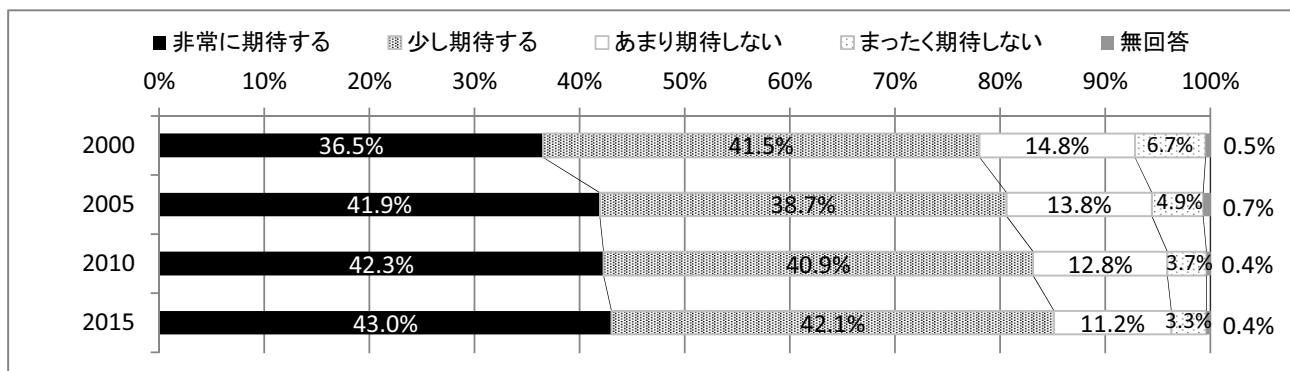
調査結果 :

「生徒の意見を受け入れてくれる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒の割合は85.1%であり、多くの生徒が期待している。男子と女子を比べると「期待する」の差はわずか0.3%（85.3%>85.0%）であるが、「非常に期待する」は男子の方が女子より多い（46.1%>39.7%）。

考察 :

「生徒の意見を受け入れてくれる授業」を期待する生徒が8割以上と高く、「まったく期待しない」生徒は3.3%と極めて低い値となった。一方的な一斉教授型の授業ではなく、生徒の意見が反映された授業に期待していることの現れと考えられる。

2000年からの比較



比較結果 :

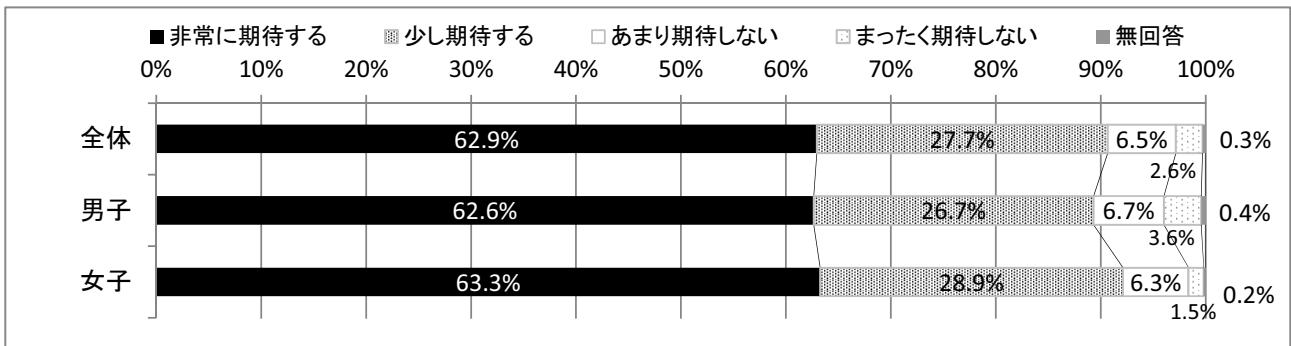
「生徒の意見を受け入れてくれる授業」に期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒は2000年以来増加傾向にあり、今回は85.1%に達した。また「期待しない」生徒は14.5%にまで減少した。

考察 :

学習指導要領の改訂に関連して考えてみると、2002

年に「生きる力の育成」を柱に教育内容が厳選され、2012年には思考力・判断力・表現力の育成に重点が置かれ、授業時間数が増加されている。2012年の改訂の際は、教えるべき内容の増加が、生徒の意見を反映した授業づくりに影響を与えるのではないかという危惧もあったが、今回の調査では影響は見られない。今後も生徒の期待に応え、生徒の意見に耳を傾ける姿勢を大切にしたい。

F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業



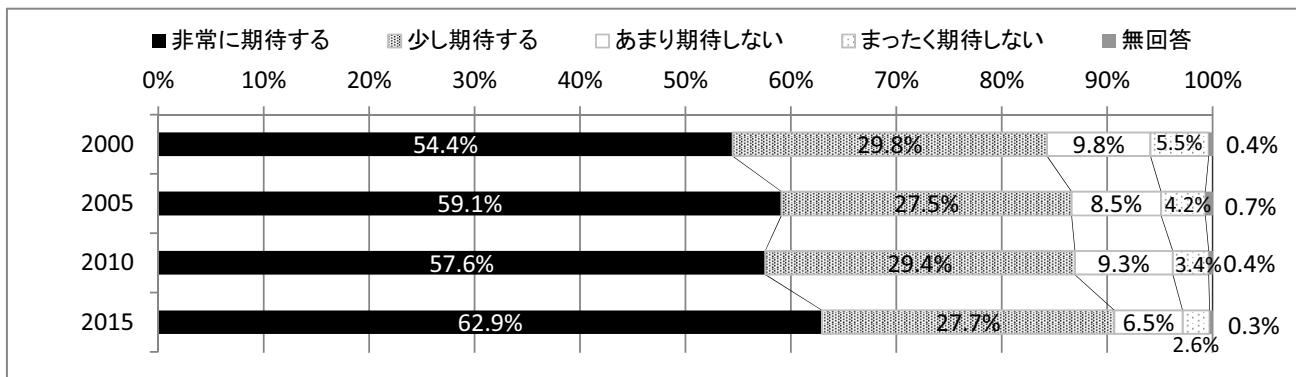
調査結果 :

「期待する」（「非常に期待する」+「少し期待する」）が8つの質問中、唯一9割を超え、「非常に期待する」が62.9%と6割を超えており、男女の意識の差もあまり見られない。

考察 :

「楽しくリラックスした雰囲気の授業」という授業環境が普段の授業風景をイメージしたのか、課外授業等をイメージしたのか、この調査だけでは判断できない。しかし、「生徒の意見を受け入れてくれる授業」への期待の高さと関連づけて考えると、授業に参加しやすい雰囲気を生徒は重視しているととらえることもできる。

2000年からの時系列比較



比較結果 :

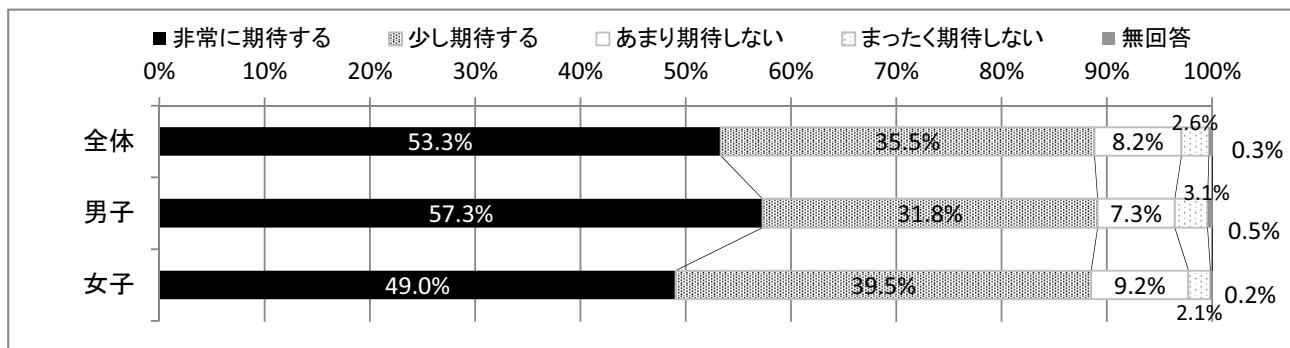
「期待する」（「非常に期待する」+「少し期待する」）割合は過去最高の90.6%となり、「非常に期待する」は5.3ポイント増加している。「期待しない」も減少を続け、今回は9.1%にまで減少した。

ないことが示されている。また、このタイプの授業については、生徒の6割が実際に行われていると感じていることもわかっている。ある程度行われているが、生徒は常に「楽しくリラックスした雰囲気」の中で学びたいと願っていることの現れととらえられる。つまらない・面白くない授業や、過度に緊張を強いられる授業は誰もが受けたくないと考えれば、「楽しくリラックスした雰囲気の授業」の期待が高いのは自然なことといえる。

考察 :

2013年に行った補足調査から、実際にそうした授業が行われているか、その授業への期待の高さには関係が

G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業



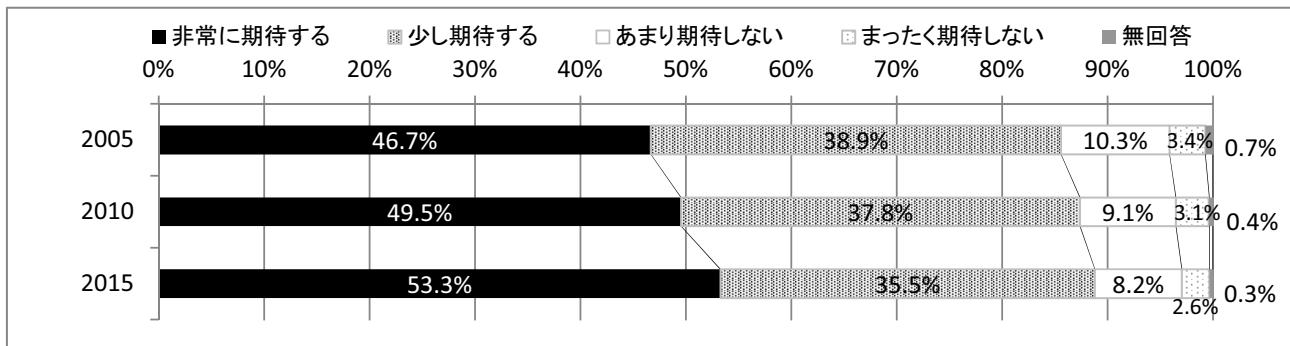
調査結果 :

今回の調査であげた8つの授業タイプの中で「楽しくリラックスした雰囲気の授業」に次ぐ期待率(88.8%)となった。「期待する」（「非常に期待する」+「少し期待する」）の男女差は見られないが、「非常に期待する」だけに注目すると、男子の方が女子より多く(57.3%>49.0%)、男女の差は8.3ポイントと、この8つの質問の中では最も性差が出た。

考察 :

期待が高い授業であり、広く知識や技術を学びたいという生徒の好奇心の高さを表しているととらえられる。進路や進学だけにとらわれず、将来の職業をイメージした学習への関心の高まりが見られるともいえる。これは女子に比べ男子の方が傾向として強い。

2005年からの時系列比較



比較結果 :

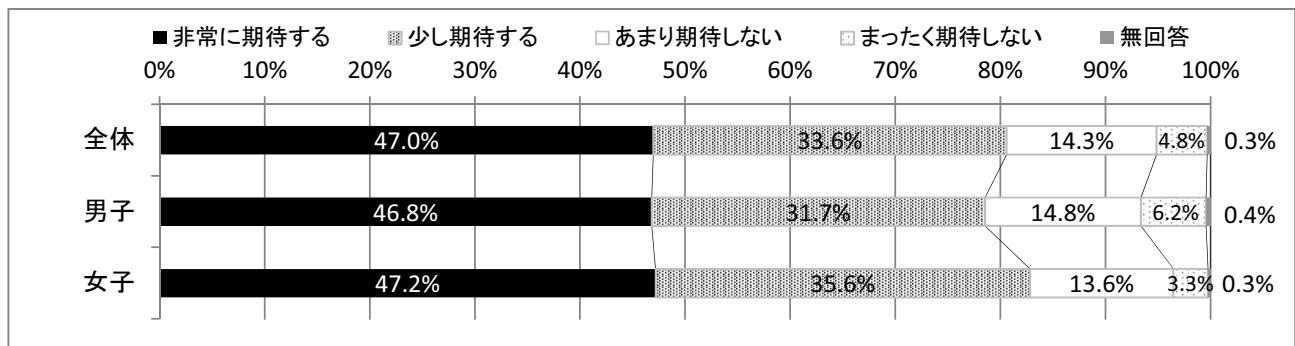
2005年より「期待する」（「非常に期待する」+「少し期待する」）は増加傾向にあり、「期待しない」は減少を続けている。

考察 :

「非常に期待する」が5割を超え、生徒の関心が高まっていることがわかる。

近年行われている職業体験等を含めたキャリア教育は、生徒にとって将来をイメージしやすい学習となっているのかもしれない。また、学区（神奈川県立高校の通学区域）が撤廃され、専門高校を含め高校の選択幅の広がり等もあり、「将来に役立つ」という言葉は生徒の意識の上で重要な意味を持ってきているのではないかと考えられる。

⑧H. 学校の外で見学・体験できる授業



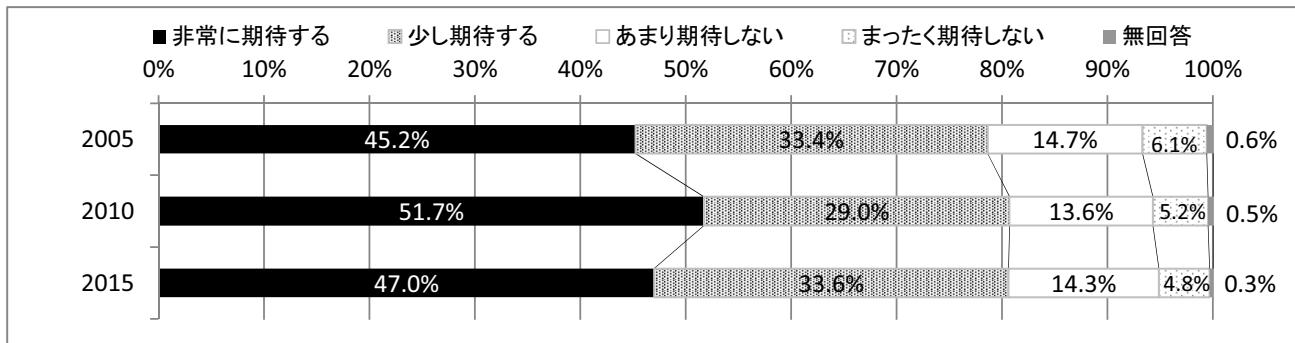
調査結果 :

「学校の外で見学・体験できる授業」を期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒の比率は80.6%である。「まったく期待しない」が男子は女子に比べ2.9ポイント（男子6.2%>女子3.3%）高い。「期待しない」（「あまり期待しない」+「まったく期待しない」）割合も「自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業」に次いで高い。

考察 :

このタイプの授業は、充てられている時間数が限られており、そこでの経験が生徒の回答に大きく影響していることが予想される。「期待しない」生徒が一定数いることは、見学・体験に意義を見出せないでいることも考えられる。時間数の少なさが見学・体験に向けた事前事後の学習の充実の壁になっているのかもしれない。

2005年からの時系列比較



比較結果 :

「非常に期待する」の割合は下がり、「少し期待する」に移行しているが、全体的に期待する（「非常に期待する」+「少し期待する」）生徒の割合は前回と同じで約8割いる。

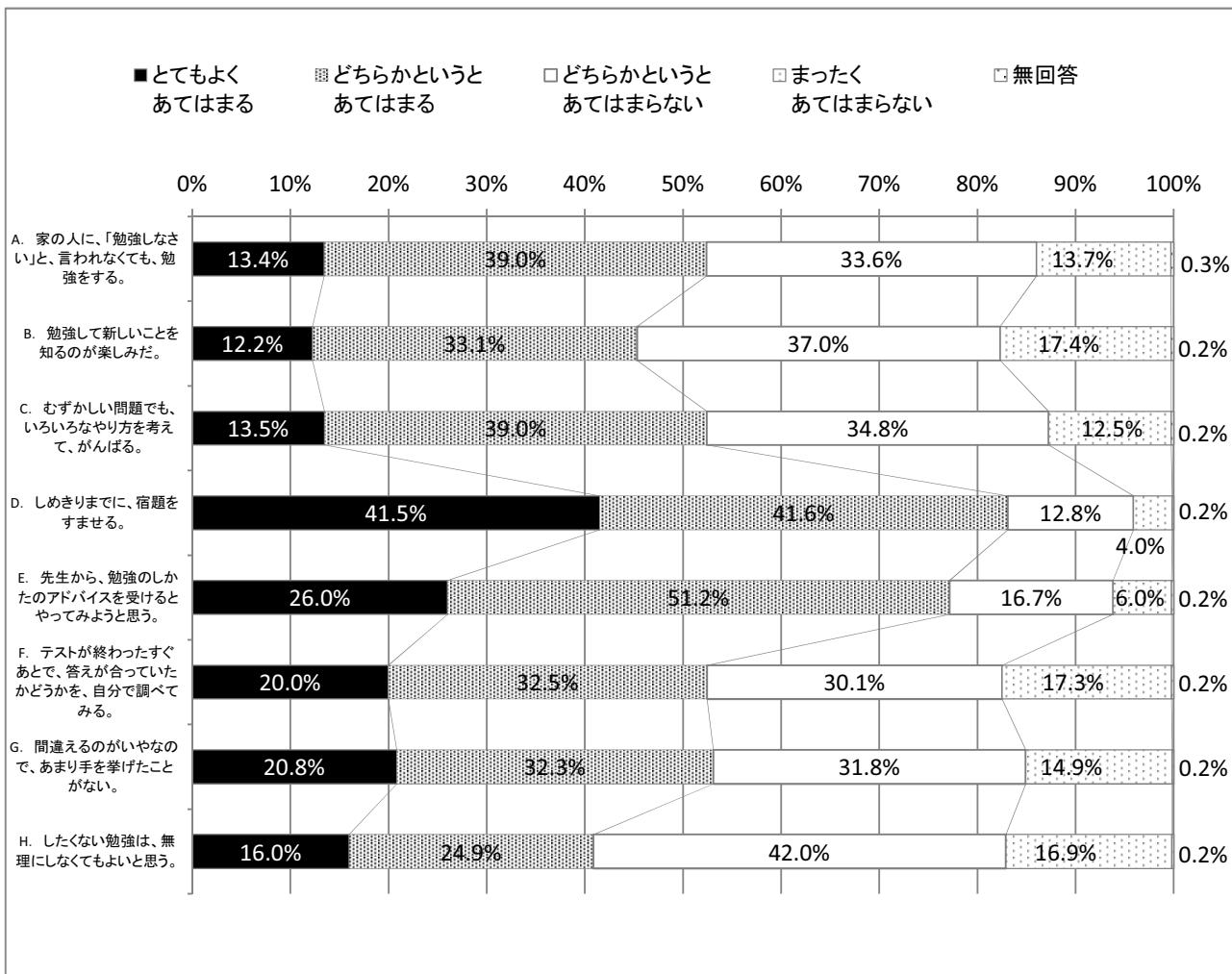
考察 :

総合的な学習の時間や選択授業に見られる授業スタイルであるが、現行の学習指導要領による総合的な学習の時間の時間数削減の影響が少なからず考えられる。

12. 学習意欲

(1) 2015年調査結果

項目12：次のそれぞれの文について、自分の気持ちに最も合うもの一つに○をつけてください。



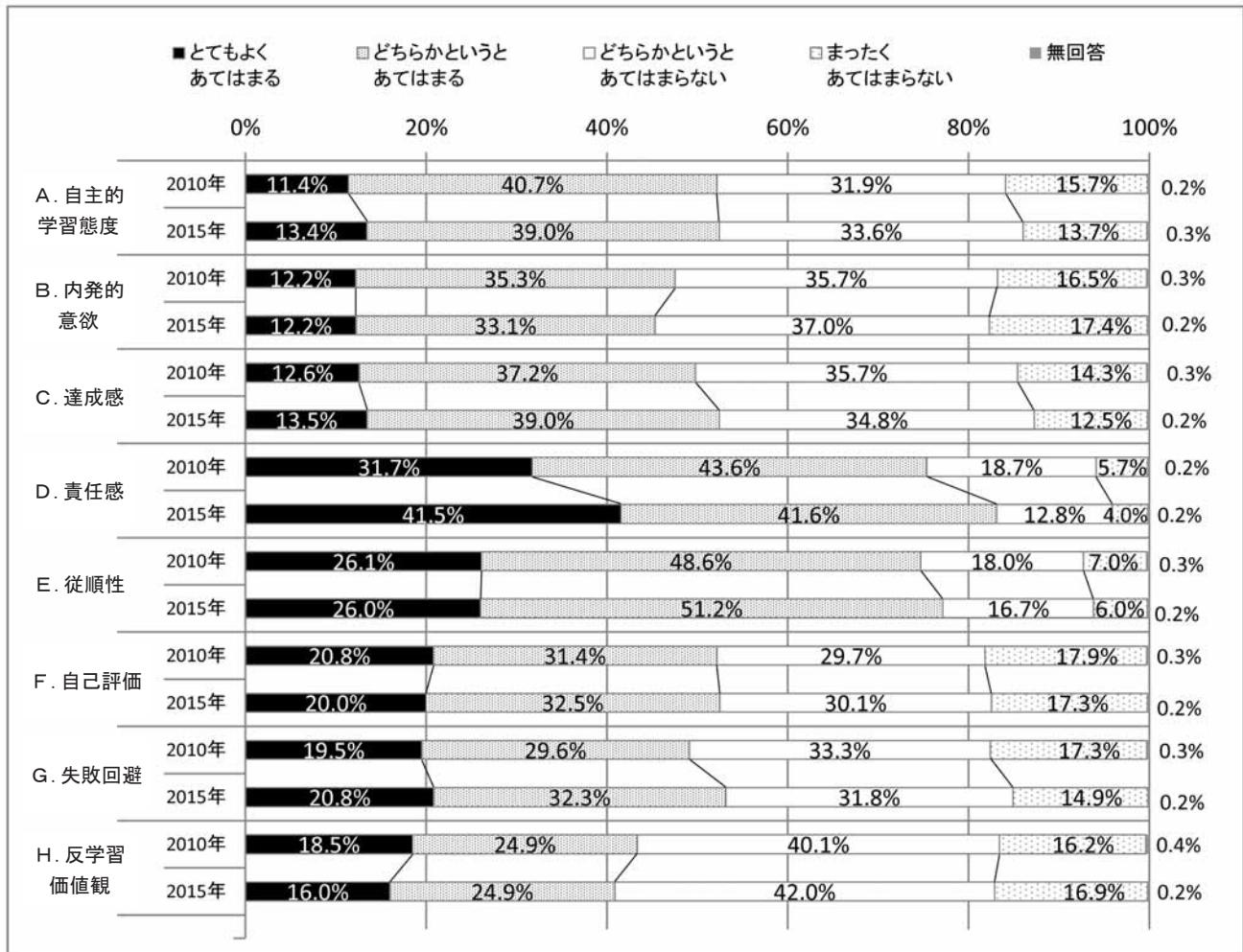
学習意欲の促進傾向

- A. 自主的学習態度 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。
- B. 内発的意欲 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。
- C. 達成感 むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。
- D. 責任感 しめきりまでに、宿題をすませる。
- E. 従順性 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けるとやってみようと思う。
- F. 自己評価 テストが終わったすぐあとで、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる。

学習意欲の抑制傾向

- G. 失敗回避 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。
- H. 反学習価値観 したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う。

(2) 2010年との比較及び考察



比較結果 :

A～Fの促進傾向について、D.責任感が2010年に比べ、あてはまる生徒（「とてもよくあてはまる」+「どちらかといふとあてはまる」）が7.8ポイント増加し、特に「とてもよくあてはまる」と答えた生徒が9.8ポイントの増加と著しい。G.失敗回避はあてはまる生徒が53.1%と過半数を超える前回より4.0ポイント多い。一方、H.反学習価値観は、2.5ポイント減少している。

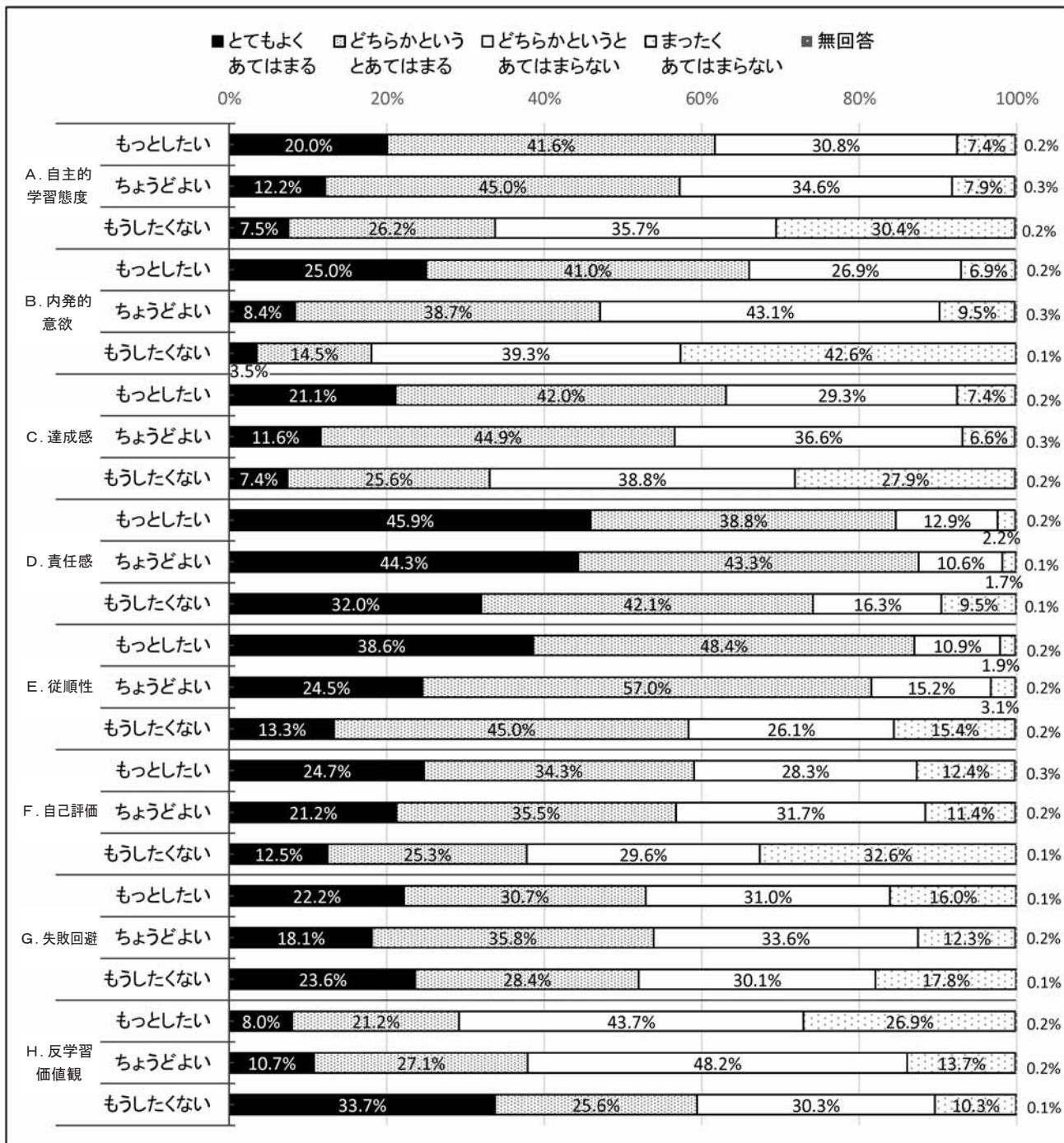
考察 :

2010年に肯定的回答（「とてもよくあてはまる」+「どちらかといふとあてはまる」）が否定的回答（「どちらかといふとあてはまらない」+「まったくあてはまらない」）を大きく上回り、生徒に広まっていると考察された促進傾向「D.しめきりまでに、宿題をすませる（責任感）」はさらに広まったといえる。「B.勉強して新しいことを

知るのが楽しみだ（内発的意欲）」に対する肯定的回答がわずかだが下がった点は、気になるところである。一方、「C.むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考え、がんばる（達成感）」の肯定的回答が52.5%と半数を超えて、否定的回答を上回ったことは、喜ばしいことである。また、抑制傾向の中で「G.間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない（失敗回避）」は増えていることから、生徒の自信のなさや間違いを恐れる気持ちが増していると考えられる。授業の進め方に課題がないか、あるならば、改善のために何らかの工夫が必要であろう。「H.したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う（反学習価値観）」は否定的回答がやや増えていることから、受験への意識がより高まり、勉強を無理してもしなければならないものと考える傾向がやや強まったのではないかと考えられる。

(3) 「4. 勉強の意欲」と「12. 学習意欲」のクロス集計、及び相関

- A. 自主的学習態度 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強する。
- B. 内発的意欲 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。
- C. 達成感 むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。
- D. 責任感 しめきりまでに、宿題をすませる。
- E. 従順性 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けるとやってみようと思う。
- F. 自己評価 テストが終わったすぐあとで、答えが合っていたかどうかを、自分で調べる。
- G. 失敗回避 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。
- H. 反学習価値観 したくない勉強は、無理にしなくともよいと思う。



「4.勉強の意欲」

	A.自主的 学習態度	B.内発的 意欲	C.達成感	D.責任感	E.従順性	F.自己評価	G.失敗回避	H.反学習 価値観
4.勉強の意欲	0.26	0.43	0.27	0.14	0.30	0.19	0.01	-0.28

注) 相関：ある事象とある事象の間の関連の強さを表す指標。-1~1の値をとる。

調査結果：

「4.勉強の意欲」で「もっと勉強したい」と回答した生徒ほど、「12.学習意欲」の促進傾向の質問で「あてはまる」と回答する傾向が見られた。そうした傾向は、特に「B.内発的意欲」で顕著であり、(4)と「12.学習意欲」の各項目間の相関(表1)を見ても、「B.内発的意欲」との相関が0.43と最も高かった。そのほか、「A.自主的学習態度」、「C.達成感」、「E.従順性」でも同様の傾向が見られた(相関は0.26~0.30)。「H.反学習価値観」という抑制傾向の質問では、(4)で「もっと勉強したい」と回答した生徒ほど、「あてはまらない」と回答していた。

一方、「G.失敗回避」では「4.勉強の意欲」への回答による違いは見られないほか(相関は0.01)、「D.責任感」、「F.自己評価」と「4.勉強の意欲」の相関も0.14、

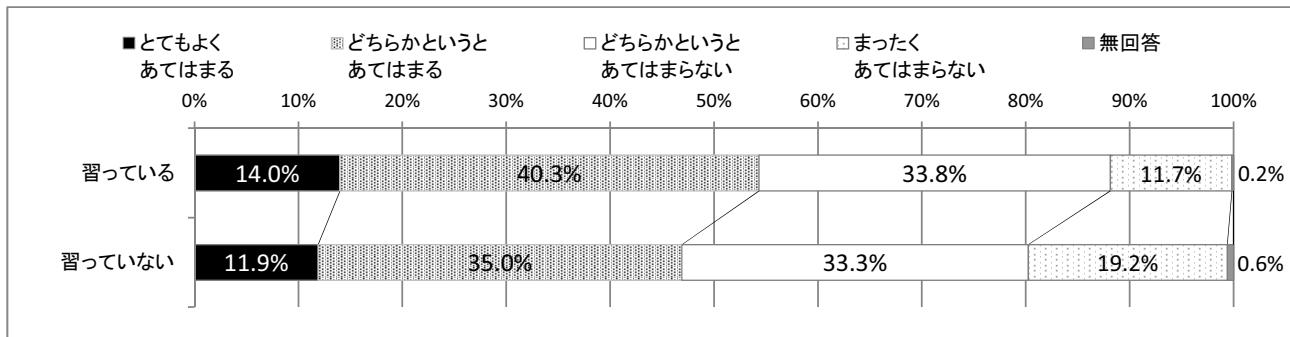
0.19と低く、これらの項目では「4.勉強の意欲」への回答による違いはほとんどなかった。

考察：

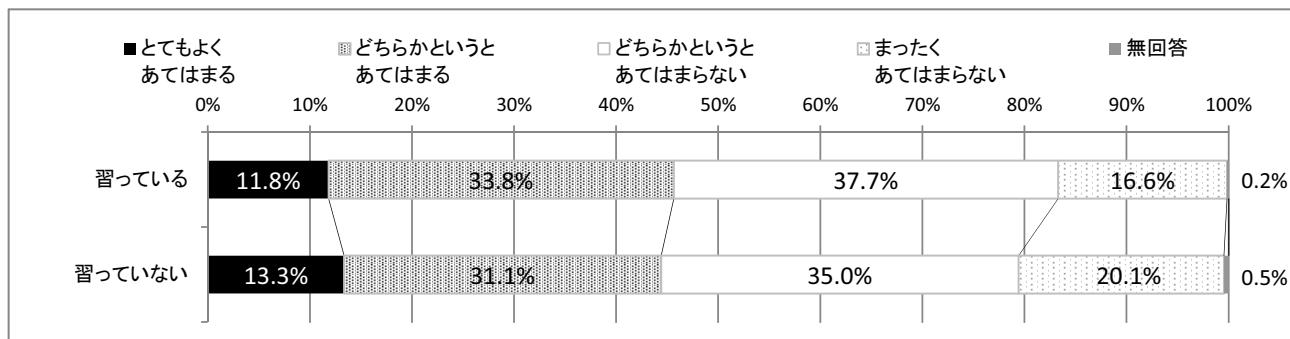
全体として、「4.勉強の意欲」で「もっと勉強したい」と回答した生徒ほど「12.学習意欲」の促進傾向の質問では「あてはまる」、抑制傾向の質問で「あてはまらない」と回答する傾向が見られており、1965年の本調査開始以来使用してきた「4.勉強の意欲」の項目は学習意欲を測定していると考えてよいと思われる。なかでも、特に内発的意欲項目との相関が高いことから、「4.勉強の意欲」への回答は内発的意欲を反映していることが示唆された。失敗回避傾向や宿題などの責任感、試験終了後に正誤の確認をするといった自己評価の態度と「4.勉強の意欲」の回答との関連はほとんどなかった。

(4) 学習塾と学習意欲とのクロス集計

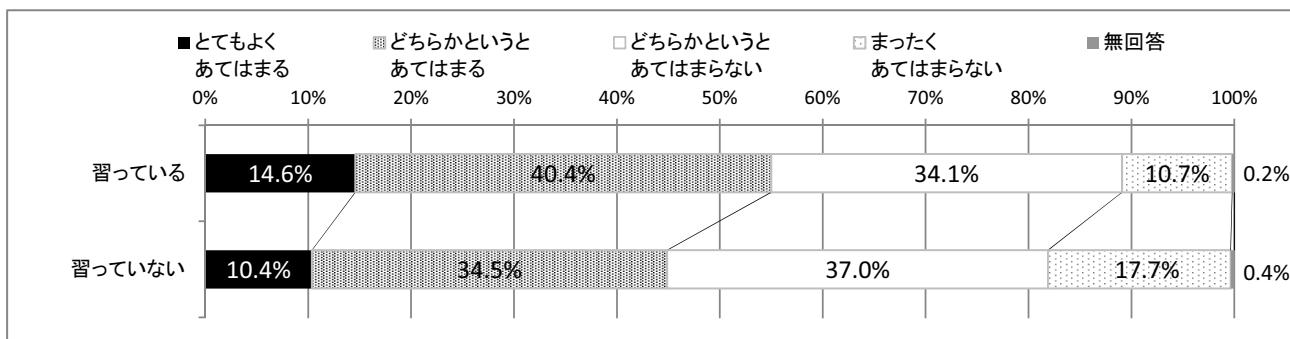
A. 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。



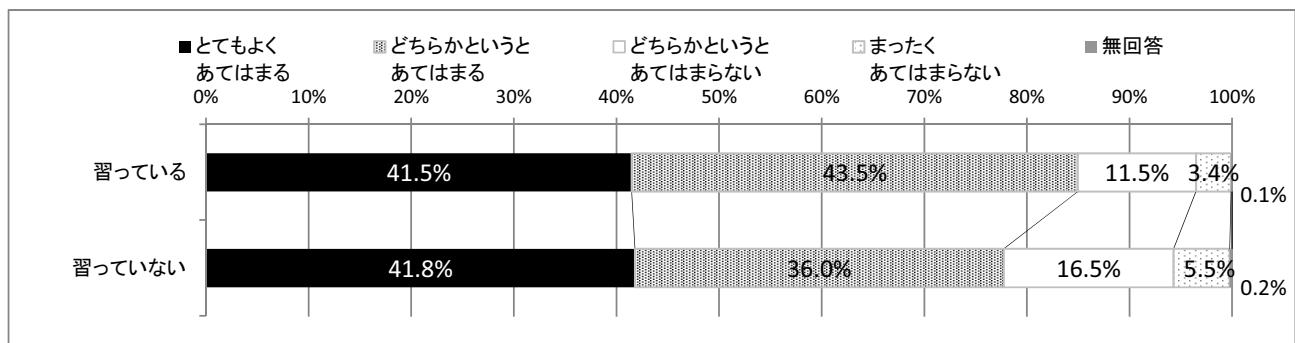
B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。



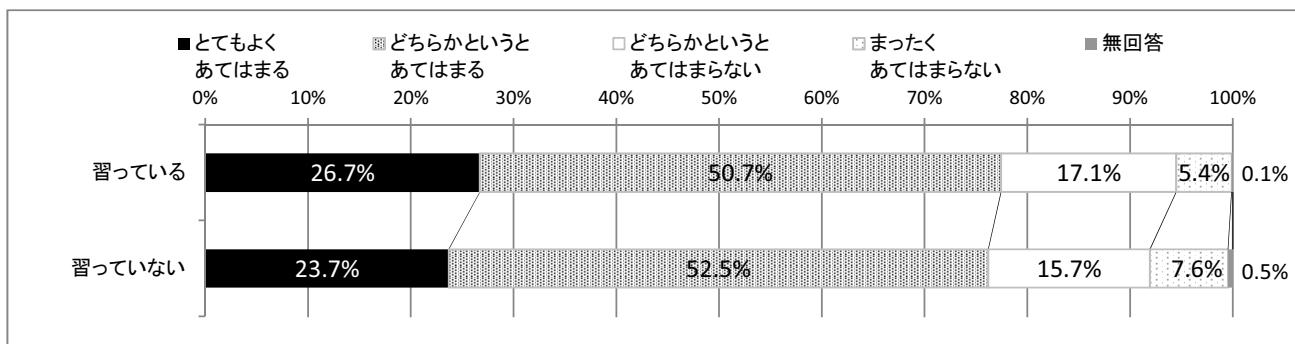
C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。



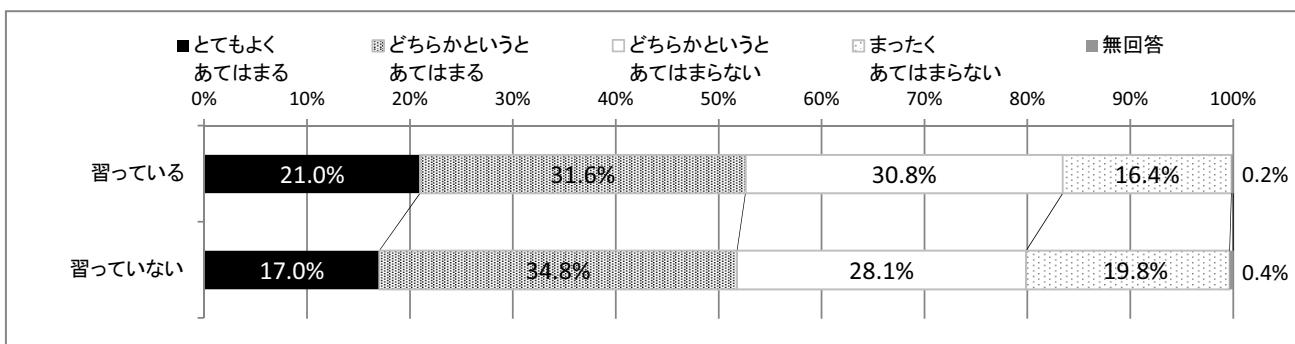
D. しめきりまでに、宿題をすませる。



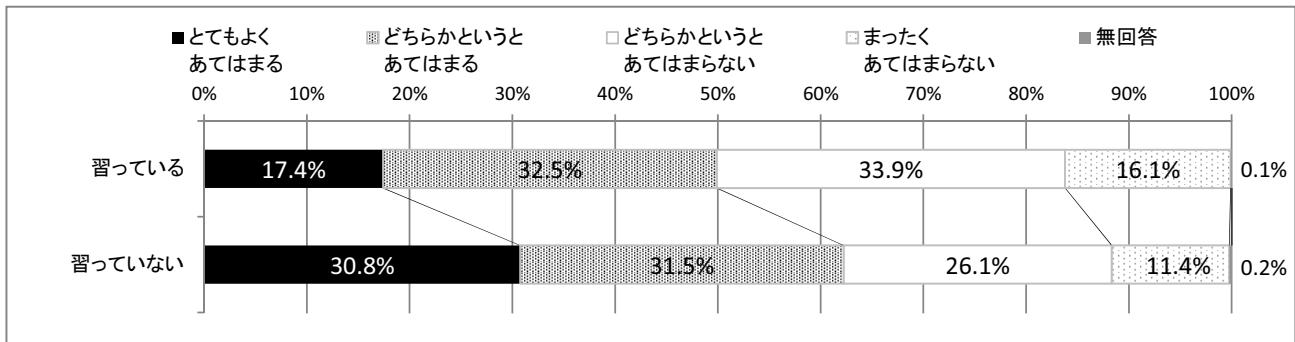
E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う。



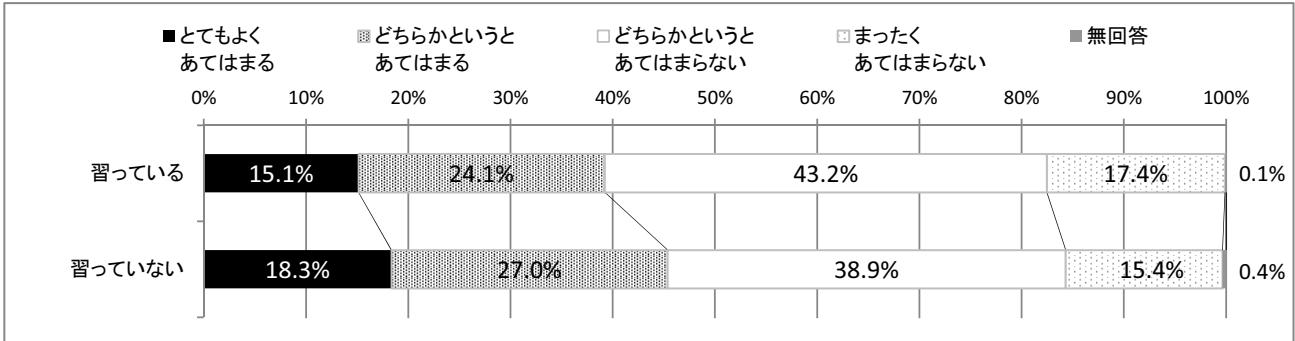
F. テストが終わったすぐあとで、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてる。



G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。



H. したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う。



調査結果 :

AとCは、「学習塾」に通っている生徒ほど、「あてはまる」と多く答える傾向があった。B、D、E、Fは学習塾に通っているかいないかによって、あてはまるかどうかに差はなかった。G、Hは、「学習塾」に通っている生徒ほど、「あてはまらない」と多く答える傾向があった。

「G.間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない」を「とてもよくあてはまる」と回答した「学習塾」で習っている生徒の割合は17.4%であるのに対し、「学習塾」で習っていない生徒の割合は30.8%とかなり差があった。

考察 :

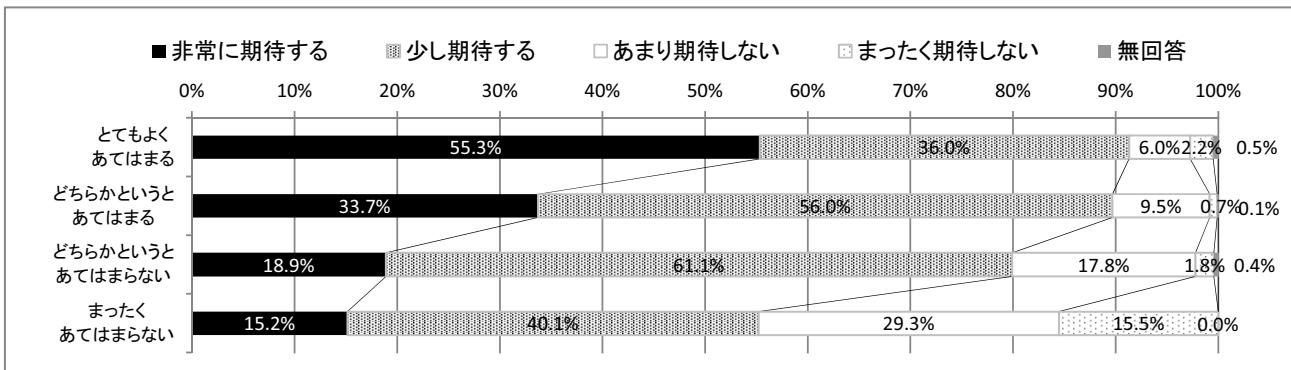
A、Cの結果より、「学習塾」に通っている生徒の方が自主的な学習態度があることがわかった。一方で、このことは「学習塾」からの宿題と学校の勉強と合わせると膨大な量になり、自発的にやらざるを得ない状況で習慣

化しているとも考えられる。また、「学習塾」に通っている生徒の方が難しい問題へのチャレンジ精神があることがわかった。これは、「学習塾」では内容を理解させる上に、応用問題を解かせる機会も多いことから、難しい問題を解くことに抵抗がないと考えられる。

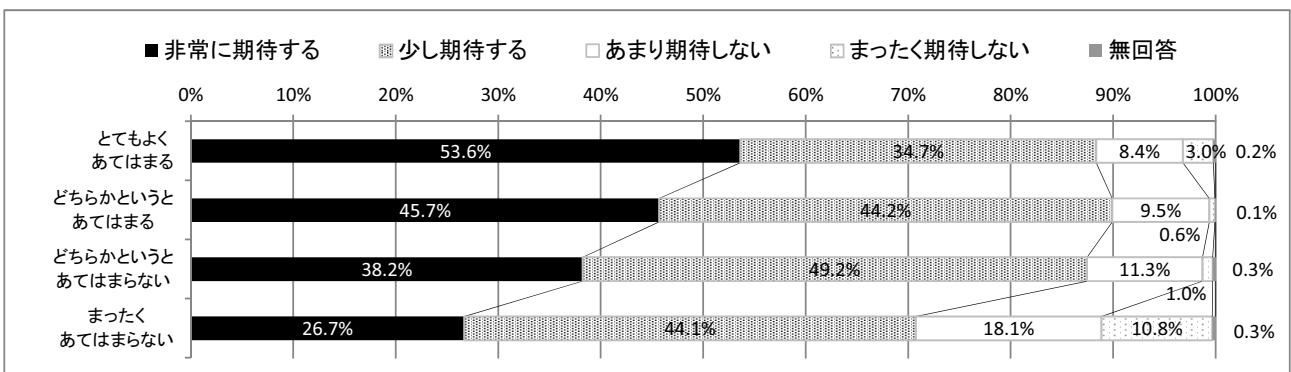
しかし、これらの結果の中で最も気になる質問は、学習塾で習っている生徒と習っていない生徒との差が最も出ている「G.間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない」である。「学習塾」に通っている多くの生徒は、学校の授業で習うことはすでに学習した内容が多く、「学習塾」に通っていない生徒はそれを学校の授業で初めて学習することになる。本来新しいことを学ぶほうが楽しいはずである授業が、正解を求めて手を挙げさせるのではなく、間違いも含めて、自分の気づいたことや考えを出せる場であってほしい。間違えることや失敗に価値があるということを、言葉だけでなく、生徒が実感できるような学習の場面が多くあってほしいと願う。

(5) 「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ(内発的意欲)」と「授業への期待」とのクロス集計

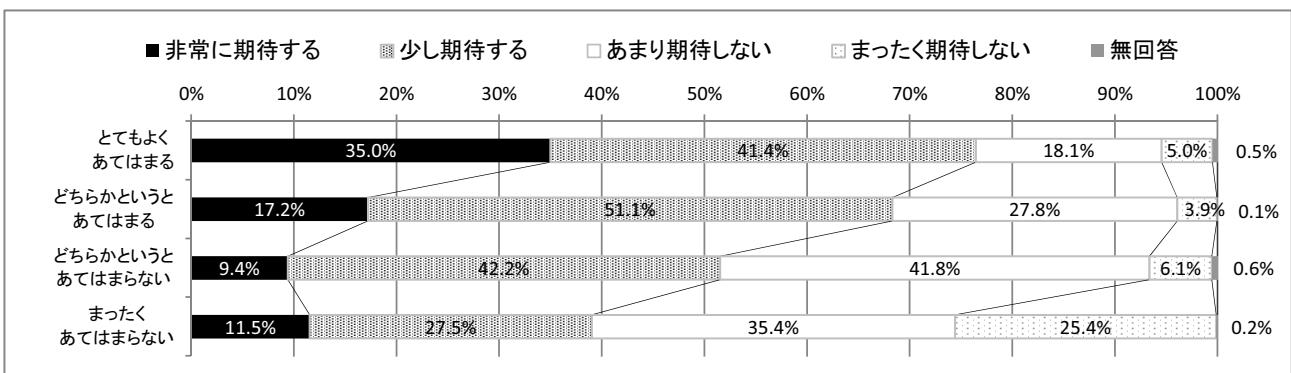
A. はじめがあって、集中できる授業



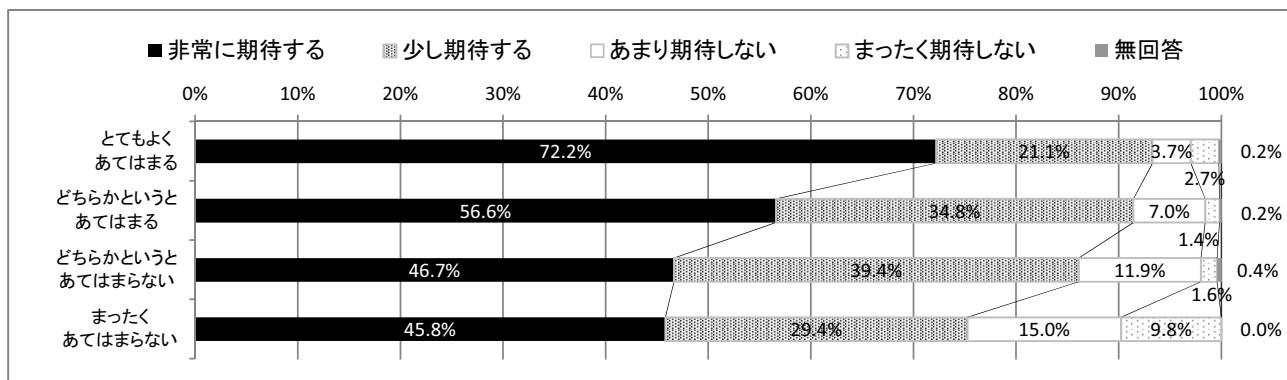
B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業



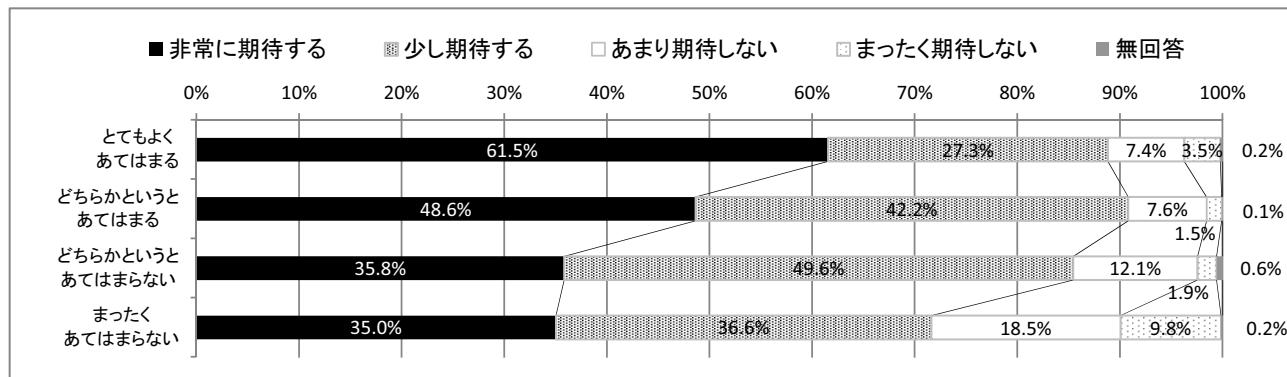
C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業



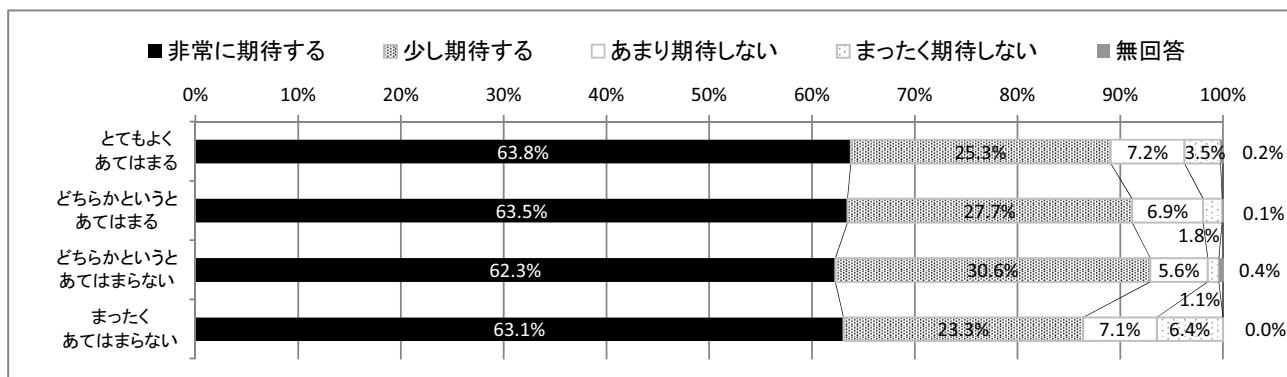
D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業



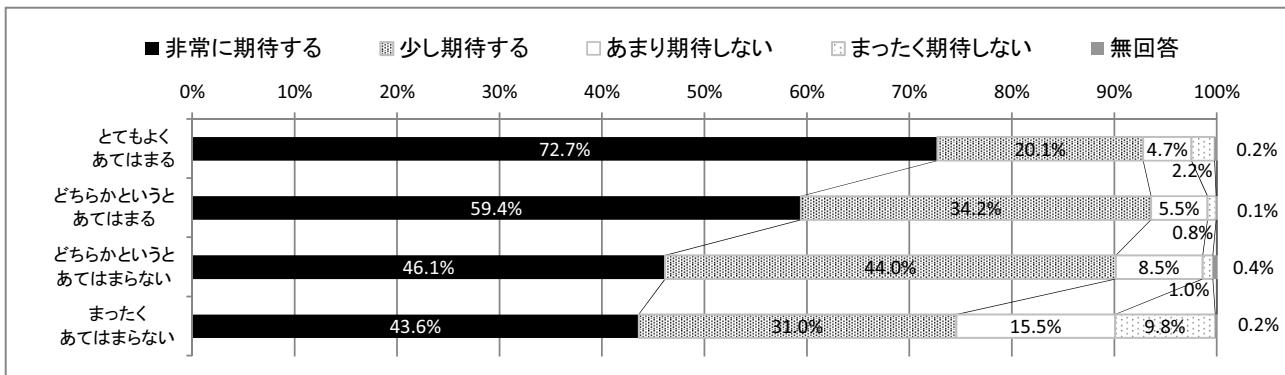
E. 生徒の意見を受け入れてくれる授業



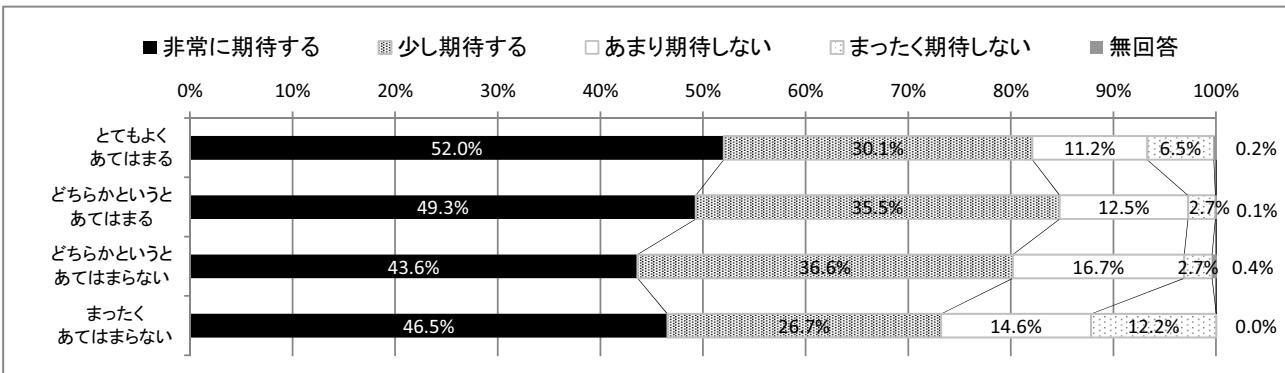
F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業



G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業



H. 学校の外で見学・体験できる授業



調査結果 :

8タイプの授業のうち、「F. 楽しくリラックスした授業」、「H. 学校の外で見学・体験できる授業」以外の6タイプで内発的意欲との関連が見られ、「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ」の質問で「あてはまる」と回答している生徒ほど、これらの授業への期待が高かつた。「F. 楽しくリラックスした授業」、「H. 学校の外で見学・体験できる授業」と内発的意欲との関連は低く、内発的意欲の高さにかかわらず、「F. 楽しくリラックスした授業」では60%以上、「H. 学校の外で見学・体験できる授業」では約50%の生徒が「非常に期待する」と回答していた。

「B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ」の質問で「とてもよくあてはまる」と回答した生徒が期待している授業は、「G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業」(72.6%)、「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」(72.0%)、「F. 楽しくリラックスした授業」

(63.8%)、「E. 生徒の意見を受け入れてくれる授業」(61.5%)だった。一方、内発的意欲の質問で「まったくあてはまらない」と回答した生徒は、「F. 楽しくリラックスした授業」(63.1%)、「H. 学校の外で見学・体験できる授業」(46.5%)、「D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業」(45.8%)を期待していた。

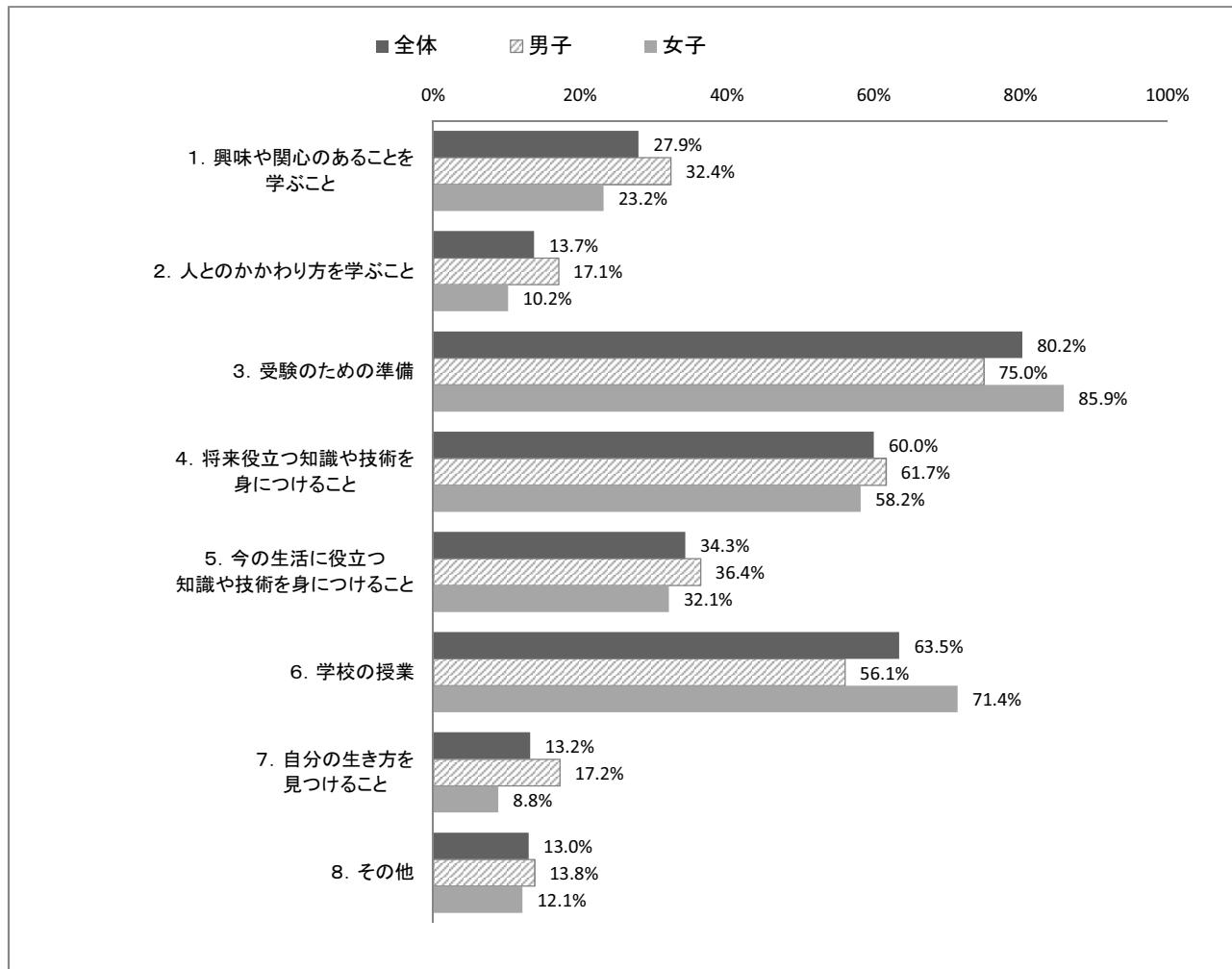
考察 :

内発的意欲の高い生徒ほど様々な授業への期待も高いことがわかった。また、内発的意欲の高い生徒ほど、将来役立つ知識・技術の習得や、興味や関心に合った学びを最も重視しており、楽しくリラックスした、生徒の意見を受け入れてくれる雰囲気の中でそれらを学びたいと思っているのかもしれない。内発的意欲の低い生徒は全体として授業への期待が低く、楽しくリラックスした授業や体験型の授業を求めていることが示唆された。

13. 勉強という言葉から思い浮かべるイメージ

(1) 2015年調査結果及び考察

項目13：「勉強」という言葉からどのようなことをイメージしますか？ 思い浮かべたものすべてに○をつけてください。その他にイメージしたことがあつたら 8. その他（ ）のところに書いてください。



調査結果：

「3.受験のための準備」が80.2%と最も高く、男子75.0%<女子85.9%と女子の方が高い。2番目に「6.学校の授業」が多く63.5%、男子56.1%<女子71.4%と女子が高い。「1.興味や関心のあることを学ぶこと」は、27.9%のうち男子32.4%>女子23.2%。「2.人とのかかわり方を学ぶこと」が13.7%のうち男子17.1%>女子10.2%。「7.自分の生き方を見つけること」は、13.2%のうち男子17.2%>女子8.8%と男子が多い。

考察：

「3.受験のための準備」が、全体で80.2%いること

から、中学校3年生にとっては、勉強=受験のイメージがとても強いことが窺える。また、男女別では、女子の方が男子より受験のイメージを強く持っていることがわかる。

「4.将来役立つ知識や技術を身につけること」は全体で60.0%、「5.今の生活に役立つ知識や技術を身につけること」は全体で34.3%の生徒がイメージしていることから、勉強は「今」よりも「将来」のための知識や技術を身につけるイメージを持つ生徒が約2倍いることがわかった。

「2.人とのかかわり方を学ぶこと」や「7.自分の生き方を見つけること」は、どちらも全体として13%程

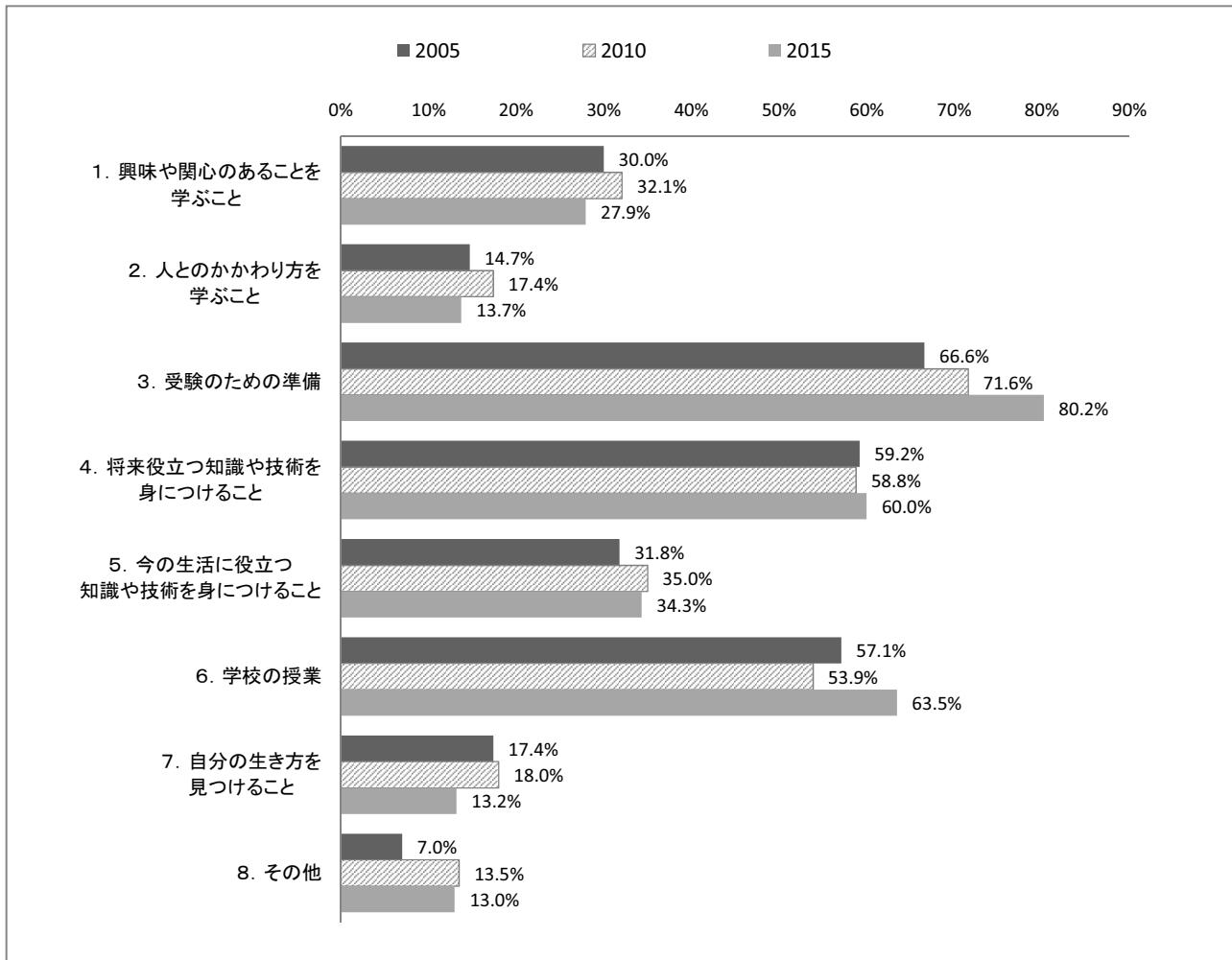
度の一部の生徒しかイメージを持っていないことがわかる。性差を見ると、男子の方が女子より「2.人とのかかわり方を学ぶこと」や「7.自分の生き方を見つける」というイメージを持っている生徒が多いことが窺える。

「1.興味や関心のあることを学ぶこと」については、男子の方が女子より勉強のイメージととらえていることがわかった。

「6.学校の授業」をイメージする生徒は女子の方が男子よりその傾向が強い。

コツコツと日ごろ勉強をする女子の方が、勉強を学校の授業や受験のための準備ととらえる意識が高いように思われる。男子の方が勉強のイメージをやや広くもっているのかもしれない。

(2) 2005年からの時系列比較及び考察



比較結果 :

「3.受験のための準備」が80.2%、「6.学校の授業」が63.5%と、ともに2010年より大幅に増えている。

考察 :

「3.受験のための準備」をイメージする生徒が10年間で6割、7割、8割と段階的に増えた。これは、公立高校の入試制度が入学試験を重視する傾向に変わったことが主な理由として考えられる。特に面接と内申点による選抜を行っていた前期選抜が4年前になくなり、全受験者が学力検査と面接を受け、その得点が合否の4割から6割に反映されるようになったことにより、勉強＝受験準備のイメージがさらに強くなったと予想される。

「6.学校の授業」をイメージする生徒が2005年の57.1%、2010年の53.9%から今回63.5%に増加した。学校の授業をよりイメージする生徒が増えたことも、公立高校の入試制度の変化の影響だと思われる。生徒の心情としては、学校の授業にしっかりと取り組むことで、合否に影響する内申点も上げたいという思いがあるだろう。また、観点別評価が導入され、授業への取り組み方も含め

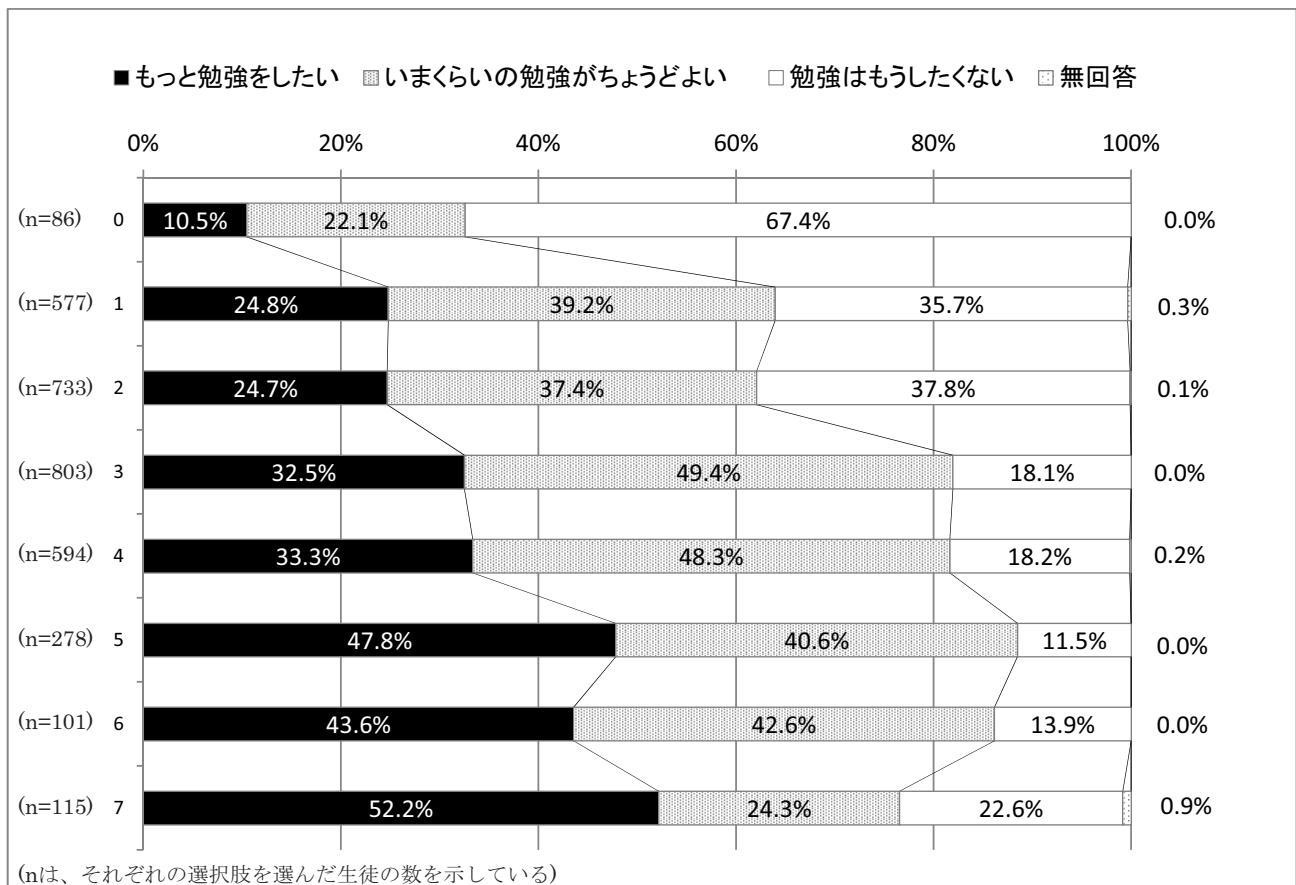
て、何がどう評価されるのか評価方法や評価規準が生徒にわかりやすく示されたことも、影響していると考える。

「3.受験のための準備」と「6.学校の授業」をイメージする生徒が増えた分、その他の項目「1.興味や関心のあることを学ぶこと」、「2.人とのかかわり方を学ぶこと」、「7.自分の生き方を見つけること」をイメージする生徒は2010年に比べて減少した。

「4.将来役立つ知識や技術を身につけること」はわずかであるが増加した。ただ、生徒にとってイメージした将来は、大人になってからのものではなく、高校や大学という数年後の近いものである可能性もあり、後者の近い将来をイメージした生徒にとって勉強は、高校入試に役立つ知識や技術を意味しているとも考えられる。

学校の授業が受験のための成績につながると考え、より現実的な勉強イメージを持つようになってきているのかもしれない。教育の本来の目的が人格の形成であることを思うと、勉強のイメージとして「人とのかかわり方を学ぶこと」が減少していることは気になる点であり、今後注視していきたい。

(3) 「勉強の意欲」と「勉強のイメージの広さ」とのクロス集計



集計結果 :

ここでは選択肢に○を付けたイメージの個数をカウントし、それを勉強イメージの広さと捉え「勉強の意欲」とのクロス集計を行った。「8. その他」は除いた。

「もっと勉強をしたい」と選択した勉強のイメージの個数の多さとは、おおむね相関する。しかし、個数が1から2、3から4、5から6、6から7に増えるところでは、「勉強はもうしたくない」が増加する傾向が見られる。

考察 :

2010年の調査では、勉強に対するイメージの広さと学習意欲の関係について、「もっと勉強をしたい」生徒

ほど、「勉強」という言葉に対して持つイメージの幅が広く、「勉強はもうしたくない」生徒ほど「勉強」という言葉に対して持つイメージの幅が狭いという傾向が見られると考察がされていた。今回のデータでも、大きくは同じような傾向が見られたが、前回ほど顕著ではない。最もイメージの個数が多い7では、「もっと勉強したい」生徒も増えているが、「勉強はもうしたくない」生徒も増えており、勉強のとらえ方に変化があるようと思われる。いずれにせよ生徒が、学校の勉強、受験のための準備をしなければならないと強く考えているのは確かであろう。



第3章

新設項目「學習方略」

1. 学習方略（新設項目）

（1）2015年の調査結果及び考察

項目13：あなたは、勉強をしているとき、つぎのような方法で勉強をしていますか？

もっともあてはまるものを一つえらんで、○をつけてください。

- A. 大切なところは、繰り返して書いたり、ノートにまとめたりしておぼえる。
- B. 大切なところはどこかを考えながら勉強する。
- C. さいしょに計画を立ててからはじめる。
- D. わからないところがあったら、友達にやり方やその答えを聞く。
- E. やり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する。
- F. 勉強に集中できるように工夫する。
- G. 友達と問題を出し合いながら勉強をする。
- H. まちがえたところは、印をつけておいて後で見なおす。
- I. たまに止まって、一度やったところを見なおす。
- J. 成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。

項目13のA～Jについては、学習方略の使用尺度(佐藤・新井1998)*より、次の5つの方略について、2つずつ質問を選択して用いた。

E, J…「柔軟的方略」(学習の進め方を自分の状態に合わせて柔軟に変更していく方略)

C, I…「プランニング方略」(計画的に学習に取り組もうとする方略)

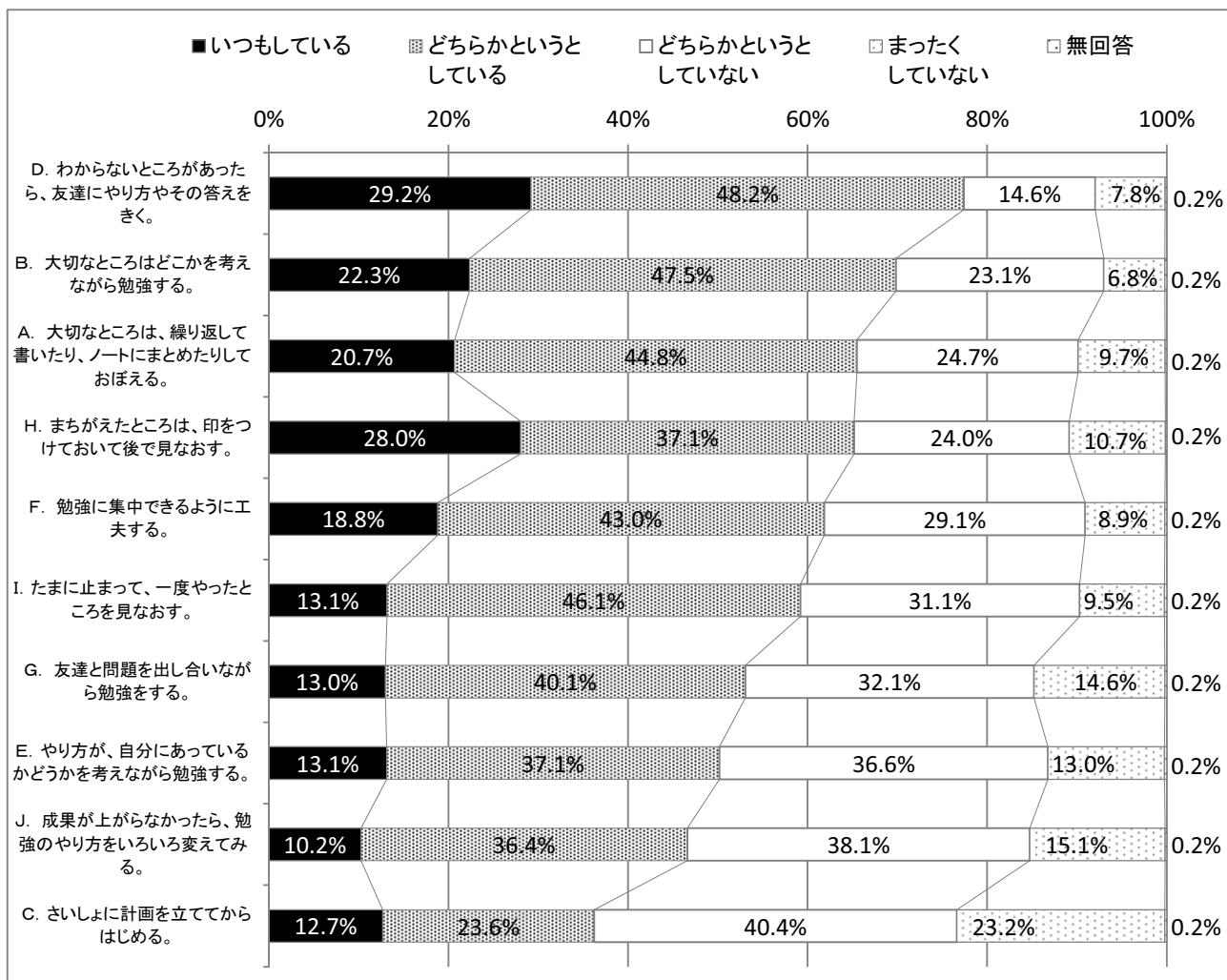
A, H…「作業方略」(参考書等を事前にきちんと準備したり、学習内容を声に出したりノートに書いたりして憶える、といったように、作業を中心として学習を進める方略)

D, G…「友人リソース方略」(友人関係を利用して学習を進める方略)

B, F…「認知的方略」(理解や精緻化、集中力といった認知的な働きを重視して学習を進めようとする方略)

*佐藤 純・新井邦二郎 (1998). 学習方略の使用と達成目標及び原因帰属との関係 筑波大学心理学研究, 20, 115-124.

なお、次頁のグラフは、A～Jまでの質問を「している」（「いつもしている」+「どちらかというとしている」）と回答した生徒が多い順に並べ替えてある。



調査結果 :

「D.わからないところがあったら、友達にやり方やその答えをきく」では、「いつもしている」と「どちらかといっている」を合わせた肯定的回答をしている生徒が77.4%と、10種類の学習方略の中で最も高い。

「B.大切なところはどこかを考えながら勉強する」にあてはまる生徒は69.8%で2番目に多い。「C.さいしょに計画を立ててからはじめる」では、あてはまる生徒は36.3%と10種類の学習方略の中でも最も低い数値が出ている。

考察 :

「D.わからないところがあったら、友達にやり方やその答えをきく」と「B.大切なところはどこかを考えながら勉強する」が70%以上の肯定的回答で、多くの生徒が使っている学習方略であるとわかった。「A.大切なところは、繰り返して書いたり、ノートにまとめたりして

おぼえる」と「H.まちがえたところは、印をつけておいて後で見なおす」、「F.勉強に集中できるように工夫する」も60%を超える肯定的回答で、よく使われている学習方略だといえる。

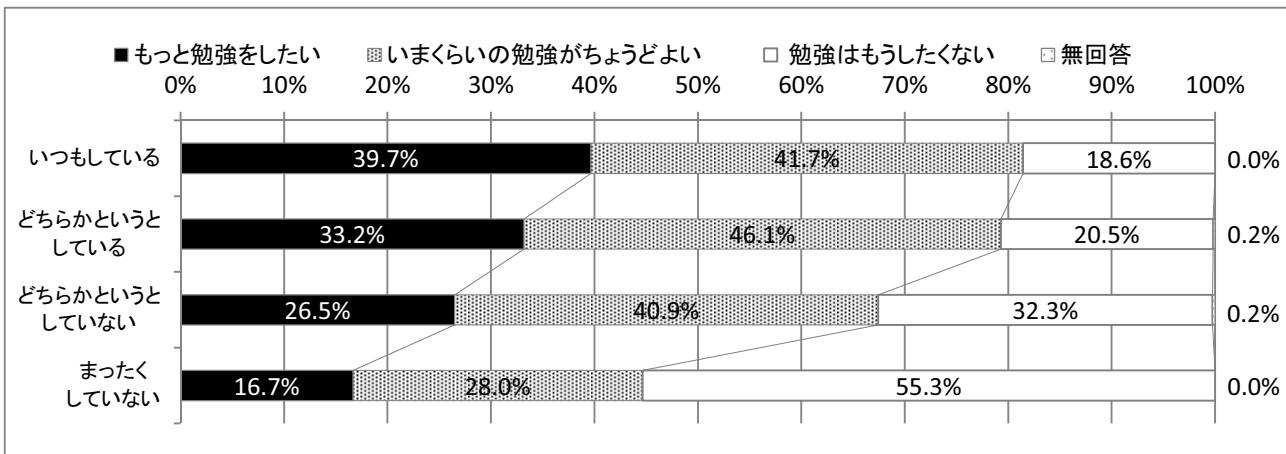
「J.成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる」と「C.さいしょに計画を立ててからはじめる」は否定的回答が肯定的回答を上回っており、あまり学習方略として使われていないことがわかった。

「B.大切なところはどこかを考えながら勉強する」ことはするが、計画は立てていない。さいしょに計画を立てることは、時間の割り振りをした上で、どんな内容をやることが必要かといった見通しをもつことも要求される。生徒にとっては教師が考えている以上に難しいことと思われる。Jについては、いろいろと変えてみるほど、生徒が「勉強のやり方」を知らないのではないかと予想できる。

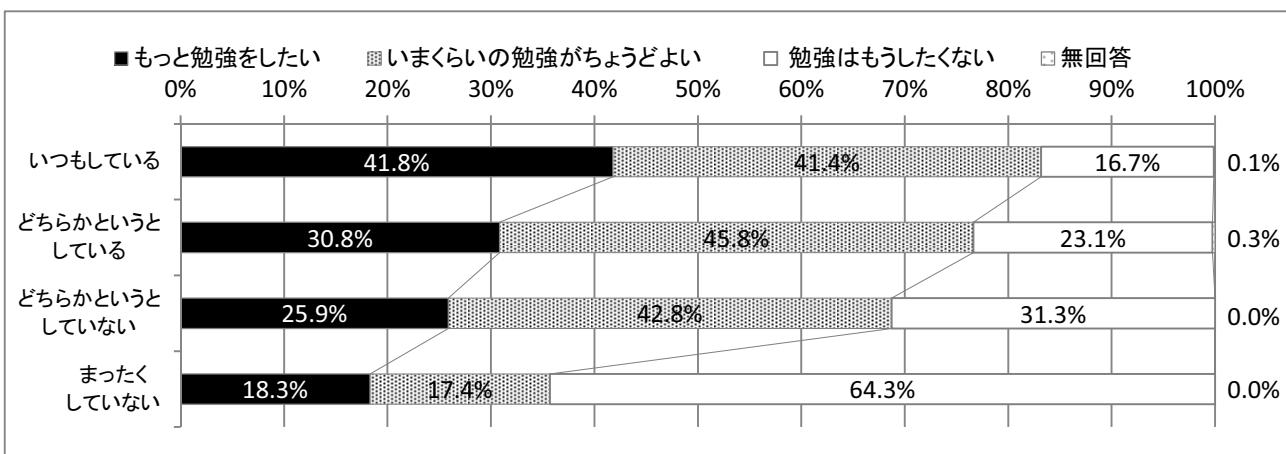
2. 学習方略と勉強の意欲との関連

(1) 「学習方略」と「勉強の意欲」のクロス集計

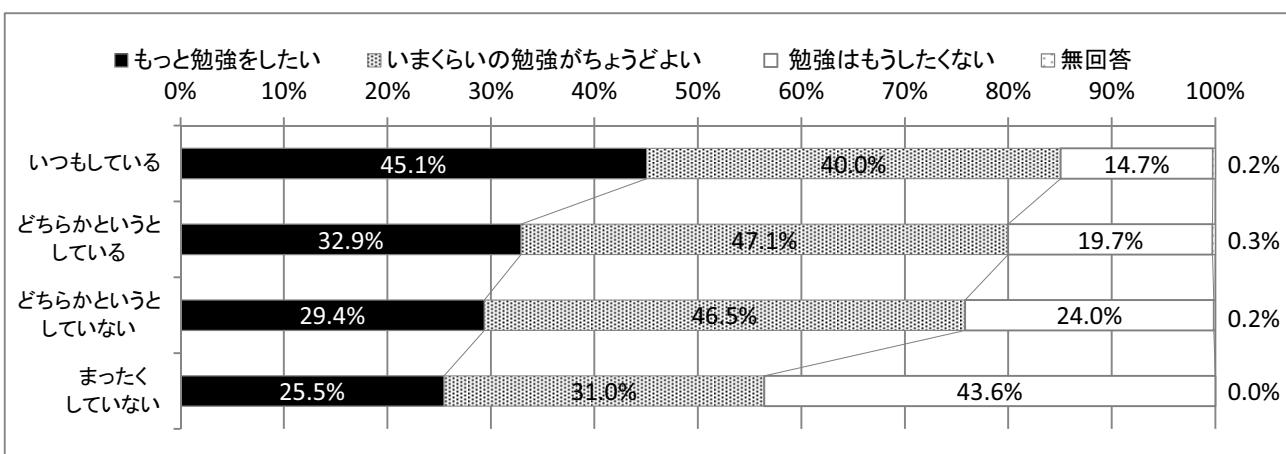
A. 大切なところは、繰り返して書いたり、ノートにまとめたりしておぼえる。



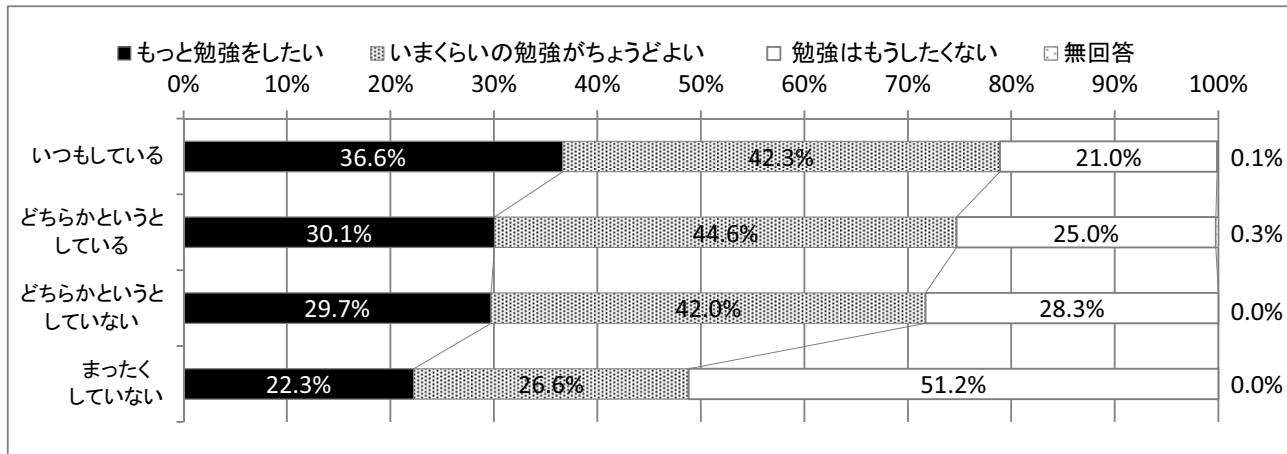
B. 大切なところはどこかを考えながら勉強する。



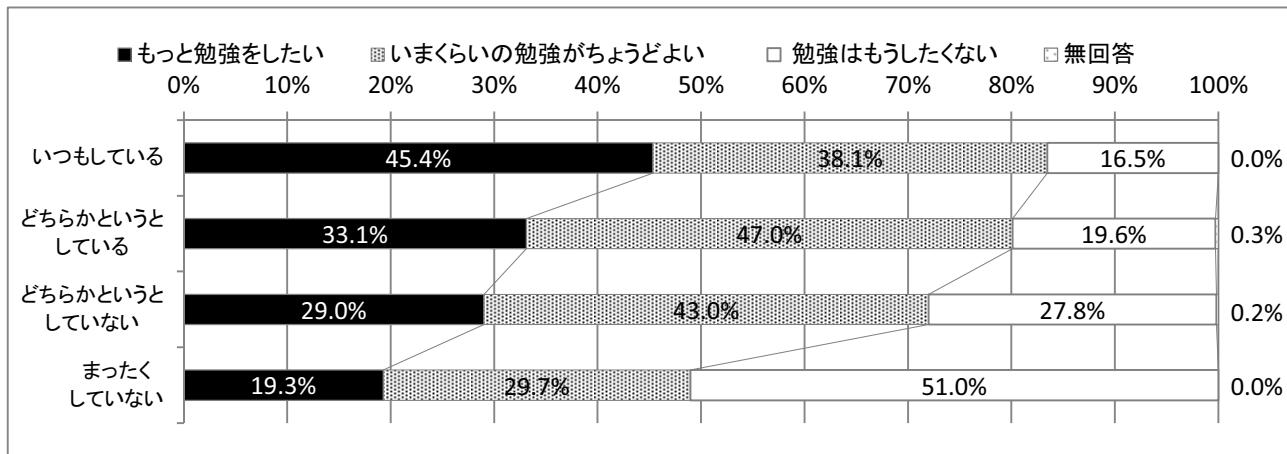
C. さいしょに計画を立ててからはじめる。



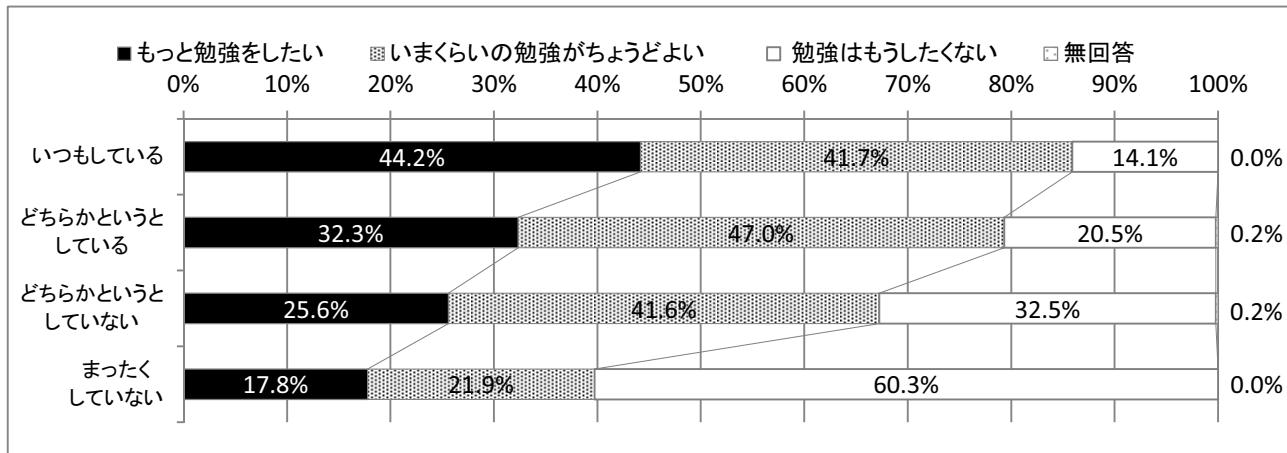
D. わからないところがあったら、友達にやり方やその答えを聞く。



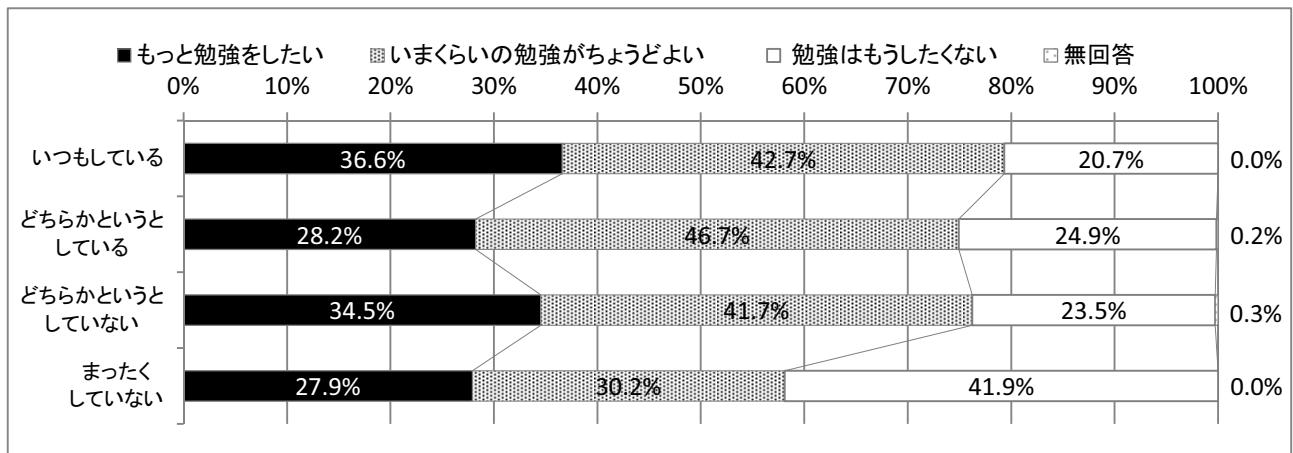
E. やり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する。



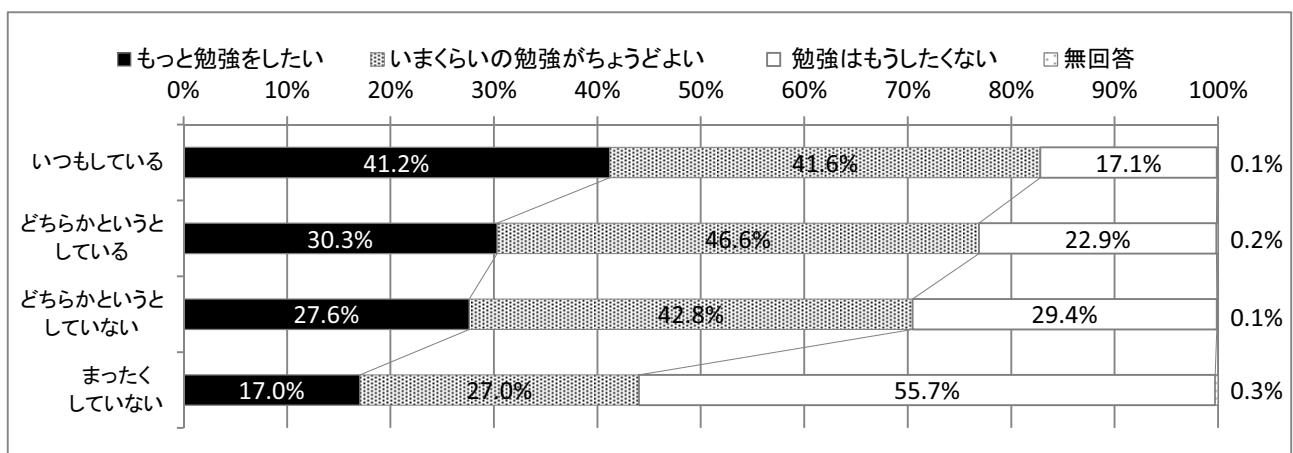
F. 勉強に集中できるように工夫する。



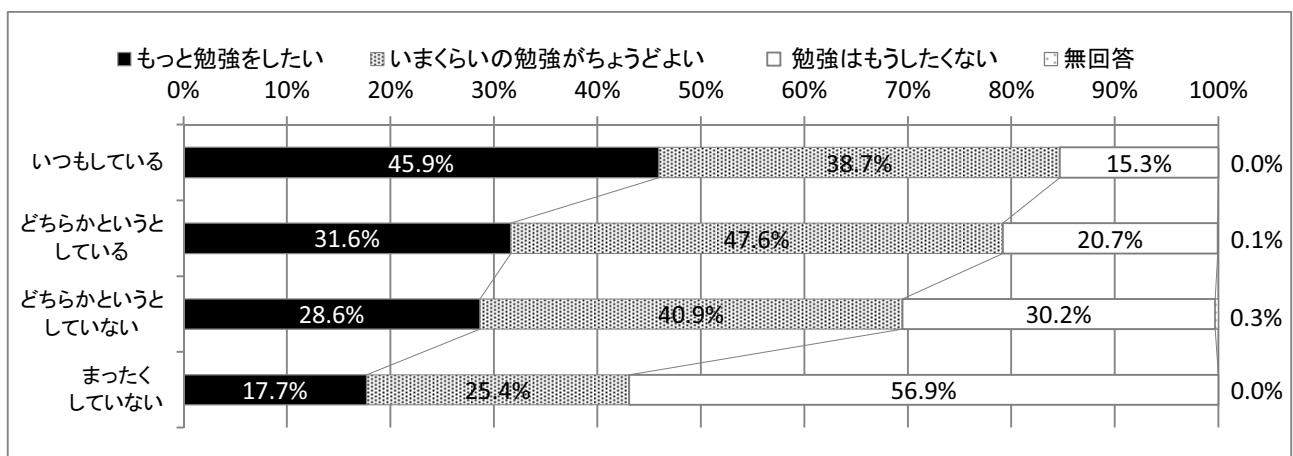
G. 友達と問題を出し合いながら勉強をする。



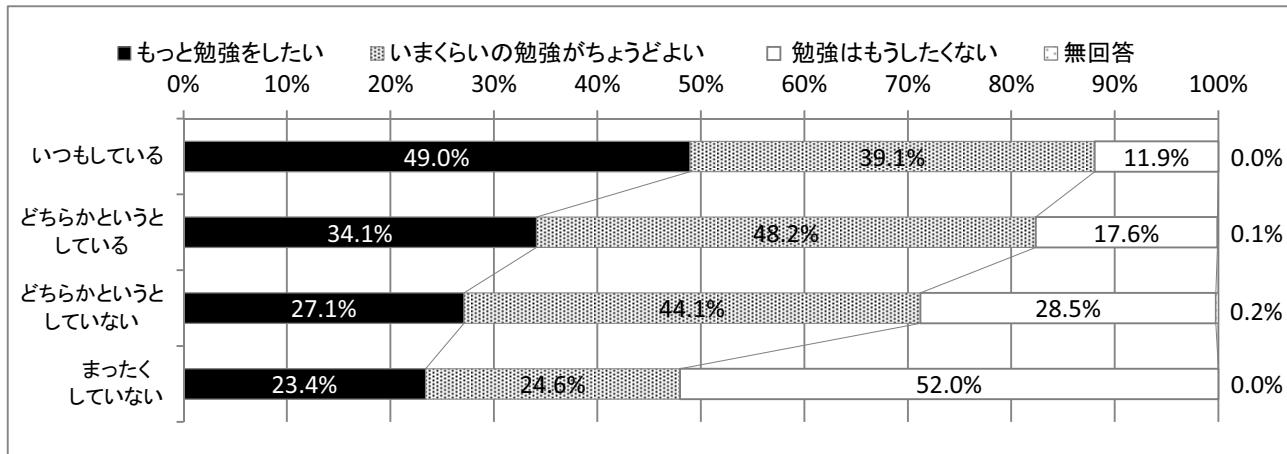
H. まちがえたところは、印をつけておいて後で見なおす。



I. たまに止まって、一度やったところを見なおす。



J. 成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。



調査結果 :

「G.友達と問題を出し合いながら勉強をする」以外のすべての方略において、その学習方略を使っている生徒ほど、学習意欲が高いことがわかる。「D.わからないところがあつたら、友達にやり方やその答えをきく」については、「いつもしている」生徒の中で「もっと勉強をしたい」生徒の割合が36.6%と他に比べるとやや低い。

考察 :

学習方略と学習意欲とは関連があるということがわかつた。

前述の通り、「C.さいしょに計画を立ててからはじめる」、「J.成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる」、「E.やり方が、自分にあつているかどうかを考えながら勉強する」、「I.たまに止まって、一度やつたところを見なおす」は生徒にとってあまり実践されていない学習方略であるが、それらの使われていない学習方略をいつも実践している生徒ほど「もっと勉強をしたい」と思っている割合が、他のよく使われている学習方略より高いことがわかつた。このことから、生徒に広く使われていない学習方略をいつも実践している生徒の学習意欲が高いことが窺える。また、多くの学習方略をいつも実践している生徒ほど、「もっと勉強をしたい」と思っているのではないかと予想される。これについてでは、後述の学習方略の個数と意欲との関連で詳しく述べることとする (p.78)。

一方、個々に結果を見てくと、「G.友達と問題を出し合いながら勉強をする」の結果からは、少人数に分かれでクイズ形式で勉強を教え合う（理解度を確かめる）方法は、学習意欲の高い低いにかかわらず、生徒の興味を引くやり方ではないかと考えられる。

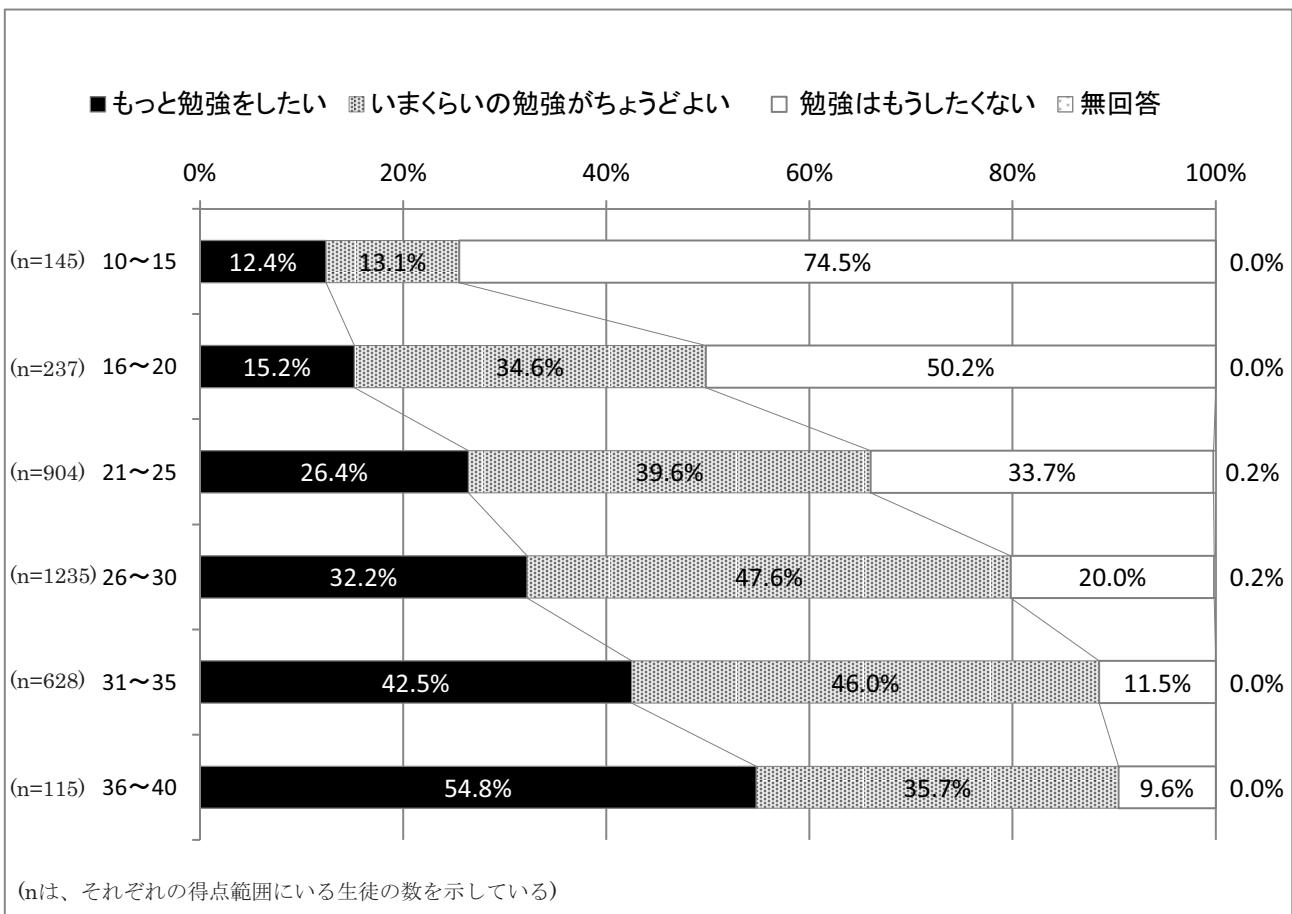
「C.さいしょに計画を立ててからはじめる」では、「まったくしていない」生徒のうち、「もっと勉強をしたい」「いまくらいいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒が56.5%と他と比べて多い。計画を立てるためには、時間の見通しや、何をすればいいのかを認識できていることが必要となるため、計画をあらかじめ立てることは、学習意欲のあるなしにかかわらず、どの生徒にとっても難しいことなのかもしれない。

「B.大切なところはどこかを考えながら勉強する」と「F.勉強に集中できるように工夫する」では、まったくしていない生徒の6割以上が、「勉強はもうしたくない」と答えている。これらの生徒の中には、「どこが大切なのがわからない」「どのようにしたら勉強に集中できるのかわからない」生徒がいるのではないだろうか。こうした生徒には、具体的なアドバイスなど個に応じた支援をすることで、学習意欲を高めることにつながるかもしれない。

学習意欲の高い生徒ほど、それぞれの学習方略を使っていることは確かである。様々な学習方略があることや、その中から自分に合った学習方略を選ぶことを生徒に対して紹介することで、学習意欲を高められる可能性が示唆された。

(2) 「学習方略」の使用度と「勉強の意欲」のクロス集計

※以下のグラフは、学習方略の全体的な使用度と学習意欲の関連を検討するため、各学習方略(10項目)の使用度について、いつもしている(4点)・どちらかというとしている(3点)・どちらかというとしていない(2点)・まったくしていない(1点)として合計(10~40点)を出し、得点ごとに学習意欲がどのような回答割合になっているかを調べた。



集計結果：

学習方略の使用度と学習意欲には正の相関が見られた。学習方略の合計得点が高く、学習方略をよく使用している生徒ほど、「もっと勉強をしたい」と回答する生徒の割合が高く、「勉強はもうしたくない」と答える生徒の割合は小さくなっていた。特に、「勉強はもうしたくない」と回答している生徒の割合は、10～15ポイントのグループと、36～40ポイントのグループを比べると、約8分の1となっている。

考察：

この結果から、前述で予想された、多くの学習方略をいつも実践している生徒ほど、「もっと勉強をしたい」と思っている、ということが読み取れる。また、様々な学習方略があることを知らずに、あるいは、使えずにいる生徒ほど、「勉強はもうしたくない」と感じていることが窺える。生徒たちに、早い段階、例えば勉強が難しいと感じ始める小学校・中学年等の頃に、様々な学習方略があることを伝え、それが自分に合った学習方略を使えるようにすることで、勉強の意欲を高めることにつながる可能性があるのではないだろうか。

(3) 「学習方略」の使用度と「学習意欲」との関連

表1 学習方略得点間の相関、平均、標準偏差

	柔軟性	プランニング	作業方略	友人リソース	認知的方略	平均	標準偏差
柔軟性方略	1.00					4.92	1.47
プランニング方略	0.53	1.00				4.89	1.43
作業方略	0.44	0.52	1.00			5.59	1.53
友人リソース方略	0.33	0.32	0.39	1.00		5.51	1.47
認知的方略	0.57	0.53	0.52	0.35	1.00	5.58	1.43
学習方略合計	0.77	0.77	0.77	0.64	0.79	26.48	5.49

注) 標準偏差: データのばらつき度を表す指標。値が大きいほどばらつきが大きいことを示す。

表2 学習方略得点と学習意欲の相関

	(12) 学習意欲得点	(4) もっと勉強したい
柔軟性方略	0.53	0.27
プランニング方略	0.54	0.25
作業方略	0.53	0.26
友人リソース方略	0.35	0.12
認知的方略	0.57	0.28
学習方略合計	0.67	0.32

注) 相関: ある事象とある事象の間の関連の強さを表す指標。-1~1の値をとる。

調査結果 :

前項に示したように、A~Jの学習方略の使用度について、「いつもしている」4点、「どちらかというとしている」3点、「どちらかといふとしていない」2点、「まったくしていない」1点で得点化した。柔軟的方略、プランニング方略、作業方略、友人リソース方略、認知的方略の各学習方略がそれぞれ2項目ずつ設定されていたため、同じ学習方略の2項目の得点を合計し、5種類の学習方略得点を算出した（同じ学習方略項目間の相関は.28~.42）。学習方略得点の平均と標準偏差を表1に示す。得点が高いほど、その学習方略を使用していることを表している。作業方略や認知的方略の使用度が高く、プランニング方略や柔軟性方略の使用度は相対的に低かった。学習方略間の相関（表1）を見ると、全体として正の相関となっており、ある学習方略をよく使用する生徒は他の学習方略もよく使用する傾向が見られた。5つの学習方略の中では、友人リソース方略の使用と他の方略の使用との関連が低かった。

項目12の学習意欲についても「とてもよくあてはまる」4点～「まったくあてはまらない」1点として、「4.もっと、たくさん勉強したいと思いますか？」の項目では「もっと勉強をしたい」3点、「いまくらいの勉

強がちょうどよい」2点、「勉強はもうしたくない」1点として得点化した。学習方略の使用と学習意欲の相関を算出したところ、全体として正の相関が見られており（表2）、学習意欲の高い生徒ほど各学習方略をよく利用していた。学習意欲と特に関連が高いのは認知的方略だった。一方、友人リソース方略は他の方略に比べて学習意欲との関連が低かった。

考察 :

友人リソース方略が他の方略の使用との関連が低いほか、学習意欲との関連も比較的低いのは、この方略を使用するには、学習への意欲とは別に対人関係スキルが必要になるためと考えられる。

プランニング方略や柔軟性方略の使用度は低いことから、これらの学習方略の存在についても生徒たちに周知し、選択肢を広げる必要があると思われる。ここで報告した学習方略得点の平均と比べて一人ひとりがどのような学習方略を行っているかを意識してみることで、各生徒が自身の学習方法の特徴を知り、自分に合った学習方略を見つけるといった活動に利用できるのではないだろうか。



第4章

調査のまとめと今後の課題

1. 50年間の時系列比較

「勉強の意欲」は、調査の始まった1965年の第1回から一貫して下がり続け、近年は低い位置での横ばいの傾向にあったが、今回の調査では、「もっと勉強をしたい」と答えた生徒の割合が大幅に増加した。同じように、1975年以降下がり続けていた「帰宅後の勉強時間」「学校の勉強の理解度」については、2005年からは微増に転じ、今回もある程度の増加が見られた。これらは、各学校や先生方が、落ち着いた学習環境やわかりやすい授業を目指し、地道な努力を積み重ねてきた結果ともいえる。このように、望ましい事柄の増加が見られた中で、

「学校の勉強についていく自信」や「勉強への集中度」については、変化が見られなかった。

また、「学校以外での習い事」では、近年微増傾向にあった「学習塾」が大きく増加し、調査開始以来最多となり、2000年以降選択肢として加えた「家庭教師」や「通信添削」は減少した。

一方、2000年（一部2005年）から項目に加えた「期待する授業」については、「学校の外で見学・体験できる授業」以外はすべて、さらに高くなる傾向が続いている。これをよい機会ととらえ、生徒の期待に応えるべく、より工夫された授業が活発に行われる事を望みたい。なお、これらの傾向については、図1、2に示した。

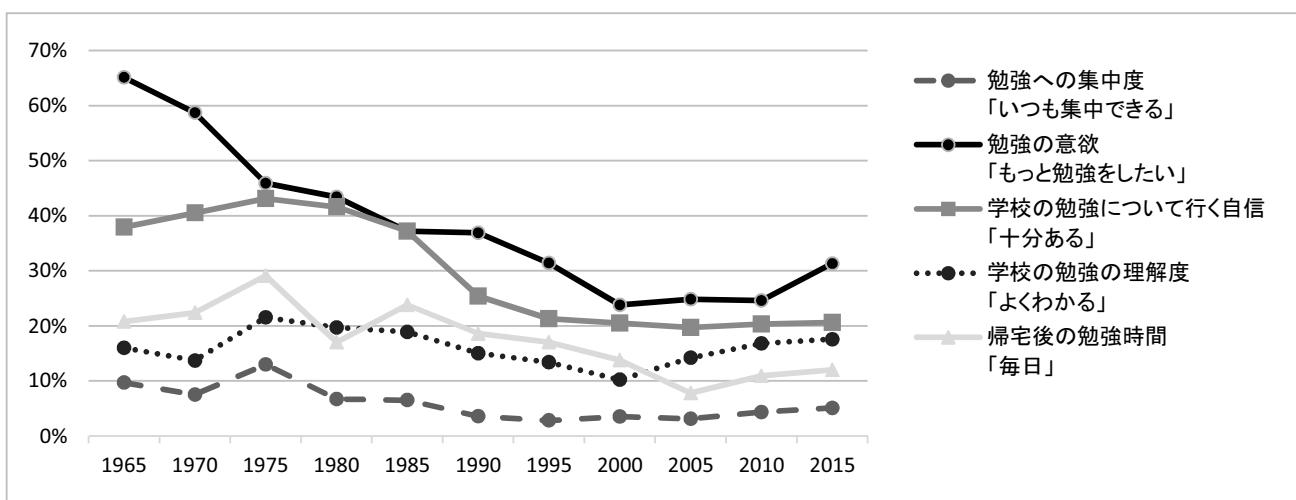


図1 望ましい選択肢の傾向

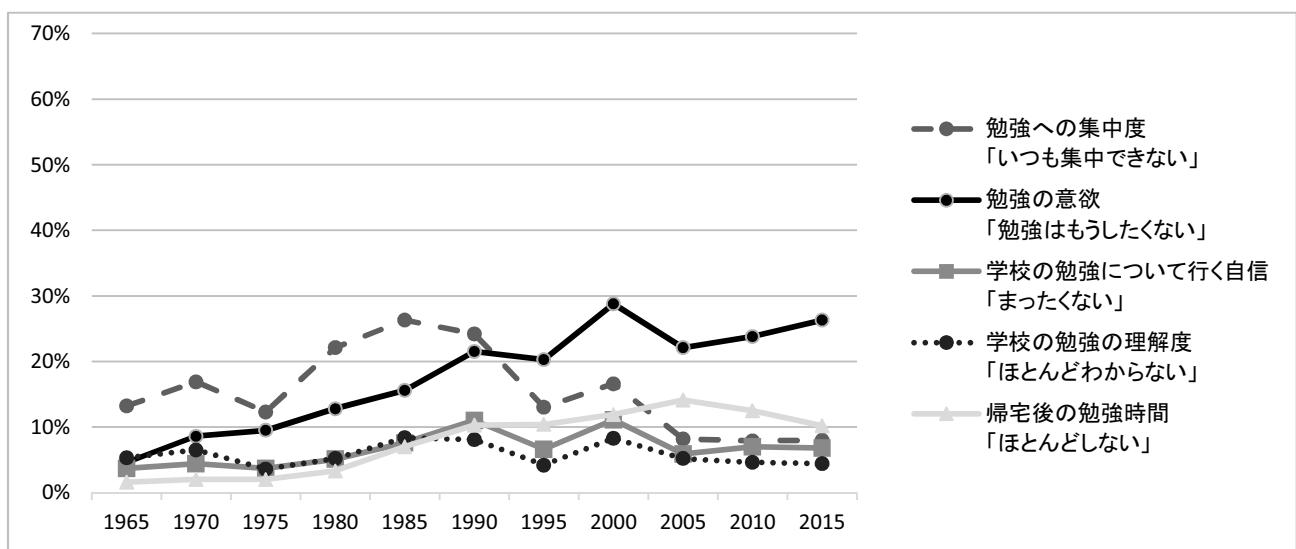


図2 望ましくない選択肢の傾向

2. 勉強の意欲の二極化

今回の調査では、「もっと勉強をしたい」生徒が増えた一方で、「勉強はもうしたくない」生徒は微増し、「いまくらいの勉強がちょうどよい」生徒は大幅に減少した。長年学習意欲の減少を取り上げ、ゆゆしき問題であると対策の必要性を訴えてきた本調査であるが、前回の調査のまとめでは、「減少の傾向に歯止めがかかった」とし、今回の調査では、生徒たちの勉強の意欲が高まった結果となった。とはいえ、それが望ましい傾向であるかどうかについては疑問が残る。

疑問点の一つは、「勉強の意欲」は高まったものの、「学校の勉強についていく自信」は低いまでの横ばいであった点にある。このことは、「もっと勉強をしたい」という気持ちが、「やればできるから」や「楽しいから」といった前向きな気持ちからではなく、「やらないと不安だから」「やらないとついていけなくなるから」といった感情からきている結果とも読み取れる。

もう一つは、「勉強の意欲」は高まったのにもかかわらず、前回から新設項目として加わった「学習意欲」を見ていくと、促進傾向を尋ねる質問であるはずの「勉強をして新しいことを知るのが楽しみだ」は減少、抑制傾向を尋ねる質問の「間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない」は増加していた点である。この「勉強をして新しいことを知るのが楽しみだ」は、促進傾向の中でも内発的意欲を測る質問であり、生徒の主体的な「もっと勉強をしたい」という気持ちにつながっているともいえるだろう。私たちが、中学生に対して期待する「もっと勉強をしたい」という気持ちとはどういうものなのか、もう一度考え直してみる必要があるのかもしれない。

勉強のイメージとの関連も、気になる点である。前回の調査では、「もっと勉強をしたい」生徒ほど、「勉強」という言葉に対して持つイメージの幅が広いということがわかり、今回の結果でも、勉強の意欲とイメージの広さにはある程度の相関が見られた。しかし、意欲の増加に伴ってイメージの幅も前回よりも広がったかというと、そうはならなかった。

今回の結果から、生徒たちが選んだイメージの中で前回よりも増加したのは、「受験のための準備」と「学校の授業」であり、他の質問については、変化がないか、減少している。今回減少が見られた3項目は、「興味や関心のあることを学ぶこと」「人とのかかわり方を学ぶこと」「自分の生き方を見つけること」である。しかし、

これらこそが、今後必要とされる主体的な学びのイメージそのものとも考えられる。私たちが憂いてきた“勉強の意欲の減少”とは何だったのか。「勉強の意欲」が高まったことはよいことであるが、意欲の中身について、丁寧に見ていかなくてはならないだろう。今後の調査で、「もっと勉強をしたい」生徒が増える一方で、「勉強はもうしたくない生徒」がさらに増え、二極化がよりいつそう進むような傾向が見られたとしたら、今回、調査開始以来初の大規模な増加となった「勉強の意欲」について、「よかったこと」としてとらえてよかったのか、時間をかけて検討していく必要があると考える。

3. 今回の調査から考える学校の意義

第6回調査(1990年)のまとめには、「勉強時間」「理解度」「自信」「意欲」「集中」いずれも一貫して低下し、それを補うかのように「塾などの習い事」が普及、「自由時間」への願望が増加の一途をたどってきたとある。これらの事実を素直に「学校離れ」現象と解釈し、第7回調査（1995年）からは、「学校離れ」と1994年に行なった予備調査から見えてきた「学校依存」の傾向について把握するために、多くの調査項目を追加した。第7回の報告書では、調査開始後の30年間で『学校離れ』は進行しているが、「生徒にとって学校は『友達づきあい』の場として極めて重要な意味を持っている」とまとめている。

今回の調査では、「学校の中で一番大切に思うもの」について「勉強」と答える生徒が大幅に増え、それに呼応するように「友達づきあい」と答える生徒が大幅に減少した。とはいえ「勉強」を大切に思う生徒が増えたことは、学校離れからの脱却となっているといえるのだろうか。また、「友達づきあい」がこれほどまでに減少したこと、戸惑いを感じる。生徒たちにとって、「友達づきあい」という言葉がもつ意味の変化についても、気がかりではあるが、ここではそれよりも、「友達づきあい」の場がどう変化していったかに注目したい。

この項目が追加された第7回調査では、報告書のまとめで、「もはや、勉強は学校の独占物ではなくなった」としている。しかし、今回の結果からは、学校は友達づきあいとしての場という点でも、その位置は不動のものとは言い難くなっているのかもしれない。今回の調査で、学習塾に通う生徒がさらに増えていることからも、この20年間で生徒の自由時間が増えているとはいえそうも

ない。また、変わらず自由への願望は高いことも踏まえると、多忙な生徒が学校外で友達と会う場は依然として少ないことが想像できる。しかし、1990年代以降の急速なインターネットの普及により、生徒を取り巻く生活環境は大きく変化した。この5年間で、小中学生の携帯電話の保有率はさらに上がり、SNSを利用することで、それまで学校でしか会うことができなかつた友達とは24時間つながっていられる。また、学校外での友達づくりあいも広がり、「共通の趣味」という枠の中で、会ったことのない人と、学校の友達よりも深く繋がることさえ可能となった。今回の調査では、生徒は依然として学校の中では「友達づくりあい」を大切と感じ、「授業への期待」も高い。しかし、これからさらに世界が広がった時、いつまでも生徒が今までと同じように、学校に期待を寄せてくれるとはかぎらないだろう。

こうした意味では、コミュニケーションツールとしてのスマートフォン・携帯ゲーム機・SNSとの関連について、今後見ていく必要があるかもしれない。

このように、生徒を取り巻く世界が広がりを見せる一方で、生身の人間同士のかかわりを避けながら生活することが可能となった現代においては、今後ますます学校での人間同士のかかわり合いが生徒にとって貴重な機会となるであろう。今回の結果から、学校の役割を再認識する必要があることも示されたといえる。生徒は一日の大半を学校で過ごす。学校の中では、気の合わない相手とも同じ空間で過ごし、ぶつかり合いながら、どうにか折り合いをつけて過ごす術を身に付けていく。日々かかわり合う中で、自分を見つめ、他者を理解し、目の前の問題を乗り越えようと、お互いにとってよりよい方向を探る。そうした経験を繰り返しながら身に付けた力は、生徒が卒業後に進む社会の中で生きていくために、必要な力となるであろう。「友達づくりあい」の場としての学校の役割を改めて価値づけ、授業時間を中心に、人ととかかわり合い課題を解決していくような体験の充実を積極的に目指していくことが肝要である。学校の中で大にしたい「勉強」は、「友達づくりあい」なしには成り立たない、そんな姿をこれからの学校には期待したい。

4. 勉強の意欲と学習方略との関連

学習意欲関連事項として、補足調査を経て今回新設した「学習方略」については、その結果から、勉強の意欲を高めるための新たな方策となり得る可能性が示唆され

た。「勉強のやり方・学び方」の重要性については、目新しいことではないかもしれない。しかし、藤沢市の中学校3年生に、それぞれの「学習方略」がどの程度使われているのか、また、「勉強の意欲」との関連を見ていくことで得られるものは多くあったといえる。

今回取り上げた10個の学習方略の中で、最も生徒に使われていないのは「成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる」であった。しかし、「勉強の意欲」とのクロス集計結果を見ると、この方略を「いつもしている」生徒が、最も「もっと勉強をしたい」と答えていることがわかった。実際には、いろいろ変えてみると、生徒は多くの学習方略を知らないのではないかと予想される。つまり、言い換えると、さまざまな学習方略があることを生徒に伝えることで、勉強のやり方をいろいろ変えてみることができるようになり、それが「勉強の意欲」につながる可能性が示されたともいえる（第3章p.79参照）。

「勉強のやり方・学び方」にも、これからは主体的に取り組むことが必要とされることはいうまでもない。それは、「言われなくとも勉強をする」ということだけではないはずである。生徒が、それぞれの課題を見つけ、それらに応じ、自分に合った「勉強のやり方・学び方」を見つけられるような支援が、家庭や学校にも求められるだろう。そして、自分に合わない勉強を続け苦しんできた生徒が、自分に合った勉強のやり方と出会うことで、勉強の楽しさを感じてほしいと願う。また、すでに勉強を楽しいと感じている生徒には、より多くの学習方略を知り、新たな課題を見つけた際には、課題解決のプロセスを含め、学び方から自分自身で考えて選択することにより、さらに深い学びに触れる機会となることを期待したい。

5. 今後の課題

この調査の結果については、入試制度や学習指導要領の改訂との関連が度々考察の中で取り上げられてきた。現行の学習指導要領は、2012（平成24）年に完全実施されたばかりであるが、2015年より、すでに次の改訂への準備が始まっている。

新しい学習指導要領等が目指す姿については、文部科学省が「論点整理」としてまとめている（平成27年8月）。その中では、育成すべき資質・能力を以下の「三つの柱」として示している。

- 1)何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- 2)知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- 3)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

この「論点整理」では、冒頭「2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来を築くために、教育課程を通して初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している」とある。私たちは、これからの中等教育の目指すところを近い将来だけでなく、遠い未来へもつながる目標としてより長い目でとらえ、考えていかなくてはならないことが示された。

これからの教育の目指す姿を理解した上で、今回の調査結果を見ると、課題は多くあるといわざるを得ない。

「勉強の意欲」や「勉強時間」という望ましいことが増えるのはよいが、それらについては今後丁寧に見ていくことが必要である。特に、二極化の傾向が見られた、「勉強の意欲」については、「勉強はもうしたくない」生徒が今後さらに増えていくのかどうか、さらに増えるのであれば、それはどのような要因によるものなのか、注視していく必要があるだろう。

また、学校の意義については、習い事や家族の関係、勉強のイメージとの関連も見ていきながら、生徒の意識がどう変化しているのか、今後の結果を丁寧に見ていく必要がある。

一方で、今回の結果の考察ではあまり深くは触れなかつたが、結果を男女別に見ていくと、全体的に、男子が望ましい事柄の増加を牽引していることがわかった。「理解度」「自信」もそうである。全体としては、増加しているが、その内実は男子が増加し、女子はわずかではあるが減少しているのである。また、「授業への期待」も、一つひとつを男女別に見ていくと、男子の増加によって全体が増加しているように見えるが、女子は部分的に減少している。この傾向が、今後どうなっていくのかも、気になるところである。

新たな項目として加えた、「学習方略」については、今回の結果をそれぞれの学校や家庭でどう意識化し、活かしていくかが課題となるであろう。さまざまな学習方略があり、その中からそれぞれの生徒に合ったものを選ぶことで意欲を高められる可能性があることを学校や家庭が認識を深め、適切な時期に生徒に伝え、生徒自身が使えるように広めていくような工夫が求められる。

これからの中等教育が「何を身に付けたか」から、「身に付けたものを使って何ができるか」へと重点を移そうとしているのにもかかわらず、今回の調査結果からは、生徒たちの意識はより「受験のための勉強」に重点を置いているかのように見えた。学習塾に通う生徒が増え、受験というイメージをより強く持ち、「もっと勉強をしたい」、または、「勉強はもうしたくない」と思い、「自分の生き方を見つけること」から離れていくかのようである。私たちはこの結果を真摯に受け止め、時間をかけて丁寧に向き合い、学校や家庭の中で子どもに直接かかわる人間はもちろん、社会をつくる大人として、子どもたちが自ら選択する場を保障し、彼らが自身の足で歩いていけるような力を身に付けることを支援していくなくてはならないであろう。そして、個々の力を発揮できるような社会をつくっていくことが、私たちすべての大人に課せられた課題といえる。



資 料

1. 2015年学習意識調査結果一覧
2. 公立高校入学者選抜制度(平成28年度)
3. 50年間の主な出来事

資料1 <2015年学習意識調査結果一覧>

(1)家庭での学習について質問します。どれか一つに○をつけてください。
(塾・家庭教師なども含みます)

A.学校から帰って、月曜日から金曜日の間に何日くらい勉強していますか？

	毎日	3~4日	1~2日	ほとんどしない	無回答
全体	866	1349	737	336	2
	26.3%	41.0%	22.4%	10.2%	0.1%
男子	436	670	382	216	2
	25.6%	39.3%	22.4%	12.7%	0.1%
女子	430	679	355	120	0
	27.1%	42.9%	22.4%	7.6%	0.0%

B.学校から帰って勉強する日には、一日どのくらい勉強していますか？

	2時間以上	1~2時間	1時間未満	無回答
全体	1113	1515	652	9
	33.8%	46.1%	19.8%	0.3%
男子	596	740	362	7
	35.0%	43.4%	21.2%	0.4%
女子	517	775	290	2
	32.6%	48.9%	18.3%	0.1%

C.土曜日には、どのくらい勉強していますか？

	2時間以上	1~2時間	1時間未満	まったくしない	無回答
全体	1299	836	584	564	6
	39.5%	25.4%	17.8%	17.1%	0.2%
男子	680	389	282	354	1
	39.9%	22.8%	16.5%	20.8%	0.1%
女子	619	447	302	210	5
	39.1%	28.2%	19.1%	13.3%	0.3%

D.日曜日には、どのくらい勉強していますか？

	2時間以上	1~2時間	1時間未満	まったくしない	無回答
全体	533	853	922	977	5
	16.2%	25.9%	28.0%	29.7%	0.2%
男子	277	401	444	581	3
	16.2%	23.5%	26.0%	34.1%	0.2%
女子	256	452	478	396	2
	16.2%	28.5%	30.2%	25.0%	0.1%

(2)学校での勉強がよくわかりますか？どれか一つに○をつけてください。

	よくわかる	どちらかといふとわかる	どちらかといふとわからない	ほとんどわからない	無回答
全体	578	1944	616	146	5
	17.6%	59.1%	18.7%	4.4%	0.2%
男子	398	963	254	87	4
	23.3%	56.4%	14.9%	5.1%	0.2%
女子	180	981	362	59	1
	11.4%	62.0%	22.9%	3.7%	0.1%

(3)学校の勉強についていく自信がありますか？どれか一つに○をつけてください。

	十分ある	どちらかと いうとある	どちらかと いうとない	まったくない	無回答
全体	677	1459	929	223	1
	20.6%	44.4%	28.2%	6.8%	0.0%
男子	471	730	388	116	1
	27.6%	42.8%	22.7%	6.8%	0.1%
女子	206	729	541	107	0
	13.0%	46.1%	34.2%	6.8%	0.0%

(4)もっと、たくさん勉強したいと思いますか？どれか一つに○をしてください。

	もっと勉強を したい	いまくらいの 勉強が ちょうどよい	勉強は もうしたくない	無回答
全体	1029	1387	866	5
	31.3%	42.2%	26.3%	0.2%
男子	528	707	464	5
	31.0%	41.5%	27.2%	0.3%
女子	501	680	402	0
	31.6%	43.0%	25.4%	0.0%

(1. もっと勉強をしたい と答えたみなさんへ)

A.どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

	進学や受験の ためになるから	今の勉強では 足りないから	自分の将来の夢 や 生活のためになる から	勉強することが 好きだから	みんなについて いきたいから	その他
全体	560	183	140	36	40	39
	56.0%	18.3%	14.0%	3.6%	4.0%	3.9%
男子	290	89	87	17	15	18
	56.1%	17.2%	16.8%	3.3%	2.9%	3.5%
女子	270	94	53	19	25	21
	55.9%	19.5%	11.0%	3.9%	5.2%	4.3%

(2. いまくらいの勉強がちょうどよい と答えたみなさんへ)

B.どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

	今の状態が 自分に合ってい るから	勉強以外の こともやりたい から	勉強は やらなければ ならないもの だから	今、精一杯 やっているから	あまりやりたく ないから	その他
全体	245	695	174	148	100	12
	17.8%	50.5%	12.6%	10.7%	7.3%	0.9%
男子	152	359	85	48	48	9
	21.6%	51.1%	12.1%	6.8%	6.8%	1.3%
女子	93	336	89	100	52	3
	13.8%	49.9%	13.2%	14.8%	7.7%	0.4%

(3. 勉強はもうしたくない と答えたみなさんへ)

C.どうしてこのように答えましたか、もっともあてはまる理由一つに○をつけてください。

	勉強が きらいだから	体力的・精神的 につらいから	将来の役に 立ちそうに ないから	勉強以外の ことも やりたいから	勉強が わからないから	その他
全体	413	97	61	132	72	48
	50.1%	11.8%	7.4%	16.0%	8.7%	5.8%
男子	240	51	28	69	28	30
	53.8%	11.4%	6.3%	15.5%	6.3%	6.7%
女子	173	46	33	63	44	18
	45.6%	12.1%	8.7%	16.6%	11.6%	4.7%

(5) 勉強になかなか集中できないことがありますか？ どれか一つに○をつけてください。

	いつも 集中できる	どちらかと いうと 集中できる	どちらかというと 集中できない	いつも 集中できない	無回答
全体	168	1438	1416	263	5
	5.1%	43.7%	43.0%	8.0%	0.2%
男子	111	736	686	171	2
	6.5%	43.1%	40.2%	10.0%	0.1%
女子	57	702	730	92	3
	3.6%	44.3%	46.1%	5.8%	0.2%

(6) 勉強以外の自由時間がほしいと思いますか？ どれか一つに○をつけてください。

	もっと ほしい	少し ほしい	あまり ほしくない	無回答
全体	1874	1306	98	11
	57.0%	39.7%	3.0%	0.3%
男子	990	648	63	5
	58.0%	38.0%	3.7%	0.3%
女子	884	658	35	6
	55.8%	41.6%	2.2%	0.4%

(7) 勉強に関する悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

	父	母	担任の先生	担任以外 の先生	保健室の先生	塾の先生 ・ 家庭教師
全体	753	1565	558	368	50	1636
	22.9%	47.6%	17.0%	11.2%	1.5%	49.7%
男子	420	692	352	217	21	847
	24.6%	40.6%	20.6%	12.7%	1.2%	49.6%
女子	333	873	206	151	29	789
	21.0%	55.1%	13.0%	9.5%	1.8%	49.8%

	友達	先輩	兄弟姉妹	スクール カウンセラー	いない	他人に相談 しないで 自分で考える	その他
全体	1846	317	542	31	188	454	70
	56.1%	9.6%	16.5%	0.9%	5.7%	13.8%	2.1%
男子	868	143	225	18	122	274	47
	50.9%	8.4%	13.2%	1.1%	7.2%	16.1%	2.8%
女子	978	174	317	13	66	180	23
	61.7%	11.0%	20.0%	0.8%	4.2%	11.4%	1.5%

(8) 勉強以外の悩み事を相談する相手に○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

	父	母	担任の先生	担任以外の先生	保健室の先生	塾の先生 ・ 家庭教師
全体	620	1423	274	207	108	227
	18.8%	43.3%	8.3%	6.3%	3.3%	6.9%
男子	401	632	163	108	33	120
	23.5%	37.0%	9.6%	6.3%	1.9%	7.1%
女子	219	791	111	99	75	107
	13.8%	49.9%	7.0%	6.3%	4.7%	6.8%

	友達	先輩	兄弟姉妹	スクール カウンセラー	いない	他人に相談 しないで 自分で考える	その他
全体	2302	371	406	52	220	579	81
	70.0%	11.3%	12.3%	1.6%	6.7%	17.6%	2.5%
男子	1009	162	143	25	163	381	51
	59.1%	9.5%	8.4%	1.5%	9.6%	22.3%	3.0%
女子	1293	209	263	27	57	198	30
	81.6%	13.2%	16.6%	1.7%	3.6%	12.5%	1.9%

(9) 学校の中で、一番大切に思うものは次のうちのどれですか？ どれか一つに○をつけてください。

	勉強	友達づきあい	部活動	その他	無回答
全体	779	1931	400	145	10
	23.9%	59.1%	12.3%	4.4%	0.3%
男子	394	973	226	96	2
	23.3%	57.5%	13.4%	5.6%	0.1%
女子	385	958	174	49	8
	24.5%	60.9%	11.1%	3.1%	0.5%

(10) 学校以外で、習っているものに、○をつけてください。○はいくつづけてもかまいません。

	学習塾	家庭教師	通信添削	スポーツ関係	おけいこごと、 趣味	その他	なにも 習っていない
全体	2435	78	255	457	536	67	395
	74.0%	2.4%	7.8%	13.9%	16.3%	2.0%	12.0%
男子	1259	40	101	305	129	26	215
	73.8%	2.3%	5.9%	17.9%	7.6%	1.5%	12.6%
女子	1176	38	154	152	407	41	180
	74.2%	2.4%	9.7%	9.6%	25.7%	2.6%	11.4%

(11) 学校で、次のような授業をどのくらい期待していますか？

それぞれの文について、どれか一つに○をつけてください。

A. けじめがあって、集中できる授業

	非常に 期待する	少し 期待する	あまり 期待しない	まったく 期待しない	無回答
全体	909	1730	512	129	10
	27.6%	52.6%	15.6%	3.9%	0.3%
男子	475	866	259	100	6
	27.8%	50.8%	15.2%	5.9%	0.4%
女子	434	864	253	29	4
	27.4%	54.5%	16.0%	1.8%	0.3%

B. 教科書の内容をきちんと教えてくれる授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	1334	1474	378	93	11
	40.5%	44.8%	11.5%	2.8%	0.3%
男子	678	737	216	69	6
	39.7%	43.2%	12.7%	4.0%	0.4%
女子	656	737	162	24	5
	41.4%	46.5%	10.2%	1.5%	0.3%

C. 自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	509	1394	1090	282	15
	15.5%	42.4%	33.1%	8.6%	0.5%
男子	342	710	485	160	9
	20.0%	41.6%	28.4%	9.4%	0.5%
女子	167	684	605	122	6
	10.5%	43.2%	38.2%	7.7%	0.4%

D. 自分の興味や関心のあることを学べる授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	1740	1114	323	101	12
	52.9%	33.9%	9.8%	3.1%	0.4%
男子	982	528	128	61	7
	57.6%	30.9%	7.5%	3.6%	0.4%
女子	758	586	195	40	5
	47.9%	37.0%	12.3%	2.5%	0.3%

E. 生徒の意見を受け入れてくれる授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	1415	1385	367	109	14
	43.0%	42.1%	11.2%	3.3%	0.4%
男子	786	668	168	76	8
	46.1%	39.2%	9.8%	4.5%	0.5%
女子	629	717	199	33	6
	39.7%	45.3%	12.6%	2.1%	0.4%

F. 楽しくリラックスした雰囲気の授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	2070	912	213	84	10
	62.9%	27.7%	6.5%	2.6%	0.3%
男子	1068	455	114	61	7
	62.6%	26.7%	6.7%	3.6%	0.4%
女子	1002	457	99	23	3
	63.3%	28.9%	6.3%	1.5%	0.2%

G. 将来役立つ知識や技術を身につけられる授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	1753	1168	271	86	11
	53.3%	35.5%	8.2%	2.6%	0.3%
男子	977	543	125	53	8
	57.3%	31.8%	7.3%	3.1%	0.5%
女子	776	625	146	33	3
	49.0%	39.5%	9.2%	2.1%	0.2%

H. 学校の外で見学・体験できる授業

	非常に期待する	少し期待する	あまり期待しない	まったく期待しない	無回答
全体	1545	1105	469	158	11
	47.0%	33.6%	14.3%	4.8%	0.3%
男子	798	541	253	106	7
	46.8%	31.7%	14.8%	6.2%	0.4%
女子	747	564	216	52	4
	47.2%	35.6%	13.6%	3.3%	0.3%

(12)次のそれぞれの文について、ふだんの自分にもっとも合うもの一つに○をつけてください。

A. 家の人に、「勉強しなさい」と、言われなくても、勉強をする。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	442	1282	1107	450	9
	13.4%	39.0%	33.6%	13.7%	0.3%
男子	208	617	582	294	5
	12.2%	36.2%	34.1%	17.2%	0.3%
女子	234	665	525	156	4
	14.8%	42.0%	33.1%	9.8%	0.3%

B. 勉強して新しいことを知るのが楽しみだ。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	403	1088	1217	574	8
	12.2%	33.1%	37.0%	17.4%	0.2%
男子	244	554	561	343	4
	14.3%	32.5%	32.9%	20.1%	0.2%
女子	159	534	656	231	4
	10.0%	33.7%	41.4%	14.6%	0.3%

C. むずかしい問題でも、いろいろなやり方を考えて、がんばる。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	443	1282	1146	411	8
	13.5%	39.0%	34.8%	12.5%	0.2%
男子	318	675	504	204	5
	18.6%	39.6%	29.5%	12.0%	0.3%
女子	125	607	642	207	3
	7.9%	38.3%	40.5%	13.1%	0.2%

D. しめきりまでに、宿題をすませる。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	1366	1368	421	130	5
	41.5%	41.6%	12.8%	4.0%	0.2%
男子	646	703	263	91	3
	37.9%	41.2%	15.4%	5.3%	0.2%
女子	720	665	158	39	2
	45.5%	42.0%	10.0%	2.5%	0.1%

E. 先生から、勉強のしかたのアドバイスを受けると、やってみようと思う。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	855	1682	548	196	7
	26.0%	51.2%	16.7%	6.0%	0.2%
男子	441	825	286	149	4
	25.9%	48.4%	16.8%	8.7%	0.2%
女子	414	857	262	47	3
	26.2%	54.1%	16.6%	3.0%	0.2%

F. テストが終わったすぐあとで、答えが合っていたかどうかを、自分で調べてみる。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	657	1069	989	568	7
	20.0%	32.5%	30.1%	17.3%	0.2%
男子	377	510	466	349	4
	22.1%	29.9%	27.3%	20.5%	0.2%
女子	280	559	523	219	3
	17.7%	35.3%	33.0%	13.8%	0.2%

G. 間違えるのがいやなので、あまり手を挙げたことがない。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	685	1061	1046	491	5
	20.8%	32.3%	31.8%	14.9%	0.2%
男子	252	485	602	364	2
	14.8%	28.4%	35.3%	21.3%	0.1%
女子	433	576	444	127	3
	27.4%	36.4%	28.0%	8.0%	0.2%

H. したくない勉強は、無理にしなくてもよいと思う。

	とてもよくあてはまる	どちらかといふとあてはまる	どちらかといふとあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
全体	526	818	1383	557	6
	16.0%	24.9%	42.0%	16.9%	0.2%
男子	315	378	685	325	3
	18.5%	22.2%	40.2%	19.1%	0.2%
女子	211	440	698	232	3
	13.3%	27.8%	44.1%	14.6%	0.2%

(13)あなたは、勉強をしているとき、つぎのような方法で勉強をしていますか？
もっともあてはまるものを一つえらんで、○をつけてください。

A. 大切なところは、繰り返して書いたり、ノートにまとめたりしておぼえる。

	いつもしている	どちらかというと している	どちらかというと していない	まったく していない	無回答
全体	680	1474	811	318	6
	20.7%	44.8%	24.7%	9.7%	0.2%
男子	320	681	459	242	3
	18.8%	39.9%	26.9%	14.2%	0.2%
女子	360	793	352	76	3
	22.7%	50.1%	22.2%	4.8%	0.2%

B. 大切なところはどこかを考えながら勉強する。

	いつもしている	どちらかというと している	どちらかというと していない	まったく していない	無回答
全体	735	1563	761	224	7
	22.3%	47.5%	23.1%	6.8%	0.2%
男子	404	783	360	155	4
	23.7%	45.9%	21.1%	9.1%	0.2%
女子	331	780	401	69	3
	20.9%	49.2%	25.3%	4.4%	0.2%

C. さいしょに計画を立ててからはじめる。

	いつもしている	どちらかというと している	どちらかというと していない	まったく していない	無回答
全体	417	775	1329	762	7
	12.7%	23.6%	40.4%	23.2%	0.2%
男子	192	361	670	478	5
	11.3%	21.2%	39.3%	28.0%	0.3%
女子	225	414	659	284	2
	14.2%	26.1%	41.6%	17.9%	0.1%

D. わからないところがあったら、友達にやり方やその答えを聞く。

	いつもしている	どちらかというと している	どちらかというと していない	まったく していない	無回答
全体	960	1587	481	256	6
	29.2%	48.2%	14.6%	7.8%	0.2%
男子	459	779	272	192	4
	26.9%	45.7%	15.9%	11.3%	0.2%
女子	501	808	209	64	2
	31.6%	51.0%	13.2%	4.0%	0.1%

E. やり方が、自分にあつてゐるかどうかを考えながら勉強する。

	いつもしている	どちらかといふと している	どちらかといふと していない	まったく していない	無回答
全体	431	1220	1204	427	8
	13.1%	37.1%	36.6%	13.0%	0.2%
男子	268	643	523	268	4
	15.7%	37.7%	30.7%	15.7%	0.2%
女子	163	577	681	159	4
	10.3%	36.4%	43.0%	10.0%	0.3%

F. 勉強に集中できるように工夫する。

	いつもしている	どちらかといふと している	どちらかといふと していない	まったく していない	無回答
全体	619	1415	956	292	7
	18.8%	43.0%	29.1%	8.9%	0.2%
男子	334	700	471	198	3
	19.6%	41.0%	27.6%	11.6%	0.2%
女子	285	715	485	94	4
	18.0%	45.1%	30.6%	5.9%	0.3%

G. 友達と問題を出し合いながら勉強をする。

	いつもしている	どちらかといふと している	どちらかといふと していない	まったく していない	無回答
全体	427	1319	1057	480	7
	13.0%	40.1%	32.1%	14.6%	0.2%
男子	243	640	518	301	4
	14.2%	37.5%	30.4%	17.6%	0.2%
女子	184	679	539	179	3
	11.6%	42.9%	34.0%	11.3%	0.2%

H. まちがえたところは、印をつけておいて後で見なおす。

	いつもしている	どちらかといふと している	どちらかといふと していない	まったく していない	無回答
全体	922	1222	789	352	5
	28.0%	37.1%	24.0%	10.7%	0.2%
男子	391	584	463	265	3
	22.9%	34.2%	27.1%	15.5%	0.2%
女子	531	638	326	87	2
	33.5%	40.3%	20.6%	5.5%	0.1%

I. たまに止まって、一度やったところを見なおす。

	いつもしている	どちらかといふと している	どちらかといふと していない	まったく していない	無回答
全体	432	1516	1023	311	8
	13.1%	46.1%	31.1%	9.5%	0.2%
男子	242	746	508	208	2
	14.2%	43.7%	29.8%	12.2%	0.1%
女子	190	770	515	103	6
	12.0%	48.6%	32.5%	6.5%	0.4%

J. 成果が上がらなかつたら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。

	いつもしている	どちらかというと している	どちらかというと していない	まったく していない	無回答
全体	337	1197	1254	496	6
	10.2%	36.4%	38.1%	15.1%	0.2%
男子	192	584	599	328	3
	11.3%	34.2%	35.1%	19.2%	0.2%
女子	145	613	655	168	3
	9.2%	38.7%	41.4%	10.6%	0.2%

(14)「勉強」という言葉からどのようなイメージをしますか？ 思い浮かべたものすべてに○をつけてください。

その他にイメージしたことがあつたら 8. その他()のところに書いてください。

	興味や関心の あることを 学ぶこと	人との かかわり方 を学ぶこと	受験のための 準備	将来役立つ 知識や 技術を 身につけること
全体	919	452	2639	1974
	27.9%	13.7%	80.2%	60.0%
男子	552	291	1279	1052
	32.4%	17.1%	75.0%	61.7%
女子	367	161	1360	922
	23.2%	10.2%	85.9%	58.2%

	今の生活に 役立つ 知識や技術を身 につけること	学校の授業	自分の生き方を 見つけること	その他
全体	1129	2088	434	427
	34.3%	63.5%	13.2%	13.0%
男子	621	957	294	235
	36.4%	56.1%	17.2%	13.8%
女子	508	1131	140	192
	32.1%	71.4%	8.8%	12.1%

資料2 神奈川県公立高等学校入学者選抜制度（平成28年度）の概要

公立高校の入学者選抜制度について

神奈川県公立高校の入学者選抜については、平成23年10月に策定した「神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改善方針」に基づき、平成9年度入学者選抜からの理念である「生徒一人ひとりの個性や能力、適性を多面的にとらえ、調査書の評定や学力検査などのいわゆる数値のみではなく、生徒の特性や長所にも着目した選抜」を継承しながら、生徒自らの志願を確かなものとするために、平成24年度入学者選抜までの「前期選抜」「後期選抜」の特性を生かしつつ2つの選抜の機会を一体化して、全課程同日程で「共通選抜」を実施します。また、公立高校における学びの場を幅広く提供するために、夜間の定時制の課程および通信制の課程においては「定通分割選抜」を実施します。

【共通選抜】

◆すべての高校の全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程で実施します。

○全日制の課程では、定員の100%を募集します。

○定時制の課程及び通信制の課程では、定員の80%を募集します。

ただし、県立平塚農業高校初声分校、県立川崎高校、県立厚木清南高校、県立横浜明朋高校、県立相模向陽館高校、横浜市立横浜総合高校及び川崎市立川崎高校の定時制の課程では、定員の100%を募集します。

○募集は、各学校の課程、学科別に行い、志願はひとつの課程、学科、コース等に限ります。

○志願変更が期間中に1回できます。

○共通選抜と同日程で連携募集、特別募集及び中途退学者募集を行います。

【定通分割選抜】

◆定時制の課程、通信制の課程で実施します。

県立平塚農業高校初声分校、県立川崎高校、県立厚木清南高校、県立横浜明朋高校、県立相模向陽館高校、横浜市立横浜総合高校及び川崎市立川崎高校の定時制の課程では実施しません。

○国公私立の高校（高等専門学校も含みます。）に合格している人は志願できません。

○定員の20%を募集します。（共通選抜で募集人員に満たなかった学校はその分を定通分割選抜の募集人員に加えます。）

○募集は、各学校の課程、学科別に行い、志願はひとつの課程、学科、コース等に限ります。

○志願変更が期間中に1回できます。

【二次募集】

◆欠員等があった場合、選抜の終了後、必要に応じて実施します。

選抜の検査について

【全日制の課程及び定時制の課程】

◆「学力検査」と「面接」を共通の検査として実施します。「特色検査」を実施する学校もあります。

（クリエイティブスクールでは学力検査は実施しません。）

○「学力検査」は課程ごとに問題が異なります。

全日制の課程の学力検査は、国語・社会・数学・理科・外国語（英語）の5教科を原則とします。特色検査を実施する学校では、3教科にまで減らすことがあります。

定時制の課程の学力検査は、国語、数学、外国語（英語）の3教科を原則とします。理科や社会を実施する学校もあります。

○「面接」は、個人面接を実施します。

○「特色検査」は、実技検査又は自己表現検査を実施します。

【通信制の課程】

- ◆ 「面接」または「作文」を実施します。(「学力検査」は実施しません。)「特色検査」を実施する学校もあります。
 - 「面接」は、個人面接を実施します。
 - 「特色検査」は、実技検査又は自己表現検査を実施します。

選考方法について

【全日制の課程及び定時制の課程】（クリエイティブスクール及びフロンティアスクールを除く。）

- ◆ 実施したすべての検査と中学校から提出された調査書の評定を活用して選考します。

○調査書の評定の扱い

A = (第2学年の9教科の評定の合計) + (第3学年の9教科の評定の合計) × 2

※教科ごとの評定合計を一定の範囲（3教科まで、各2倍以内）で重点化する場合があります。

・ Aを100点満点に換算した数値を(a)とします。

○学力検査の結果の扱い

B = 学力検査（3から5教科）の各教科の得点合計

※教科ごとの得点を一定の範囲（2教科まで、各2倍以内）で重点化する場合があります。

・ Bを100点満点に換算した数値を(b)とします。

○面接の結果の扱い

C = 観点ごとの得点合計

・ Cを100点満点に換算した数値を(c)とします

○特色検査の結果の扱い

D = 観点ごとの得点合計

・ Dを100点満点に換算した数値を(d)とします。

- ◆ 第1次選考…次の数値S 1により募集人員の90%まで選考します。

○合計数値S 1の算出式

S 1 = (a) × f + (b) × g + (c) × h (f、g、hは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし
各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、S 1' = (a) × f + (b) × g + (c) × h + (d) × i
(iは1以上5以下の整数)

○資料の整わない者の選考

参考にできる資料に基づいて、第1次選考の合格者と比較して選考します。

- ◆ 第2次選考…「第1次選考」及び「資料の整わない者の選考」において合格となっていない者の中から次の数値S 2により募集人員まで選考します。

●合計数値S 2の算出式

S 2 = (b) × g' + (c) × h' (g'、h'は合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、S 2' = (b) × g' + (c) × h' + (d) × i'
(i'は1以上5以下の整数)

【クリエイティブスクール】（県立田奈高校、県立釜利谷高校、県立大楠高校）

- ◆実施したすべての検査と中学校から提出された調査書の観点別学習状況を資料として総合的選考を実施します。
※資料の整わない者については、参考にできる資料を活用して適正に選考します。

【フロンティアスクール】（県立横浜明朋高校、県立相模向陽館高校）

- ◆実施したすべての検査を資料として総合的選考を実施します。ただし、中学校から 提出された調査書の観点別学習状況を資料とすることがあります。

※資料の整わない者については、参考にできる資料を活用して適正に選考します。

【通信制の課程】

- ◆実施したすべての検査と中学校から提出された調査書を資料として総合的選考を実施します。

※資料の整わない者については、参考にできる資料を活用して適正に選考します。

通学区域について

【県立及び横須賀市立の高等学校】

- ◆県内どこからでも志願できます。

【横浜市立及び川崎市立の高等学校】

- ◆それぞれの市内を学区としている学校・学科があります。（ただし、学区のある学校においては、学区外からでも募集定員の一定の割合まで入学できる枠を設けています。）

【横浜市立の高等学校】

- ・一部の学校・学科を除き、横浜市内が学区となります。

※学区のない学校・学科・コース：

横浜商業高校・全学科及び別科

横浜サイエンスプロンティア高校・理数科

戸塚高校・全日制の課程普通科音楽コース

戸塚高校・定時制の課程普通科

（平成27年5月1日現在）

【川崎市立の高等学校】

- ・普通科（全日制・定時制の課程）は川崎市内が学区となります。

◎特別募集及び中途退学者募集においては、学区はありません。

神奈川県ホームページより 掲載日：2015年7月10日

資料3 《50年間の主な出来事》

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県の動き〈数字〉高校等進学率%*	国の動き	社会のようすなど
1965 第1回調査 S40	自醸をめざす道徳教育(明治中)	県外で教員採用試験、教育センター開所県内定時制高校在籍者2万人で最高(78.3)	中教審「期待される人間像」中間草案発表 小・中学力調査	ベトナム戦争激化米軍介入
1966 S41	各教科學習指導の問題点(第一中)	小中学校47人編成校長会・神教組中学補習授業廃止	教課審「愛国心を中心とした教育課程の基本方針」 全国一斉学力調査実施	国民祝日法改正(敬老、体育、建国記念の日新設)
1967 S42	個を見つめ個を生かす指導はどうに進めたらよいか(片瀬中)	小学校教員確保のため研修制度を作る	教課審「小学校の教育課程改善について」答申	藤沢市民会館完成 藤沢市原返還協定調印
1968 S43	積極的な学習指導をおじ進め効果的な学習指導をするにはどうしたらよいか(鶴ヶ岡中)	県立体育センター開所、神奈川方式(全学年の成績・ア・テスト・入試を選抜資料に)神奈川自然保護連盟結成中学校第3学年10段階評定	大学紛争、安田講堂事件、文化庁発足 教課審「中学校教育課程改善について」答申	小笠原遷地協定調印
1969 S44	中学校における学級経営についての研究(鶴沼中)	中学校学習指導要領全面改訂教科書無償配布、高校紛争	中学校学習指導要領全面改訂教科書無償配布	アポロ11号月着陸
1970 S45 第2回調査	数学科の新しい指導法(湘洋中)	公立学校長 県教育研修会を結成 〈90.3〉	教育白書「わが国の教育水準」発表(生涯教育の視点から制度改革を強調)	万国博覧会(大阪)開幕 県初、光化学スマッグ被害
1971 S46	活気ある生徒を育てるための特別活動の組織と実践(御所見中)	学校職員給与に関する条例の一部改正	中教審答申「第三の教育改革」、小・中学校指導要領 部改訂(公教育方針明確化)	沖縄返還協定調印
1972 S47	特別活動における生徒指導のあり方(明治中)	公立高校入試改善(中1ア・テスト除外)	生涯教育の提高(第3回世界成人教育会議) 知育偏重是正の通達	児童手当法公布 テレビ神奈川開局
1973 S48	学習指導の改善・協力指導組織とその運営－第一中) *高浜中開校	公立高校入試で偏差値を使用 百校計画(55年度までに60校)開始	学校教育の水準の維持向上のための人材確保法国会に提出	冬季オリエンティック札幌大会 狂乱物語
1974 S49 第3回調査	道徳を中心とした3領域指導の充実をどうはかるか(鶴ヶ岡中)	小学校に訪問指導学級(児童に学籍)	人材確保法、教員職法制定	江崎玲於奈氏ノーベル物理学賞
1975 S50	学習指導の改善(六会中)	県教委高校入試学力試験の結果を公表 〈94.3〉	主任制度の次官通達	佐藤栄作氏ノーベル平和賞
1976 S51	意欲を引き出す教育計画と実践(片瀬中)	来年度から1ア・テスト中止を発表	教課審「教育課程の基準について」 (答申)ゆとりある教育	市「太陽の家」開設 ベトナム戦争終わる
1977 S52	いきいきと教育活動に取り組ませるために協力的な生活態度の育成(鶴沼中)	修学校制度発足 来年度県立高定員 12学級定員10校	時間削減 小中指導要領全面改訂告示(德育・体育の重視、ゆとりの時間創設)	国研 調査結果から思考力低下を指摘、日本人の平均寿命世界一に
1978 S53	協力的な生活態度の育成(鶴沼中)	県教組「教育白書」小中学生の半数が通塾	国公立大学共通一次入試実施	警察行少年非行戦後第三のビーカと発表、
1979 S54	生徒理解に立った学習指導、生活指導(湘洋中)	学校改編、選抜方針の改善を基本に 学校主任制を実施	中教審「教員の資質能力の向上について」答申	中日平和友好条約調印
1980 S55 第4回調査	新教育課程の研究－ゆとりの時間の活用－(明治中)	県立高校入試で職業科に推薦入学・特記事項の欄 県知事「県民の間で騒然たる教育論議を」と 表明 〈94.4〉	職員定数改訂(40人学級)、養護学校義務制 指導要領改訂(観点別学習状況の欄)	国際児童年
1981 S56	教材の分析系統化による到達点の明確化(高浜中)	「神奈川の教育を考える連絡協議会」発足、 学区改編9から16学区に	文部省「中野区教育委員会条例について」通知	藤沢市の人口30万人 藤沢市内暴力・いじめ・登校拒否が社会問題化、 国際障害者年
1982 S57	学習活動を活発にし、基礎学力の向上を図る(御所見中)	「かながわ女性プラン」発表 第二教育センター開所	中学校教育課程全面実施 中教審「生涯教育について」答申	藤沢市核兵器廃絶和平都市宣言 藤沢市教育文化センター発足
1983 S58	ふれあい教育推進、交流西・東高校開校個性ある高校づくり、県情報公開制度実施	ふれあい教育推進、交流西・東高校開校個性ある高校づくり、県情報公開制度実施	文部省新「学力調査」(小5、6年国・算) 新「学力調査」を中3年実施、中教審教育内容等小委員会審議経過報告(中学校の多様化)	市役所新庁舎完成藤沢市科学少年団発足
1984 S59	人権教育の指導とその展開をいかに進めるか(秋葉台中)	県立高校教育問題協議会「高校入試制度改善 案」を答申	臨教審発足(個性重視、生涯学習体系へ移行) 他)公立高校中退者S53以降過去最高となる	

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県の動き〈数字〉高校等進学率%*	国の動き	社会のようすなど
1985 S60 第5回調査	心豊かな人間の育成をめざして(大庭中)	教育内に「いじめ対策 検討会議設置・か ながわ生涯教育推進会議の設置 〈94.1〉	臨教審答申(個性重視、徳育重視、学歴社会 の重視)	君が代、目の丸徹底通知、男女雇用機会均等 法、ファミミコンブーム
1986 S61	*羽鳥中開校	県教育問題懇話会「新しい段階をむかえた 『ふれあい教育運動』報告	臨教審答申(生涯学習体系への移行)	チエルノブリ原発事故、校内暴力沈静化、 登校拒否・いじめ増
1987 S62	わかる授業をめざしてー学習意欲を高めるー (村岡中)	県義務教育研究協議会「進路指導のあり方 について」、百校計画完成	臨教審答申(魅力ある地域づくりの推進) 教育課程基準の改善について)	国教分野民営化 INF(中距離核戦力)全廃条約調印 利根川進氏ノーベル生理医学賞
1988 S63	すべての生徒が生き生きとする授業づくり をめざして(湘南台中)	県内中学校卒業者12.2万人でピーク	教員免許法改正、初任者研修の制度化 教員免許法を生涯学習局に	消費税法成立 青函トンネル・瀬戸大橋開通
1989 H1 第6回調査	生き生きとした授業一進んで学ぶ生徒をめ ざしてー(高倉中)	県教育懇談会「翔べ! 神奈川の子どもたち」 を報告	小・中・高学年指導要領改訂(小・生活科 導入、中／習熟度別学級編成導入)	ベルリンの壁崩壊、国連総会「子どもの権利 条約」採択
1990 H2	豊かな人間性を育てる生徒指導(滝の沢中)	県の個人情報保護条例施行 〈95.2〉	日の丸・君が代の義務化中教審「生涯学習 基盤整備について」答申	東西ドイツ統一市制50周年
1991 H3 第1回調査	心、豊かな生徒を育てる(大清水中)	公私立高校の中途退学者12万人台を超える	中教審答申、指導要領改訂(絶対評価中心へ) PKO協力法成立、カンボジアへ派遣、地球サ ービス	湾岸戦争 南ア人種差別法廃止
1992 H4	開かれた学校をめざして(羽鳥中)	小学校で「生活科」新設 〈95.2〉	学級五日制の導入(95年より月2回) 学校基本調査(登校拒否<年間30日以上欠席> 児童生徒72,000人)	START II(戦略兵器削減条約)調印 EU発足
1993 H5 第7回調査	一人ひとりを生かした学習指導について (第一中)	県高等学校教育課題研究協議会「高校への 進学機会のあり方について」報告	新党ブーム、国際家族年 大江健三郎氏ノーベル文学賞	児童の権利に関する条約公布・発効
1994 H6 第8回調査	意欲を育て全員参加の授業をめざして(明 治中)	「県公立高等学校入学者選抜制度改正大綱」 制定 入りたい高校へ志願できるように	阪神淡路大震災 オウム真理教 地下鉄サリン事件 震	単位制の神奈川総合高校設置、県立高校普 通科専門コースでも推薦入試** 〈95.6〉
1995 H7 第9回調査	豊かな心を育むボランティア教育の実践 (鵠沼中)	文部省と科学技術省による「21世紀展望した我が 国の教育のあり方について」を諮問	中教審答申(「生きる力」の育成と「ゆとり」) の確保	中教審答申(「生きる力」の育成と「ゆとり」) の確保
1996 H8 第10回調査	自ら学ぶ意欲のある生徒の育成(六会中)	県立高校入試複数志願制導入 ア・テスト結果を選抜資料としない	文部省「飛び級制度」の省令改正 香港がイギリスより返還	0157による食中毒全国で発生 食
1997 H9 (片瀬中)	生徒の主体的活動の拡大・充実をめざして	県立高校将来構想検討協議会設置	地球温暖化防止京都会議 倒	香港がイギリスより返還
1998 H10 第11回調査	目の輝きを大切にする授業をめざして(御 所見中)	県立高校将来構想検討協議会「これからの 県立高校のあり方にについて」答申	中教審「心の教育、新学習指導要領告示(教 育内容の厳選、総合的な学習の創設など) の改善」 かなかがわ・ゆめ国体 毒	かなかがわ・ゆめ国体 毒
1999 H11 第12回調査	かがやくまなざしー自己教育力向上への支 援をめざしてー(湘洋中)	県教育庁「県立高校改革推進計画案ー活力 と魅力ある県立高校をめざしてー」 答申	中教審「初等中等教育と高等教育の接続 の改善」 文部省と科学技術省による「21世紀展望した我が 国の教育のあり方について」 の改善	男女共同参画社会基本法公布 白川英樹氏ノーベル化学賞受賞 金
2000 H12 第13回調査	自己をひらき(開き、拓き)、他との響き合 いを求めて(長後中)	高校再編前期計画スタート 県立入試学区外枠8%→25%に 〈97.2〉	中教審「少子化と教育について」 中教審答申(「今後の教員免許制度の在り方ににつ いて」) 文部省「今後の教員免許制度の在り方ににつ いて」	日の丸・君が代法制化 白川英樹氏ノーベル化学賞受賞 金
2001 H13 第14回調査	「共に生きることのできる生徒の育成」 ~総合的な学習の時間の研究~(藤ヶ岡中)	学区検討委「入学者選抜制の改善と今後の 学区のありかたについて」 答申	小中学生習指導要領全面実施・完全学校五日制 実施・「心のノート」を全国小中学生の配付 高浜良治氏ノーベル物理学賞・田中耕一氏 帰	大阪教育大学附属池田小学校事件 野依良治氏ノーベル化学賞受賞 金
2002 H14 第15回調査	時代の変化に対応し、やわらかな思考を持つ て学び続ける(高浜中)	教育センター第二教育センター設置 合し県立総合教育センター設置	小柴昌俊氏ノーベル物理学賞・拉致被害者帰国 虎	自衛隊イラク派遣 おそれ詐欺横行
2003 H15 第16回調査	かかわり、表現し、ふりかえる 学びの創造 教科・総合的な学習の時間の時間を通して(善行中)	森のきんたろうキヤンプ、スタート 県立学校初の民間人校長(横浜清陵総合高)	「自己を拓く」ー自分さがし・生き方さがしー 入学者選抜、前期・後期、一段階選抜の実施 県立高校改革推進計画 後期実施計画策定 (最終まとめ)策定	[PISA2003]の結果公表、読解力話題に國立 災
2004 H16 第17回調査	「自己を拓く」ー自分さがし・生き方さがしー (秋葉台中)			大学法人化

年度	藤沢市立中学校研究推進校の研究テーマ等	神奈川県の動き〈数字〉高校等進学率%*	国の動き	社会のようすなど
2005 H17 第9回調査	思考力・判断力に着目した学習指導の工夫 「考え方、かかわりあい、深める」活動を通して- (大庭中)市内中・特別支援学校にて、2期制 を導入	県教委、教育庁を教育局に組織改正 全県高等学校区撒廃 <97.9>	「栄養教諭」制度創設・「教育改革のための 重点行動計画—どこの子にも豊かな教育を—」 改正教育基本法成立	愛・地球博(愛知万博)開催 愛
2006 H18	「子どもの可能性を広げるはたらきかけの 在り方を探る」(白浜養護)	教育再生会議設置「いいじめ問題への緊急提言」 改正教育基本法成立	秋篠宮家、41年ぶり皇室に男子誕生郵政 年金偽装、食品表示偽装問題	宮化閣連法案成立 命 偽
2007 H19	教師にとつての授業、生徒にとつての授業 ～リフレクションによる授業研究～(付岡 中)	全国学力・学習状況調査実施 小学校・中学校新しい指導要領公示	藤沢市の人口40万人	藤沢市人口40万人 変
2008 H20	「自ら学ぶ力を育てる」～問題解決的な学習 過程を取り入れた授業づくり～(湘南台中)	教育振興基本計画策定 全国体力・運動能力・運動習慣等調査実施	下村脩氏ノーベル化学賞・小林誠氏、益川 敏英氏ノーベル物理学賞受賞 リーマンショック	民主党による政権交代 事業仕分け 新型インフルエンザ大流行 新
2009 H21 第10回調査	学びに向かう子どもたちの育成(高倉中)	県立中等教育学校2校開校 スクールライフサポート派遣事業開始	「教員免許更新制の今後の方針について」 「教員免許更新制の今後の方針について」	民主党政権交替 事業仕分け 夏の猛暑・官崎県口蹄疫 新
2010 H22	「子どもも一人ひとりが、自己肯定感をもつこ とのできる授業」をめざして(滝の沢中) 市内中学校にて、放課後学習支援事業導入	県立高校教育向上推進事業開始 <98.3>	高等学校授業料無償化	鈴木卓氏、根岸英一氏ノーベル化学賞受賞・ 夏の猛暑 署
2011 H23	「授業で充実感を持ち、意欲的に学ぶ生徒の 事例の集積と共有化」(天晴水中学)	「神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改 善方針」策定	小学校学習指導要領実施外国語活動導入	東日本大震災 東電福島第一原発事故 絆
2012 H24	「言語活動をとおして表現しようとする力 をつける」～未来に生きる力の育成～(羽 鳥中学校)	「神奈川グランドデザイン基本構想策定 普方針」策定	中学校学習指導要領実行プラン 大学改革実行プラン	山中伸弥氏ノーベル生理学・医学賞 東京スカイツリーオープン 金
2013 H25	「人とのかかわりの中で、一人ひとりがいき 育む～(第一中)	入学選抜制度改革方針に基づき、「共通選抜」、 「学力検査・面接」、一部の学校では「特色検 査」を実施	教育再生実行会議設置	特定秘密保護法 富士山世界遺産登録 2020年東京五輪招致 輪
2014 H26 第11回調査	「豊かな心を育む言語活動」～生きる力の育 成を目指して～(明治中)	中教審「小中一貫教育の制度化及び総合的 な推進方策」	御嶽山噴火、富岡製錬場世界遺産登録 赤崎勇氏・天野浩氏ノーベル物理学賞、 消費税率8%	赤崎勇氏・天野浩氏ノーベル物理学賞、 理学賞、マイナンバー通知開始 安
2015 H27	思いやりの心を育む教育活動の推進 思いやる力・聴く力・感じる力； 思いやる力の育成～(鶴沼中)	小中一貫教育校モデル校導入 県立高校改革全体計画・実施計画(1期) <99.0>	中教審「これからの中学校教育を担う教員の 資質能力の向上について～学び合い、高め 合う教員養成コミュニケーションの構築について」	安全保障関連法公決、大森智氏ノーベル物理学 賞、医学賞、樋田隆章氏ノーベル物理学 賞、マイナンバー通知開始 ほか

* 高校等進学率 県の統計資料から(専修学校進学者は1976(S51)より公共職業能力開発施設等は1977(S52)より調査対象となり数字に含まれる)

** 神奈川県の動きのうち、入試関連の事項は実際に行われた年度に記載した。

【参考資料】 ○『神奈川県史別巻3 年表』 神奈川県 1982 ○『日本教育史年表』伊ヶ崎暎生・松島栄一編著 三省堂 1990 ○『神奈川の教育 戦後30年のあゆみ 教育委員会発足30周年記念誌』県教育委員会 1979 ○『藤沢市教育史年表更覧』 藤沢市教育文化センター 1994 ○『これからの県立高校のあり方にについて(答申)』県立高校将来構想検討協議会 1998 ○『活力と魅力ある県立高校をめざして』 県立高校改革推進計画案 神奈川県教育庁 1999 ○『神奈川県教育文化研究所 十年史』 神奈川県教育文化研究所 1991 ○『最新教育キーワード137』望月重信他 編著 時事通信社 1995 ○『最新教育キーワード137』望月重信他 編著 時事通信社 1995 ○『ふじさわ社会科資料集』 藤沢市教育委員会 2000 ほか、1983

おわりに

1965年に始まったこの調査も、50年の時を経て、今回で11回目を迎えました。実に半世紀もの間、中学校3年生の姿を追い続けてきましたことになります。

今回は、これまで常に注目されてきた「勉強の意欲」の結果が、増加に転じました。大変喜ばしいことかと思われましたが、同様に「勉強はもうしたくない」という生徒たちも増加しています。さらには、意欲とともに増加してほしい「勉強についていく自信」については、低いままです。生徒の「もっと勉強したい」という回答の裏には、受験への意識がさらに強まり、目の前の高校受験に失敗するわけにはいかないという気持ちが見え隠れしています。私たちが、本当に子どもたちに感じてほしかった「もっと勉強したい」はそういう気持ちであったのでしょうか。「新しいことを知りたい」「なぜを追求したい」「自分の思いを伝えたい」「友だちの考えを知りたい」 そうした学びの喜びを感じての「もっと勉強したい」となるために、何ができるのかを考えていく必要があるでしょう。

こうした勉強の意欲の増加と呼応するかのように、「学校の中で一番大切に思うもの」では、「友達づきあい」と答える生徒の割合が減少し、代わりに「勉強」と応える生徒の割合が増加しました。また、選択肢の中の「その他」への生徒の記述を読んでいくと、「全て」「選べない」という回答が見られました。割合にすると1%ではありますが、もしかすると、悩みながらも一つに丸をつけた生徒もいたかもしれません。これから学校が、「勉強」を大切にすることで「友達づきあい」から離れていくものではなく、授業の中でも、友達とのかかわりが大切にされることを期待します。

さて、今回の新設項目「学習方略」では、「勉強の意欲」との関連が示されました。私たち大人は、子どもたちが勉強していることに対し、結果だけではなく、過程を見ていく必要があるということは十分理解しています。とはいえ、勉強している過程とは、何でしょうか。もちろん、「一生懸命取り組んでいる」姿をとらえることは大切なことです。しかし、今後は「やったかどうか」だけでなく、「どのようにやったか」、つまり過程の中身にももっと注目する必要を感じます。子どもたちは、時間をかけて勉強したのに結果がよくないと、がっかりします。「こんなに頑張ったのに…」と悩む子どもに対し、「結果なんて気にしないで。頑張ったんだから、いいじゃない」と伝えるだけではなく、学習のやり方には様々な方法があることや、自分に合ったやり方は人それぞれ違い、他の人と同じようにやっても同じ効果が出ないことがあると伝えることはできるでしょう。自分に合った学習方法を見つけることも、私たちが望む「もっと勉強したい」に近づく一步になるのではないかと考えます。そして、「勉強してもできないのは自分の能力が足りないからだ」と苦しんでいた子どもたちを救う一つの手立てとなるのではないかと思うのです。

一方で、そもそも子どもたちが感じ、時には苦しむ「できる」「できない」とはいったい何によるものなのかを考えたとき、それは私たち大人から子どもたちへ投げかけられる日々の評価(言葉がけや態度も含む)によって作られているようにも思うのです。学校や家庭、そして社会が子どもたちに対して示す評価そのものも、変わっていく必要があるのかもしれないと思います。

教育観のパラダイムシフトが迫られていると謳われてから四半世紀、この間、少しづつではありますが、学校や家庭の教育観は変わってきたといえます。しかし、子どもたちを送り出す先にある世界の変化のスピードは、今後ますます速くなるでしょう。学校や家庭の外に広がる世界の大きな変化を私たちはどれだけとらえることができるのでしょうか。そして、どんな変化にも対応できる力とは何でしょうか。どんな変化があつたとしても身に付けさせたい変わらぬ力とは何でしょうか。調査が始まって50年が経ちます。この先50年経っても役に立つ力を育していくために、私たち自身の姿勢を問い合わせなければなりません。学校を出た後に子どもたちを待っている世界は、学校の変化を待っていてはくれません。

今回の結果を見て、多くの人々が、それぞれの立場でかかわる子どもたちの姿と重ね、子どもたちがよりよい学びの場に身を置き、生涯にわたって考え続ける人でありたいと思えるよう、今後の教育活動に生かしていただけたら幸いです。

(藤内 美穂)

教育課題調査研究部会

研究員

三木 匡仁（藤沢市立大鋸小学校教諭）
高野 俊明（藤沢市立駒寄小学校教諭）
林 雅樹（藤沢市立富士見台小学校教諭）
下重 理敬（藤沢市立長後中学校教諭）
小原 元樹（藤沢市立羽鳥中学校教諭）
相原 威（藤沢市私立幼稚園協会監事）
植田 裕子（保護者）
丹羽めぐみ（保護者）

講師

山崎 瑞紀（東京都市大学メディア情報学部准教授）

担当所員

上條 茂（センター長）
藤内 美穂（指導主事）
佐々木柿己（主任研究員）
目黒 悟（主任研究員）
松本あんな（教育課題調査研究業務員）

データ入力

谷川美津江

八木橋富三子

2015年(平成27年)実施
第11回「学習意識調査」報告書
—藤沢市立中学校3年生の学習意識—

2016年3月編集発行

藤沢市教育文化センター

神奈川県藤沢市大鋸1407-1

TEL 0466-50-8300

FAX 0466-82-4764

E-Mail: kyobun-c@city.fujisawa.kanagawa.jp

URL: <http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/kyobun-c/>

印刷所 湘南グッド

